

### 第四節 グロース、ゲルシエン (Gross Gorschach) 會戰ニ 關スル終末ノ觀察並第四、第五、問題原案

本遭遇戰ニ關シテハ既ニ概要研究シ問題ヲ設ケ觀察スル所アリシカ尙會戰其モノニ關シテハ余ノ所見ヲ述ヘント欲スル所多キヲ以テ更ニ著シク重複セサル範圍ニ於テ若干ノ觀察ヲ試ミ且ツ併テ第四、第五問題「Gross Gorschach 會戰ノ教訓」「Gross Gorschach ノ遭遇戰ニ於ケル奈翁戰團指導ノ特徵並ニ其觀察」ニ關スル原案ノ大要ヲ述フルコトトセリ

其ノ一、會戰勝敗ノ主要原因及奈翁並ウイットゲンシュタインノ會戰統帥ニ付テ

一般ノ戰略的情況ハ奈翁ニ有利ト認メ難ク奈翁ノ兵力ハ連合軍ニ比シ優勢ナリシモ其素質劣等ナリ而シテ奈軍カライブツヒニ向ヒ分離の姿勢ニ於テ前進中、不意ニ連合軍ノ側面攻撃ニヨリ生セル會戰ニ於テ、奈翁カ能ク勝利ヲ得タルハ主トシテ奈翁決心ノ至當且迅速ナリシト會戰指揮ノ概シテ要ヲ得タルト連合軍ノ攻勢ノ時機及方向並ニ實施ノ方法適切ヲ缺キタルニ依ル今少シク之ヲ具體的ニ説明スレハ左ノ如シ

A、奈翁ノ會戰當初ニ於ケル決心及會戰ノ指揮ニ付テ

一、奈翁ハ連合軍ノ攻勢ヲ知ルヤ適當ニ情況ヲ判斷シ猶豫ナク迅速ニ果敢ナル決心ヲナシ現在

ハ隊勢ヲ利用シ連合軍ヲ包圍的ニ攻撃セントシ優勢ナル兵力ヲ戰場ニ向ヒ集中セシメタリ不利ノ形勢ニ臨ミ斷乎トシテ正當ニ決心シ且恰モ機先ヲ制セントスル連合軍ニ對シ迅速果敢ニ最モ有効ナル對抗手段ヲ取り、戰勢ヲ有利ニ導キ得タルハ賞讃ニ値スヘキモノニシテ奈翁ノ不規的遭遇戰ニ對スル統帥的手腕ノ非凡ナルヲ認メシム

二、戰場ニ先行シ能ク速ニ情況ヲ觀察シテ戰團指導ノ方針ヲ確立シタルハ遭遇戰指導ニ於ケル指揮官動作ノ好模範タリ、而シテ此際彼ハ戰場ニ來援セル部隊ヲ直ニ戰團ノ渦中ニ投入スルコトナク第四、第十一軍團ヲ以テ敵ノ兩翼ヲ攻撃シテ第三軍團ト策應セシメ且巧ミニ敵ノ過失ヲ利用シ部隊ヲ村落戰ニ投入スルコトヲ避ケ却テ連合軍ヲシテ依然其兵力ヲ不利ナル村落戰ニ消耗セシメ決戰ノ機熟スルヤ斷乎トシテ新銳ノ大豫備隊ヲ使用シ勝敗ヲ一舉ニ決セントセリ

連合軍ハ此ノ如クニシテ正面ノミナラス側背ニ壓迫ヲ加ヘラレタリ會戰ノ爲メノ兵力使用ニ關スル意見ハ既ニ余ノ原案ニ述タル所ナルカ奈翁ノ兵力使用ハ素質劣等ナル部隊ヲ以テシテハ運用巧妙ニ失スルノ恐れアリ、又子一第三軍團ニ一部ノ援助ヲ與フルコトナクシテ危機ヲ醸生シ又遠ク大豫備隊ヲ控置シ又遅ク其決戰ヲ指導シテ所期ヲ如ク大勝ヲ得ルノ時間ヲ缺如スルニ至レリ寧ろ余ノ述タルカ如ク決意殲滅的ニ戰團ヲ指



導スルヲ却テ一層有利ナリトセン、蓋シ此ノ如キ奈翁ノ戰法ハ稍攻勢防禦的傾向ヲ加味ス彼カ既往幾百ノ實戰的修養ト天賦ノ統帥的才能トニヨリ勝敗分岐ノ機勢ヲ明察セル奈翁ノ戰闘指導ハ固ヨリ一種ノ考案ナリト雖モ吾人ハ既述ノ理由ニ依リ同意ヲ表スル能ハス

三、奈翁統帥ノ冷靜ニシテ戰況ニ眩惑セラレス能ク斷乎トシテ兵力ヲ運用シタルハ吾人能ク其精神ヲ學ハサル可ラス

彼レカ危殆悲慘ノ戰況ニ拘ラス之ニ眩惑セラレス、冷靜自ラ持シ能ク大局ニ着眼シ、隱忍シテ所定ノ方針ヲ斷行シタルハ着目スヘシ

B、ウイットゲンシュタインノ會戰當初ニ於ケル決心及會戰ノ指揮ニ付テ

一、ウイットゲンシュタインノ會戰當初ニ於ケル決心ハ連合軍攻勢ノ價值判斷ニ於テ其攻勢ノ時機、方向及價值ニ關シ余ノ意見ヲ述タルヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘス

二、ウイットゲンシュタインノ攻勢的決心ハ之ヲ果敢迅速ニ實行セハ當時奈翁ノ配置上尙奏功ノ見込アリシニ拘ラス其 Erster 及 Floss Graben ノ渡河大ニ遲緩シ且ツ Werben-Domsen ノ正面ニ開進シタル如キハ甚タ不可ナリ、迅速果敢ナル攻撃ヲ必要トス此情況ニ於テ巧妙ノ思ヒ慎重ニ失スルカ如キハ嚴禁ナリ

本會戰ノ教訓ノ二、三所見及所感附記

又其軍ヲ Starsiedel-Gross Görschen 間ノ街道ニ向ハシメヌシテ村落ニ注入シ遲緩混亂セル戰闘ヲ行ヒシハ適當ナラス(一般ノ兵力使用ニ關シテハ既述余ノ原案ヲ參照スヘシ)

三、戰闘ハ此ノ如クニシテ混亂百出指揮官ハ全ク全般ノ達觀ヲナスコトヲ得スシテ戰闘ノ統帥全ク意ノ如クナラス遂ニ敵ノ行動ニ餘儀ナクセラレ、全ク受動的ニ動作スルニ至リシハ連合軍ノ爲メ惜ムヘシ

四、連合軍ハ優勢ナル騎兵ヲ使用シテ敵ヲ困難ナル情況ニ陥ラシムルヲ得タリシニ之ヲ怠リシハ不可ナリ

其ノ二、本會戰教訓ノ二三竝所見及所感餘錄

一、高等指揮官ハ一度戰況ノ好機ヲ發見セハ速ニ決心シ斷乎トシテ行動シ全力ヲ盡シテ一意決心ノ遂行ニ努力セサル可カラス、遭遇戰ニ於テ遲緩ナル開進ヲ行ヒ、次テ攻撃ヲ實施スル如キハ不可ナリ

ウイットゲンシュタインノ攻勢的決心ハ優勢軍ニ對スル寡弱軍ノ戰法トシテ勇敢壯烈、誠ニ賞讃ニ値スルモ攻勢實施ノ時機殊ニ其遂行遲緩シ悠々軍ヲ開進セシメタルカ如キハ全ク目的ト情況ニ適合セス決心ト處置トハ能ク相平行調和シテ實行セラレサル可ラス

二、側面ニ對スル攻撃ハ敵カ展開セル場合ニ於テ其効果甚タ大ナルモ、敵ノ大ナル縱長ノ姿勢

グロースゲルシエンノ遭遇戰



ニ對シテハ却テ敵ヨリ包圍ヲ受クルノ害アリ、然レ此ノ如キ攻撃ハ敵ノ意圖外ニ出テ機先ヲ制シ其背後ニ對スル不安竝ニ交戰部署ヲ困難ナラシムル利益アリ而シテ此ノ如キ攻撃ノ要訣ハ不意ニシテ一舉迅速果敢ナル攻撃ヲ行フニ在リ慎重、巧妙、緩漫ハ嚴禁ナリ

五月一日乃至二日ノ情況ニ於テハ佛軍ノ危險ハ寧ロ正面タル「5.25.05」方面ニ在リ、連合軍ノ開進及遲緩ナル側面攻撃ハ大ナル縱長ノ姿勢ニ在リシ佛軍ヨリ却テ包圍セラレタリ然レテ奈翁ノ統帥的手腕ハ能ク敵ニ對シ有効ナル對抗手段ヲ取ルコトヲ得セシメタリ

三、軍ノ前進運動ハ既ニ大体ニ於ケル戰鬪ノ基礎配備ノ骨幹ヲナスモノニシテ不良ナル前進計畫ハ良好ニ戰鬪ヲ指導スル能ハサルニ至ルモノトス、五月二日奈翁ハ連合軍ノ攻撃ヲ豫期セサリシト雖モ果然其不意ノ攻撃ヲ受ケテ失敗セサリシハ一面ニ於テ彼カ一般ノ形勢ヲ按

シ兵力集結ノ爲メ細心計畫セシ適當ナル前進運動ノ預テカアリトス  
四、敵情判斷ハ臆測ヲ許サス、至當ニシテ公算大ナル敵ノ行動ヲ打算スヘク又將帥ハ常ニ自己ハ斷乎タル策案ヲ敵ニ強制スル所ナカル可ラス、奈翁五月二日ノ敵情判斷ハ臆測ナリ、隨テ其考慮セラレタル前進運動ニハ缺點ナシトセス而カモ之ヲ救済シ得タルハ彼ノ機變ニ處スル天才的能力ニ依ルコト大ナリ

五、高級指揮官ハ軍ヲ統帥スルニ最モ便ニシテ作戰上最モ重要ノ方面ニ位置セサル可ラス然ラ

サレハ容易ニ部下ヲ掌裡ヨリ脱スルニ至ルヘシ

奈翁此日ノ位置ハ吾人ノ同意スル能ハサル所ナルモ遭遇戰ニ際シ彼カ電馳要點ニ赴キ戰鬪ヲ統帥シタルハ敬服ニ値ス

六、軍ノ遭遇戰ニ於テハ特ニ高級指揮官ノ迅速ニ情況ヲ判斷シ、速ニ決心シ、優勢ナル兵力ヲ主要戰場ニ招致シ、自ラ會戰地ノ要點ニ急進シ、情況ヲ遂觀シ、次テ到着スヘキ軍隊ヲ部署シ全般ノ戰鬪ヲ統帥スルコト必要ナリ奈翁ノ統帥ハ能ク此原則ニ合シ方今ノ會戰ニ於テ又之ヲ應用シ得ヘシ

本會戰ニ於テ奈翁ハ能ク這般ノ好模範ヲ垂レタリ

七、軍ニシテ決戰ヲ企圖スル場合ニ於テハ之ヲ村落、又ハ森林以外ニ於テ戰鬪ヲ指導スルヲ要ス殊ニ遭遇戰的戰鬪ニ於テ大兵ヲ村落内ニ注入スルハ誤謬ナリ村落ハ攻防兩者ノ據點トナリ又村落内ノ戰鬪ハ指揮困難ニシテ、軍隊ハ容易ニ指揮官ノ掌裡ヲ脱逸シ混亂不規ノ戰鬪ヲ惹起ス

連合軍ノ大兵力ヲ村落内ニ注入シテ消耗戰ヲナシタルハ情況及目的ニ適合セサル誤謬ニシテ予一軍團カ新募ノ兵ヲ以テ諸村落ヲ利用シ衆敵ヲ拒止シ得タルハ村落戰鬪カ韌強性ヲ帶ヒ決戰ニ適セサルハ證ナリ



八、遭遇戰ノ戰況ハ各種多樣ナリ、又其戰鬪指導法モ千變萬化ニシテ決シテ一定ノ方式ヲ以テ律ス可ラス

凡ソ遭遇戰ニ於テハ最初ヨリ敵ニ優ル兵力ヲ使用シ攻撃ヲ實施スルヲ要スルモ本會戰ノ如キ奈翁ノ戰鬪指導法モ亦一種ノ運用法トス

連合軍カ機先ヲ制シテ攻勢ヲ取り先ツネ一軍團ヲ攻撃スルヤ戰場ニ向ヒ急進シ來レル奈翁ハ一部ヲ以テ直チニテ一軍團ヲ増援スルノ必要ニ際會セリ即チ機先ヲ制シタル敵ニ對シ一部ノ逐次加入増加ヲナスト同時ニ一舉敵ノ兩側ヲ攻撃シテ戰況ヲ一變シ連合軍ヲ擊摧スルヲ必要トセリ然ルニ奈翁ハテ一軍團ヲシテ村落戰ニ於テ消耗戰ヲナサシメ大豫備隊ヲ控置シ後彼レ特有ノ戰法ヲ以テ決戰ヲ企圖シ勝利ヲ博セリ戰鬪ノ指導法ハ決シテ唯一ニアラス又同會戰ノ戰況ハ遭遇戰ニ於テ佛軍ハ敵ヲ包圍的ニ攻撃スルヲ良トセリ、遭遇戰ニハ包圍ナシト論スル如キハ塗板上ノ戰術ノミ

九、消耗戰、大豫備隊、然ル後斷乎タル決戰テフ奈翁ノ好シテ取レル一種特有ノ戰法ハ常ニ必スシモ奏功スヘキニアラス、帥兵ハ戰況ニ應シ又敵軍及我軍ノ狀態並素質ヲ稽ヘサル可ラス

此種奈翁ノ好シテ取レル戰法ハテ一軍團ノ危機ヲ醸生シ佛軍ノ狀況ヲ危殆ナラシメタルモ

幸ニモ連合軍ノ攻撃緩慢ナリシト、又村落戰ニ於テ其兵力ヲ消耗セシヲ以テ遂ニ奈翁ヲシテ豫期ノ如ク其大豫備隊ヲ使用シ得セシメタルモ其奏功ハ決シテ顯著ナラサリキ、殊ニ攻勢移轉ノ時機ハ好機至ラスシテ遲緩シ決戰ヲ日中ニ於テ終局迄導キ以テ勝利ヲ收ムルノ時間ヲ缺如シタリキ、如上奈翁ノ戰法ハ敵若シ至當ニ行動セハ決シテ有利ナル戰法ニ在ラス又精練ナル軍隊ヲ以テシテ能ク之ヲ實行シ得ルモ當時ノ如キ佛軍ノ素質ヲ以テシテハ決シテ適切ナル戰法ト稱シ難シ

十、高等統帥ハ一面軍活動ノ根本ナリト雖モ軍隊ノ素質不良ナル時ハ優秀ナル統帥手腕モ之ヲ發揮スルヲ得ス吾人ハ常ニ精銳ナル軍隊ヲ平時養成スルニ着眼セサル可ラス而シテ軍ノ指揮ハ又能ク軍ノ素質ニ應セサル可ラス

新募軍ハ機動攻勢ニ於テ能力少キモ、固定的守勢的用法ニ於テハ比較的用フルニ足ル

(イ)

本會戰ノ成績カ奈翁ノ統帥的手腕ト兵力優勢ナリシト又多大ノ危險ヲ冒シテ模範ヲ示セシニ拘ラス辛フシテ勝利ヲ得タルハ軍隊ノ素質劣等ナリシニ依ルコト多シ

(ロ)

マクトナルド軍團カ晩漸ク陣地ヲ突破セルカ如キ、又第四軍團カ連合軍ノ殘兵ニ阻止セラレ前進スル能ハサリシ如キ共ニ軍隊素質ノ劣等ヲ示セルモノトス



(ハ) 村落防禦ニ任セル第三軍團ハ戰況屢々危殆ニ陥リ連合軍ノ爲メ擊退セラレタルコトアルモ能ク村落戰ニ於テ勝敗ヲ爭ヒ奮闘セリ此結果ハ新募未熟軍ハ固定的守勢の用法ニ於テ比較的用フルヲ得ヘク前項(ロ)ニ示セルカ如ク攻勢の用法ニ於テハ其活動意ノ如クナラサルヲ證スルノ一例タリ

(ニ) 本會戰ニ於テ奈翁ハ新募軍ノ素質ヲ顧慮シ狹區域ニ之ヲ行動セシメタルカ如キモ一般ノ運用ハ巧妙ニ失セリ

十一、精銳ナル軍隊ハ指揮統帥ノ優秀ト相待テ勝利ヲ博スヘキ根元ヲ成形ス軍素質ノ優越ナルハ戰勝ニ多大ノ貢獻ヲナスモ、軍統帥ノ不良ハ之ヲ敗戰ニ導カシム吾人ハ平時統帥指揮ノ研究ニ全幅ノ力ヲ盡ササル可ラス

奈翁ハ普軍ヲ千八百〇六年當時ノモノト同一視シタリシカ當時普軍ノ素質ハ全然一新シ終日優勢ナル敵ニ對シカ戰シ戰闘ハ寧ロ普軍ノ勝利ヲ得タルモ軍全般ノ統帥不良ニシテ敗退セリ日露戰役及歐洲大戰ニ於テ露軍指揮ノ不良ハ大敗北ノ主因ヲナセリ

十二、包圍ニ任セル部隊ハ萬難ヲ排シ果敢ニ攻撃セサレハ効果ナシ却テ兵力分離ニ陥ルヘシ

第四、第十一軍團ノ攻撃行動ハ縱令新募軍ト雖モ其攻撃熱烈ヲ缺キ遺憾ノ點多シ

十三、高級指揮官ノ活模範ハ部下ノ志氣ヲ鼓舞スルニ足ルモ其影響ニハ程度アリ新募ノ軍ノ如

キハ縱令名將ノ直接激勵ヲ受ケタルモ尙途ニ優越ナル戰闘能力ヲ發揮スルニ至ル能ハサルコト多カラシ但シ最高統帥ノ陣頭ニ於ケル模範的行動ニハ慎重ナル注意ヲ要ス

千八百十二年ノ雪辱戰ト、新募軍ノ爲メ奈翁カ從來嘗テ見サル冒險ヲ以テ活模範ヲ示シタルハ一掬同情スル所ナルモ遂ニ新募軍ノ無能無價值ヲ如何トモスル能ハサラシメキ彼レノ活模範ハ武夫ノ精神トシテ同情スヘキモ一度其身ニ不幸アランカ一軍ノ重望ヲ盡ク一身ニ荷ヘル彼ノ損失ニヨリ茲ニ軍ノ運命ヲ覆滅セシムルノ患アリ彼トシテハ當時寧ロ全軍ノ統帥ニ身ヲ處スルヲ可トス佛軍ニ於ケル彼レノ唯一根本ノ位置ヲ考ヘサル可ラス

十四、搜索機關ノ完備ハ作戰上極メテ必要ナリ、但シ其使用機宜ニ適セサレハ効果少シ

佛軍カ聯合軍ニ對シ不利ノ形勢ニ陥リタル根元ハ搜索機關タル騎兵ノ寡弱ナリシト、之ヲ補フノ手段ノ充分講セラレサリシニ依ルコト多シ

又連合軍ノ騎兵ハ優勢ナリシニ拘ラス此特殊利益ヲ利用セサリシハ不可ナリ

附記

子一軍團ノ掩護法、戰闘要領ニハ研究スヘキコト多ク或ハ此ノ如キ不利ノ戰闘ヲ幾分避ケ得タルヤ否ヤハ研究ノ價值アルモ研究ノ基礎條件タル史實ノ不充分ナリシ爲メ所見ヲ述フルヲ省略ス



### 第五章 モンミレーユ (Montmirail) ノ遭遇戰

(千八百十四年二月十一日) (附圖第七參照)

#### 第一節 戰鬪前一般ノ形勢

千八百十四年ノ春ブリユツヘル (Blücher) ノ指揮セル聯合軍ハ概シテマルヌ (Marne) 河ニ沿ヒバリニ向ヒ前進中ニシテ此内約一萬六千ノ兵力ヲ有スルヨルク (York) 軍團ハシャトー、チエリー (Chateau Thierry) ニ達シ又約一萬八千ヨリ成ル露ノザツケン (Sacken) 軍團ハシャムボーベル (Champaubert) ヲ經テ所謂小巴里街道 (Kleine Pariser Strasse) ヲ前進シ、其ノ本隊ヲ以テ Montmirail ニ、前衛ヲ以テ La Ferté Sous Jouarre ニ達ス、此兩軍團ハ共ニ約一萬ノ兵力ヲ有シヨルク軍團ノ前方ヲ西方ニ向ヒ退却中ナル佛ノマクドナルド (Macdonald) 軍團ヲ追擊中ニシテ Macdonald 軍團ノ一部ハマルヌ河 La Ferté Sous Jouarre 附近ヲ占領シアリシカ二月十日、Marne 河ノ橋梁ヲ爆破シ同地ヲ撤退ス、又約四千ヨリ成ル露將官オルスフイエフ (Olsufew) ノ指揮スル師團ハシャムボーベル附近ニ又合計一萬七千ヨリ成ルクライスト (Kleist) 及カブチエウイツチ (Karpowitch) ノ指揮スル部隊ハ尙ヅエルチュ (Vertus) 附近ノ地區ニ後退シアリ、聯合軍ハ此ノ分散的配置ノ情態ニ於テ南方ヨリ奈翁ノ側面攻撃ヲ受ク。

#### 第二節 情 況

之ヨリ先キナポレオンハ二月四日及五日トロワイエ Troyes (Montmirail 東南方約七十吉米) ニアリテ埃ノシユワルチエンベルク將軍 (Schwarzenberg) ノ軍ニ對シ大打擊ヲ與ヘント企圖シ攻撃ノ機ヲ窺ヒシモ遂ニ其ノ機會ヲ發見スルコト能ハサリシニヨリ翌六日當時ブリユツヘルノ指揮セル聯合軍カマクドナルド軍ニ對シ離散セル配置ヲ以テ追擊中ナルコトヲ聞キ機逸スヘカラストナシ、七日彼ハ其主力ヲ以テノーヂヤン (Nogent s/s) (Montmirail 南方約四十吉) ニ退却シ、同時ニ將官マルモン (Marmont) ノ兵團ヲシテセザンヌ (Sézanne) ノ方向ヨリ Montmirail ヲ目標トシテ前進セシメ、九日ナポレオンハ四萬ノ軍ヲセーヌ河畔ニ殘置シ、躬ヲ約三萬ノ軍ヲ提ケ Sezanne ニ向テ北進セリ

ザツケン大將ハ其本隊ヲ以テ La Ferté Sous Jouarre 附近ニ近ク迄前進セシカブリユツヘルヨリ軍ノ集合點タルヅエルチュ (Vertus) ニ向ヒ急行退却スヘキ命令ヲ受ケタルニヨリ彼ハ二月十日夜夜行軍ヲナシ、翌十一日朝 Montmirail 西方約一獨里 (八吉米) ノ地點ニ達シタルトキ佛軍ノ前衛部隊近ク同地ニ向ヒ前進中ナルコトヲ知ル捕虜ノ言ニ依レハナポレオンハ當面ノ敵軍中ニアリト

情況

ナポレオン方面ノ情況

註  
s/s セーヌ河畔ノ意

ザツケン大將方面ノ情況



ザツケン大將ハ又此日ヨルク (York) 軍團、Chateau-Thierry ヨリ Montmirail ニ向テ前進セルコト並ニ昨十日オルスフイエフ師團ハシヤムポーベル附近ニ於テ佛軍ノ爲撃破セラタルコトヲ聞知ス

問題

第一問題 (即題)

二月十一日朝ニ於ケルザツケン大將ノ決心 (注意、地形圖不充分ナルニヨリ大体ノ決心ヲ記スヘシ)

右問題學生案種別

右第一問題ニ對スル學生案ノ種別

學生ノ案ハ概要左ノ七案ニ分タル

- 一、直ニ前面ノ敵ヲ攻撃セントスル案
- 二、現在地附近ニ陣地ヲ占領シヨルク軍ノ進出ヲ待チ攻勢ニ轉セントスル案
- 三、現在地附近ニ陣地ヲ占領シヨルク及ブリユツヘル軍ノ進出ヲ待チ攻勢ニ轉セントスル案
- 四、一時決戦ヲ避ケ Chateau Thierry 方向又ハ西北方或ハ西方ニ退却シ York 軍ト協同シ攻勢ニ轉セントスル案
- 五、攻撃ノ目的ヲ以テ敵狀ヲ偵察セントスル案
- 六、現在地附近ニ兵力ヲ集結シ機ヲ見テ攻勢ニ轉セントスル案
- 七、マルシエー (Mardas) 附近ニ兵力ヲ集結シ Montmirail ニ對シ威力搜索ヲ行ハントスル案

原案

右原案  
決心

一小部隊ヲ以テ La Ferte Sous Jouarre 方向ニ對シ其背後ヲ掩護セシメ主力ヲ以テナボレオンニ對シ一時持久戰 (理由第三項參照) ヲ交ヘヨルク軍團ノ來着ヲ待チテ攻勢ヲ企圖セントス

理由

- 一、奈翁カ前面ノ軍ニアリトセハ恐ラク同軍ハ奈翁軍ノ主力ナルヘク決シテ之ヲ輕視スルコト能ハス、同軍ハ聯合軍ヲ各個ニ撃破スル爲 York 及ブリユツヘル軍ノ分離ヲ利用シ先ツザツケン軍ヲ猛烈ニ攻撃スルナラン
- 二、ザツケン軍ハヨルク軍團ノ Montmirail ニ向ヒ前進中ナル以上、之ト近ク策應シ得サルニ先チ前面奈軍ノ主力ト決戦ヲ交ユルハ甚タ不利ナリ之カ爲ニハ一時決戦ヲ避ケヨルク軍團ト適當ニ協同策應シテ奈軍ニ向ヒ攻勢ヲ取り得ル如ク動作スルヲ可トス、ブリユツヘル軍ノ來着ヲ待ツハ希望スル所ナルモ既ニオルスフイエフ軍ハ奈翁ヨリ撃破セラレ又尙目下其協力増援ヲ希望スヘキクライスト及ブリユツヘルノ後方兵團ノ所在タル Verthuis ハモンミレーニ附近ノ會戰地ヲ距ル四十吉米以上ニ隔離ス而シテ奈翁又同方面ニ對シ所要ノ處置ヲナスヘキハ之ヲ豫想セサルヘカラス、故ニ目下ノ情況上如此遠隔セル兵團ノ増援ヲ目下ノ遭遇

モンミレーノ遭遇戰



戰的情況ニ期待スルハ全ク戰況ニ適セサルモノトス

三、如何ニ戰鬪ヲ指導スヘキヤ、何レニ陣地ヲ占領スヘキヤ等ハ兵團ノ位置地形交通路ノ明示ナキ爲之ヲ確定シ難シ、希望及主義トシテハヨルク軍トノ協同ヲ容易ニシ又西方ノ敵狀ヲモ慮セハ小巴里街道北側ニテ退路ヲ成ルヘク北方ニ取り作戰スルヲ有利トス

注意

右ハ詳密ナル地形圖ヲ使用セサルト又情況ハ大要ノ外講述シアラサルヲ以テ單ニ之ヲ基礎トシ研究上大体ノ主義トシテ如上ノ如ク決心シタルモノトス

戰鬪開始直前ノ情況

第二節 戰鬪開始直前ノ情況

ザツケン大將ハ捕虜ノ言ノ如クナポレオンカ當面ノ軍中ニアリトノコトニ關シ何等信ヲ置カス敵ヲ輕視シ斷然前面ノ敵ヲ攻撃シ其ノ進路ヲ開クニ決ス、ザツケン大將ハ此ノ際尙 Chateau Thierry ヨリ Montmirail ニ前進スヘキヨルク軍團ノ援助ヲ豫期セリ、當時ザツケン兵團前衛ノ佛軍前衛ト衝突セル際、其ノ本隊ハ小巴里街道ニ跨リ開進シ、歩兵ハ二戰列ヲ作り其騎兵ハ左翼ニ位置セリ之ヨリ先キ二月十日ナポレオンハオルスフイエフノ師團ヲ Champaubert 附近ニ擊破シ、十一日

戰鬪直前ノ大要

第四節 戰鬪經過ノ大要

自ラニ萬五千ノ兵力ヲ以テザツケンニ對シ前進シ、其ノ他ノ兵力ヲ元帥マルモンニ指揮セシメ主トシテ Vertus ニ對シテ警戒セシメタリ

奈翁ノ配備

奈翁ハ Montmirail ニ向ヒ前進中ナルヨルク及ザツケン兵團ノ行動ニ關シ十分ナル報告ヲ受領セルノミナラス又彼ハ能ク適時ニ露軍ノ行動ヲ觀察シ二萬五千ヨリ成ル軍ヲ小巴里街道ニ沿ヒ左ノ如ク準備姿勢ヲ取ラシメタリ

- 一、小巴里街道ノ北方ニ、ナンヌウチー (Nansouty) ノ指揮スル騎兵團
- 二、同街道附近ニ舊近衛軍
- 三、舊近衛ノ左方ニリカルド (Ricard) 師團ト共ニ新近衛軍
- 四、Ricard 師團ハ佛軍左翼前ニアル諸村落 Le Bois Jean 及 Courmont 及マルシエーヲ小部隊ニテ占領セシム

奈翁ハ敵ノ部署及一般ノ狀況ニヨリ速ニ敵ノ企圖ヲ認識セリ彼ハ露軍ヲ南方ニ、即チヨルク軍團ヨリ離隔セシムル爲左翼前ノ諸村落 Le Bois Jean 及 Courmont へ短時間防禦ノ後之ヲ撤退スヘキ命令ヲ與ヘタリ



此處置ハ奈翁ノ希望スル效果ヲ生セリ、即チ短時間ノ戦闘ノ後此兩村落ハ露軍ノ爲奪取セラルルヤザツケン大將ハ此有名無實ナル勝利ニ眩惑セラレ、右翼方面ニアリシ其全歩兵ヲ以テ攻撃前進シ又 Marchais 附近ノ戦闘激烈トナルヤ彼ハ尙中央方面ヨリ多クノ兵力ヲ此方面ニ増加セリ、然ルニ奈翁ハザツケンヲ尙一層多クノ兵力ヲ其ノ右翼第一線方面ニ増加シ消耗セシムル爲佛軍左翼ノ直前ナル Marchais 村ヲ最頑強ニ防禦セシメタリ、然ルニ同方面ニ對スル露軍ハ優勢ナリシカ爲同村落カリカルド (Ricard) 師團ヨリ撤退セラルルヤ、奈翁ハ新近衛ノ一師團ヲシテ再ヒ之ヲ奪還セシメタリ、如斯シテ同村落カ三度奪取セラレ而シテ喪失セラレタル後露軍ノ大部ハ遂ニ此方面ノ戦闘ニ使用セラレ同村落ハ遂ニ露軍ノ有ニ歸ス奈翁ハ實ニ此時機ノ至ルヲ切ニ待チアリシカ、此時進テ斷然攻勢ニ轉ス、ナンスウチー騎兵隊ハ敵ノ騎兵ヲ牽制シ、舊近衛軍ノ十六大隊ハ小巴里街道ニ沿ヒ縱隊ヲ以テ前進シ既ニ兵力ヲ右翼方面ニ移シテ全ク防勢トナレル露軍ノ中央ニ向ヒ突進シ、短時間戦闘ノ後全ク之ヲ突破セリ。

茲ニ於テザツケン大將ハ今ヤ到底戰況ヲ恢復スル能ハサルヲ見、退却命令ヲ下セリ

Marchais 附近ニ於テ猛烈ニ戦闘セル露軍諸大隊ノ退却ハ大損害ヲ受ケ漸ク之ヲ實施スルヲ得タリ

一萬八千ノ兵力ヨリ約五千人ヲ失ヒタルザツケン軍團ハ此日夜遅クヨルク軍團ト連絡スルコト

問題

問題原案

原案

ヲ得タリ、此日ヨルク軍團ハザツケンヲ増援セント欲シタルモ主戰地ヲ距ル北方約二吉米ブレノワ (Plenoy) 附近ニ於テモルチエー (Mortier) 元帥ノ指揮スル部隊ヨリ猛烈ナル逆襲ヲ受ケテ撃退セラレ Chateau-Thierry ニ退却スルノ止ムナキニ至レリザツケンノ Chateau Thierry 方向ニ行ヘル退却ハ甚タ困難ニシテ多大ノ損害ヲ蒙レリ、翌十二日此兩軍團ハ奈翁ヨリ甚タシク壓迫セラレ Chateau-Thierry 附近ニ於テ損害ヲ受ケ Marne 河以北ニ撃退セラレタリ

問題 (宿題)

第二問題 モンミレーユ遭遇戦ノ特徴

第三問題 モンミレーユ會戰ニ於ケル奈翁ノ戦闘指導ノ特徴並其ノ觀察

第五節 第二、第三問題原案

其ノ一、第二問題「モンミレーユ遭遇戦ノ特徴」ニ對スル原案

原案

一、ナポレオンカ先ツザツケンニ對シ準備シテ攻勢前進セルニ對シザツケンハ之ト不期遭遇戰的ニ衝突ス、即チ戦備ヲ整へ衝突ヲ豫期シテ前進セルナポレオンノ攻勢ニ對シザツケンハ行軍縱隊ヲ以テ之ト衝突ス(遭遇戦發生ノ状態)

モンミレーユノ遭遇戦



二、ナポレオンハ敵情ヲ觀察シ、之ヲ判斷シ、敵ト離隔シテ豫定戰場ニ豫メ戰鬪ヲ準備シ先制ノ利益ヲ收メ得タルニ對シ、ザツケンハ不用意ニ之ヲ攻撃ス（準備ヲ整ヘ展開ヲ完了シ先制ノ利ヲ得タル、ナポレオンニ對シ戒慎動作スルコトナク無謀ニ之ヲ攻撃ス）（遭遇戰ノ端緒）

三、先制ノ利ヲ得タルナポレオンハ進テ敵ヲ攻撃スルコトナク、一般ノ戰況、人心ノ弱點及ザツケンノ性格ヲ利用シ所謂防勢的ニ遭遇戰ヲ指導シ、敵ニ好餌ヲ與ヘ先ザツケンヲシテ攻撃セシメテ其主力ヲヨルク軍團ヨリ離隔セシムルト同時ニ、佛軍左翼前ノ村落ヲ爭奪セシメ其兵力ヲ消費セシメムトシザツケン此術中ニ陥ル（遭遇戰ノ遂行）  
奈翁ハ此戰法ヲ以テザツケンノ配備ニ大弱點ヲ成形セシメントシ決戰ノ機ヲ窺フ（決戰準備）

四、ザツケン遂ニ其ノ兵力ヲ中央方面ヨリ右方ニ移シ之ヲマルシエー（Marchais）ノ奪略ニ用フ

ザツケンノ中央方面手薄トナルヤナポレオンハ一舉本道方面ヨリ敵ノ中央ニ向ヒ攻勢ニ轉シ直ニ之ヲ擊破ス、所謂決戰ノ機ヲ達觀シ勝敗ヲ五分間ニ決ス（決戰）

ナポレオンカ特ニ敵ノ攻撃精神ヲ巧ニ利用シ其ノ兵力ヲ過早ニ使用セシメタルコト又炯眼能ク

決戰時期ヲ適切ニ認識シ之ヲ利用シ、斷乎トシテ其ノ大豫備隊ヲ使用シ勝敗ヲ一舉ニ決シタルコトハナポレオン諸戰例中本會戰ハ最適當ニ實施セラレタル一例トス本戰鬪ハ又敵ヲ欺騙シ人心ノ弱點ヲ利用シ形式ヲ避ケ戰鬪ヲ統帥セルナポレオン指揮ノ好例タリ

其ノ二、第三問題「モンミレイユ會戰ニ於ケルナポレオン戰鬪指導ノ特徴並其ノ觀察」ニ關スル原案

### 原案ノ大要

本遭遇戰ハナポレオン皇帝カ炯眼能ク戰略戰術上ノ情況ヲ最明瞭ニ認識シテ之ヲ適切ニ利用シ其ノ卓越セル軍統帥ノ手腕ヲ以テ勝利ヲ博シタル戰例ニシテ特ニ興味ノ禁スヘカラサルモノアリ

今少シク詳細ニ互リテ觀察セン

一、戰略及戰術上ノ形勢ハ必ラスシモ奈翁ニ有利ナラサリシニ際シ能ク良好ナル機會ヲ巧ニ捕ヘ之ヲ適切ニ利用シテ其ノ攻撃ノ目的ヲ達成セリ

聯合軍ノ分散的ナル戰略姿勢ニ對シナポレオンノ南方ヨリスル攻勢ハ敵ヲ各個ニ擊破シ得ル公算ナキニアラサルモ又却テ敵ノ爲メ諸方向ヨリ包圍セララルル危險アリ、殊ニ此日正面ニザツケン、直接右側面ニヨルクノ指揮スル兵團ヲ控ヘ佛軍ノ退路ハブリユ

モンミレイユノ遭遇戰



ツヘルヨリ大ニ脅威セラルル形勢ニアリ、此大体ノ狀況ハ少クモ形ノ上ニ於テ佛軍ニ對シ有利ナラス然レモナポレオンハ作戰指導ヲ形式ニ拘泥セス能ク實際現況ノ可能的効果ニ着眼シ外形ヲ超越シ、情況ノ好機並弱點ヲ觀破シ危機ニ處シテ能ク其ノ天才的手腕ヲ發揮シ勝利ヲ得タルハ之レ彼ノ天稟ノ才能ニシテ吾人ノ大ニ學ブヲ要スル所ナリ、利アル所害又之ニ隨伴ス苟モ正當ニ判斷シテ決心シ至當ニ部署シ斷シテ行ヘハ害モ亦害トスルニ足ラス諺ニ曰ク「虎穴ニ入ラサレハ虎兒ヲ得ス」ト

ナポレオンカ各個擊破ノ爲一部ヲヨルクニ對セシメ先ツ近ク來ル所ノザツケン兵團ヲ擊破セントシタルハ適當ノ部署ナリトス

二、能ク敵情ヲ搜索シ、情況ヲ正當且ツ速ニ觀察判斷シ先ツ主力ヲ統一的ニ戰團準備ノ姿勢ニ展開シ、以テ先制ノ利益ヲ占メザツケンヲシテ攻勢ヲ執ラサルヘカラサル如ク一部ヲ好餌トナシテ前進セシメ、輕戰ノ後之ヲ退却セシメ人心ノ弱點及ザツケンノ性格ヲ利用シテ露軍ノ攻撃ヲシテ巧ニ自己將來ノ戰團ニ最適應スル如ク之ヲ南方ニ誘致シヨルク軍團ト隔離セシメ又假勝ノ餌ヲ與ヘテ左翼前ノ村落ニ於テザツケンヲシテ其ノ兵力ヲ過早ニ使用シ盡サシメ以テ敵ノ中央ヲ薄弱ナラシメ決戰ノ好機會ヲ得ント努メタルハ右ノ如キ遭遇戰の情況ニ於テ一モ二モナクヨルクノ來ラサルニ先タチテ直ニ先ツザツケンヲ攻撃シ又倏急ニ戰

闘ヲ指導セムトスルモノト戰團指導ノ要領ヲ異ニシ、能ク沈着シテ大勢ヲ達觀シ先ツ敵ヲシテ攻撃セシメ一時遭遇戰ヲ防勢的ニ指導シ且此際尙ヨルクニ對シテ決シテ危殆ノ狀況ヲ惹起セサルヲ判定シ、所謂遭遇戰ノ形式ヲ超越シテ悠々トシテ戰況及敵情ニ妙應スル如ク此戰團ヲ指導セルハ之レ一ツノ生新ナル活戰術ナリト認ム又ナポレオンノ展開準備ハ敵カ南方ニ牽制セラレサル場合、即チ戰況カ其ノ原意圖ノ如ク經過セサル場合ニ於テモ亦斷然本道方向ヨリ主力ヲ以テ攻勢ヲ實施シ得ル如ク正、奇兩狀況ニ應シ得ル如ク配備セルハ着目スヘシ

此ノ如キ奈翁ノ戰法ハ Gross Görschen ノ會戰ニ於テモ亦之ヲ認ムルコトヲ得ヘシ、敵ニシテ能ク之ヲ察シ戰況ニ眩惑セラレス、村落ノ爭奪等ニ其ノ兵力ヲ牽引セラレサル場合ニ於テハ所望ノ效果ヲ得サルヲ以テ敵カ正面ニ動作セシ場合ニ於テモ又直ニ之ニ應シ斷然タル攻撃ヲ實施スルノ準備アルヲ要ス

三、奈翁ノ決戰指導ハ此會戰ニ於テ最理想的ニ實施セラレタリザツケン大將ハ不覺ニモヨルク軍團ト著シク隔離シテ各個ニ戰闘セルノミナラス遂ニ奈翁ノ術中ニ陥リ本道以南ノ村落ニ牽制セラレ小勝ニ眩惑シ Murchais ノ村落爭奪ノ爲其ノ中央方面ヨリ大兵力ヲ移動シ之カ爲中央方面ヲ薄弱ニシ佛軍ノ爲理想的ナル攻撃點及決戰機ヲ與フ、奈翁能ク此好機ト好攻



擊點ヲ看破シ機ニ乗シ一舉進テザツケン軍ヲ擊破ス彼ノ得意想ヲヘシ彼曰ク戰鬪ノ勝敗ハ瞬間ニ決スト

四、本遭遇戰ニ於テ奈翁指揮ノ統一殊ニ彼カ終始一貫セル根本的戰鬪方針ヲ持シ、戰況ニ眩惑セラレス其ノ冷靜ナル指揮統帥能ク原戰鬪企圖ニ基キ、合理的ニシテ秩序アリ且斷乎タル其ノ兵力使用ハ何時モナカラ其ノ手腕ノ非凡ナルヲ認ムルモ特ニ此戰鬪ニ於テ吾人ノ賞讃ヲ惜ムヘカラサルモノアルヲ見ル

五、本遭遇戰ハ全般ノ戰鬪狀況小ニシテ全戰況ヲ容易ニ觀察展望シ得ルノミナラス又附近ノ地形ハ攻撃ニ便ニシテ Gross Girsichen ノ如キ大ナル情況ニ在ラサリシヲ以テ奈翁ハ容易且ツ自由ニ其ノ統帥の手腕ヲ揮ヒ得タリ又其ノ統率セシ軍隊モ其ノ素質 Gross Girsichen ノ時ニ比シ良好ナリシノミナラス其ノ兵力又ザツケンニ比シ優勢ナリキ

六、戰鬪後ノ追擊及モルチエーノ逆襲ニ關シテハ述フヘキコトアルモ諸君ニ與ヘタル情況簡ニシテ觀察上ノ準據不充ナルヲ以テ之ヲ略ス

### 第六章 爾餘ノ遭遇戰ニ就テ

學期末ニ臨ミ余病魔ニ襲ハレ時間ノ不足上豫定セル結末ノ講授ヲナスヲ得ス今ヤ其ノ研究ヲ他

日ニ讓ラサルヲ得サルニ至リシヲ遺憾トス唯茲ニ其ノ他著目スヘキ遭遇戰ノ戰例數個ニ就テ其ノ戰況ノ大要並其ノ教訓ニ關シ極メテ單簡ニ予ノ所見ヲ述ヘ本學期ニ於ケル諸君トノ研究ヲ終ラントス

(注意、本書出版ニ方リ、大ニ本章ヲ補遺スルノ企圖ヲ有セシモ公務多端ニシテ暫ラク此企圖ヲ放棄セサル可ラサルニ至レリ將來再版等ノ機會ニ際シ適宜補綴センコトヲ期ス)

其ノ一、アウエルステット (Auerstedt) ノ遭遇戰 (附圖第八、其ノ一、其ノ二、其ノ三參照)

(相對進スル兩行軍縱隊ノ遭遇戰) (千八百六年十月十四日)

ブラウンシュワイヒ大公ノ指揮スル普ノ本軍五萬トダブー (Davout) 軍團トノ衝突ハ有名ナルアウエルステットノ遭遇戰ヲ惹起セリ、ブラウンシュワイヒ大公ハ一縱隊ヲ以テウアイマー (Weimar) ヨリイエナ (Jena) 方面ニ前進シ十三日夜第一師團長 (Graf Schmettau) ヲ以テアウエルステット及ゲルンステット (Gernstedt) 間ノ高地ヲ占領ス又佛ノダブーハ圖ニ示ス如ク此夜其一部ヲ以テ、クエーゼン (Köthen) ノ橋梁ヲ占領セシメザレ河ヲ渡河セシム十四日シユメット一師團ハ濃霧ニ際シハッセンハウゼン (Hassenhausen) ニ達セシトキ、急ニダブー縱隊ノ先頭ト衝突セリ、シユメット一師團中將ハブリユツヘルノ指揮スル騎兵部隊ヲ以テ左翼方面ヨリ攻撃セシメタルモ擊退セラル是ヨリ兩軍ノ戰鬪漸次劇烈トナル佛軍ハ後方ヨリ漸次増加セラレ普軍ハ緩漫ニ開進セリ而シテブラウンシュワイヒ大公ノ重傷ヲ



負フト共ニ普軍ノ指揮ハ全ク攪亂セラレシユメツト一及ワルテンスレーベン又負傷セリ而シテ普軍ノ左翼ハ敵ノ包圍ニ依リ、又其ノ右翼ハ佛軍ノ新銳ナル師團ニ依リテ大ニ脅威セララル此ノ如クニシテ普國王ハ尙後方ニ猶強大ナル豫備隊ヲ有セシモ夕刻途ニ退却ヲ命令セリ

本會戰ハ所謂人ノ想像セル眞ノ遭遇戰ノ戰闘ノ一好例ナリ、兩軍ハ行軍縱隊ヲ以テ正面的ニ敵ニ衝突セリ、其ノ兵力使用ハ戰闘ノ目的、戰況ノ推移ニ伴ヒ逐次的ニ實施セラレタリ而シテ最終ノ成功ハ佛人ノ手ニ歸シタリ是佛軍ハ普軍ヨリモ一層決定的ニ其ノ兵力ヲ戰闘ニ參與セシメ敵ノ企圖ヲ挫折シタルニ依ル

此會戰ハ特ニ指揮官カ漸次到着スル本隊ノ諸隊ヲ遲疑スルコトナク、戰闘ニ使用セサルヘカラサルコト竝ニ本隊ノ統一的使用ニ努メサルヘカラサルコトノ必要ヲ明示ス

困難ナル狀況（濃霧、Körschノ隘路ヲ背ニセルコト）ニ於ケルダブーノ戰闘統帥ニハ着目ニ値スヘキモノアリ

其ノ二、カツツバツハ(Katzbach)ノ遭遇戰(附圖第九、其ノ一、其ノ二參照)

(戰備ヲ完了セル敵ニ對スル遭遇戰の攻撃、行軍縱隊ヲ以テ前進中ノ敵ニ對シ展開セル準備姿勢ヨリスル攻撃)(千八百十三年八月二十六日)

休戰條約經過ノ後ブリユツヘルノ指揮セル普露連合軍(ヨルク軍團、ラングロン軍團及ザツク

ン軍團、其兵力計約九萬八千)ハ優勢ノ兵力ヲ有スルナポレオンニ對シテヤウアー(Jauer)方向ニ退却セリ、而シテナポレオンハ新タニドレステン方面ノ脅威セラレタルニ依リテ同方面ニ轉進ス

奈翁カカツツバツハ河畔ニ殘置セシマクドナルドノ指揮セル第三、第五、第十一軍團及騎兵第二軍團(此兵力總計十萬)ハ八月二十六日數縱隊トナリブリユツヘルニ對シカツツバツハノ困難ナル地域ヲ超エテ攻勢前進ヲ起セリ

此日雨及霧アリテ展望ヲ妨ケ佛軍ノ將士ハ一般ニ最早敵ト衝突セサルヘシト思惟セリ、然ルニ何ソ圖ランブリユツヘルノ指揮スル聯合軍ハ戰闘準備ヲ完了シテ斷乎攻撃ニ轉シ得ル状態ニアリキ

果然ブリユツヘルハ佛軍ノ行軍縱隊ノ先頭ニ向ヒ攻勢ニ轉シ佛軍ヲ擊破セリ

此日ニ於ケル佛軍敗北ノ主ナル原因ハ搜索ノ不十分ナリシコト、統一指揮ヲ缺キシコト、不用意ナル前進、竝ニ河ヲ超ヘテ縱長ヨリスル展開ノ遅レタルコトヲ以テ主トナス而シテボーベル(Böber)河ノ障得ハ更ニ敗北ヲ大ナラシメタリ

此遭遇戰ハ十分ノ搜索ナクシテ行軍縱隊ヲ以テ敵ノ威力圈内ニ前進スル場合ニ於テ、敵カ此好機ヲ利用シ、斷乎タル攻撃ヲ企圖スルコトヲ解セル有爲ナル敵ニ對シテハ、如何ニ斯ノ如キ



前進カ危険ナルカヲ明示ス、特ニ不利ナル地形、及天候ニ於テハ其危險ハ益々増加ス又カツツ  
 バツハノ遭遇戦ハ軍隊カ適當ナル時機ニ於テ分進セサルヘカラサル必要ヲ明示ス  
 現今航空機ニヨリ敵ノ戦闘準備ニ關シテハ多少適時之ヲ知ルコトヲ得ルモ天候航空機ヲ使用ス  
 ルヲ許サルカ又ハ情報適時ニ至ラス或ハ全軍航空機ノ數カ一方ノ軍又ハ師團等ニ充分ナル  
 使用ヲ許サル場合ニ於テ指揮官ハ遭遇戦ニ於テ常ニ敵ハ尙恐ラク未タ戦闘準備ヲナサシテ  
 行軍縱隊ニアルモノト過早ニ敵情ヲ判斷スルコト能ハサルヘシ、從テ敵ニ包圍セラルルコトヲ  
 避ケ且絶エス寡兵ヲ以テ衆敵ト戰フコトヲ避ケンカ爲ニハ兵力ヲ後方ニ控置シ過早ナル展開ヲ  
 戒ムルヲ必要トス凡ソ遭遇戦ニ於テ徒ラニ行軍縱隊ヲ以テ過度ニ敵ニ接近シ形式的ニ急速ノ展  
 開ヲナスコトハ危険ナルコトヲ覺悟スルヲ要ス

其ノ三、ソルフエリノ(Bolferino)ノ會戰(附屬第十參照)

(戰鬥準備ヲ未タ完了セサル敵ニ對スル軍ノ正面的遭遇戦)(千八百五十九年六月二十四日)  
 埃軍ハ六月二十一日西方ヨリミンシオ(Mincio)河ノ東岸ニ退却シ其ノ兵力第一、第二軍ヲ合シ  
 テ十六萬ニシテ第二軍ハ右翼ニ、第一軍ハ左翼ニアリ、埃軍ハガルダ(Garda)湖ノ南カルベネ  
 ドロ(Carpedolo)方面ニアル佛軍トサルチニヤ軍トノ聯合軍(兵力約十五萬)ニ對シ攻勢ヲ  
 取ルニ決セリ

埃軍ハ同月二十三日ミンシオ河ヲ渡リ二十四日敵ヲ攻撃スヘキ豫定ナリ然ルニナボレオン第三  
 世ハソルフエリノ、カプリアナ(Cavriana)メドレー(Melole)カ埃軍ニヨリ占領セラレタルヲ知  
 リシモ之ヲ敵ノ前進部隊ト判斷シ一旦退却セル敵ハ再ヒ攻勢ヲ取ルコトナカルヘシトシ、二十  
 四日其ノ聯合軍ハギディツヅロ(Guidizzolo)カプリアナ、ソルフエリノ及其ノ北方ノ線ニ向ヒ  
 前進シタルヲ以テ埃軍ト全ク正對シテ遭遇戦ヲ交フルニ至レリ

埃ノ第二軍ノ一軍團ハソルフエリノ又其ノ一軍團ハボツツオレンゴ(Pozzolengo)他ノ二軍團ハ  
 カプリアナ及ボルタ(Volta)附近ニ位置シ又第一軍ハMedole Guidizzolo 附近ヲ經テ更ニ後退シ  
 アリ

聯合軍ハ此日早朝出發セルニ埃軍ハ午前九時乃至十時ノ間ニ前進ヲ起ス豫定ナリシカ爲聯合軍  
 ノ會戰地ニ出現セシトキ埃軍ハ未タ全ク戰鬥シ得ル如ク準備展開シアラサリキ、之カ爲聯合軍  
 ハ戰鬥上大ナル利益ヲ得タリ、ガルダ湖ノ南方ニ於テ戰鬥中ナリシ埃第二軍ノ勇敢ナル抵抗モ  
 遂ニ埃軍ノ豫期企畫セルカ如ク第一軍ノ適當ナル前進ニ依リ協力援助セララルル能ハサリシハ埃  
 軍ノ爲惜ムヘク、之ニ反シナボレオン三世ハ有力ナル豫備隊ヲ決意ソルフエリノ、カプリアナ  
 ニ對シ使用スルコトヲ得タリ

實際ニ於テ聯合軍ハ前哨ノ地域外ニ亘レル搜索ヲ怠慢ニ附セシカ爲ミンシオ右岸ニ於ケル有力



ナル埃軍ノ存在ニ驚愕セリ此ノ如クニシテ聯合軍ハ敵兵攻勢ヲ取ラサルベシトノ臆斷的敵情判  
斷及搜索ノ不十分ニヨリ生セル大罰ヲ蒙リタリシカ此不利ハナポレオン三世ノ迅速果敢ナル決  
心及行動ニ依リテ償ハレタリ彼ハ戰術眼ヲ以テソルフエリノ附近カ其ノ會戰ノ爲最重要ナル價  
値ヲ有セルコトヲ認識シ決然成シ得ル限リノ兵力ヲ此方面ニ使用シ、豫備隊タリシ近衛モ亦同  
地點ノ獲得ニ使用セリ斯ノ如クニシテ遂ニ埃軍ノ中央ヲ突破スルコトヲ得タリ  
ソルフエリノ會戰ハ兩軍殆ト同兵力ヲ以テ正面的ニ戰闘ヲ實行シ勝利ヲ爭ヘル軍ノ遭遇戰ニ  
シテ又一ノ中央突破ニ關スル會戰ノ一例ナリ、然レトモ今日ノ兵器ヲ以テセハ佛軍ノソルフエ  
リノ附近ニ於ケル奏功ハ殆ト不可能ニシテ埃軍ノ中央ニ對スル中央突破ハ兩軍ノ決戰的ナラサ  
ル正面戰闘ニ變シテ漸次埃第一軍カ戰闘ニ參與スルニ至リ其ノ勝敗ハ未タ容易ニ逆賭スルニ由  
ナカラン、當時ノ前裝銃ハ能ク佛軍ノ突進ヲ許シタリ

其ノ四、ナホード (Nahod) ノ遭遇戰 (附圖第十一參照)

(長大ナル縱隊ヲ以テ軍團ノ隘路進出及之ニ對スル攻撃) (千八百六十六年六月二十七日)  
本戰闘ハスタインメッツノ指揮セル普第五軍團カ極メテ長キ縱隊ヲ以テ山地ヲ進出スルニ際シ  
テ埃第六軍團長ラミング (Ramming) 及第一騎兵豫備師團ノ之ニ對スル攻撃ニシテ當時ノ埃  
軍ハウエンツヘルスベルグ (Wenzelsberg) 附近ニ於テ一時普軍ノ前衛ヲ西方、西南方、南方ヨ

リ攻撃シテ之ヲ擊退シ、形勢普軍ノ爲ニ極メテ不利ナリシカ漸次普軍ノ本隊到着シテ戰闘ニ參  
與シスタインメッツ又自ラ戰闘ヲ指導シ遂ニ埃軍ヲスカリツツ (Skalitz) 方面ニ擊退シテ山地ヲ  
進出スルヲ得タリ、當時埃軍ニシテ普軍ト同様ノ兵器ヲ有シ一時得タル勝利ヲ利用シウイスコ  
ー (Wyskow) 及其ノ北方高地ヲ占領スルコトニ努力セシナラムニハ普軍團ノ非常ニ長大ナル行  
軍長徑ヲ以テ相離隔前進セシ山地進出ハ極メテ不利ナル結果ヲ生シ戰闘普軍ノ爲ニ不利トナリ  
シナルヘシ普軍當時ノ行軍序列及軍隊區分ハ當時ノ原則ニ依レルモノナラムモ之ヲ今日ヨリ見  
ルトキハ極メテ不利ナル部署ナリキ

注意、トラウテナウ、カストツツア並普佛戰役、日露戰役及其以後ニ於ケル遭遇戰ノ研究  
ハ他日ニ讓ル教授時間之ヲ許サ、ルヲ遺憾トス

### 第四編 追

### 擊 (附圖第十二、第十三、第十四、第十五及插圖參照)

### 第一章 戰史ヨリ觀タル追擊ノ一般ノ

### 觀察 (附圖第十二及插圖參照)

戰闘勝利ノ後ハ直ニ追擊ヲ行ハサル可ラサルハ古往今來已ニ業ニ口ヲ極メテ唱導セラレタル所



ナリ、然ルニ追撃ノ必要カ此ノ如ク充分認識セラレアルニ拘ラス戰鬪勝利ノ曉ニ於テ軍隊將卒ノ能力萎靡シ數多ノ困難ニ伴ヒ追撃ノ實行カ其死ト多ク中止セララル、ニ至リシハ戰例ノ常ニ示ス所ナリ、

獨リ指揮官ノ確乎不振ノ意思ノミクク疲勞困憊ニ陥レル軍隊ヲ驅リ多大ノ混亂、錯誤、困難ヲ排除シテ斷乎タル動作ニ出テシムルヲ得タリ

フレデリック大王時代

フレデリック大王ハ追撃ノ價値ヲ認メテロイテン (Lauthen) ノ戰後チーテン將軍 (Zieten) ニ與ヘタル訓示ニ曰ク「此情況ニ於ケル一日ノ勞苦ハ吾人ニ百日ノ安息ヲ與フ」ト又曰ク「非常ノ日ニハ非常ノ事ヲ爲ササルヘカラス」ト  
大王ハ戰鬪大勝ノ後多クハ其内線作戰ヲ指導シタル關係上更ニ新來ノ敵ニ向ハサル可ラサルト作戰線ノ短少トニヨリテ追撃ヲ爲シ得サリシト雖モ當時會戰ハ既ニ多クハ殲滅戰ナリキ又當時軍ノ編成ハ其追撃ヲシテ不便ナラシメタリ蓋シ橫隊戰法ヲ取リシ當時ニ於テハ弛解セル隊次ハ速ニ是ヲ整理スルヲ要シ騎兵ハ步兵ヨリ離隔シテ動作スルコトニ慣熟セス又多クハ會戰間攻撃ニ依リテ全ク疲弊シ砲兵ハ未タ當時ニ於テハ運動性不充分ナル兵種ナリシヲ以テナリ此等ノ諸原因ハ舉テフレデリック大王ヲシテ追撃ノ効果ヲ充分發揮スルヲ得サラシメタリ

ナポレオン時代  
追撃ノ本領

ナポレオンハミニラー將軍ニ命シテ曰ク「敵ニ迫レ而シテ其全交通線ヲ絶ツヘシ」ト當時奈翁ハ塊軍ニ對シ勝利ヲ得タル後斷乎トシテ追撃ヲ行ヒウルム (Ulm) 方向ニ敵ヲ壓倒セントシ右ノ訓示ヲ下セリ

Jena 會戰後  
ノ追撃

大規模ノ計畫ヲ以テ最モ強力ニ實行セラレシ大追撃ハナポレオンノ戰爭期ニモ其例甚タ妙シ是レ各種ノ狀況並ニ軍隊ノ疲勞等カ追撃ヲ不可能ナラシメシニ原因ス Napoleon ハ諸會戰ニ於テ敵ヲ壓倒殲滅スルコトヲ之レ努メシモ戰鬪後直ニ其勝利ヲ利用シ敵ヲ追撃スルコトニハ努力セサリキ即チ彼ノ全計畫ハ敵ヲ擊摧スルニアリシモ彼ハ此目的ヲ達成センカ爲會戰地ニ於テ敵ノ退路及連絡線ヲ斷タントスルニアリキ Jena 會戰後能ク大努力ヲ以テ遂行セル追撃ハ敗者カ會戰地ニ於テ全然潰走セルニヨリ更ニ容易ニ實行セラレ敗軍ノ散亂セル小集團ハ Prenzlau 及 Lübeck ニテ全滅セリ

千八百十二年  
年露軍ノ追撃  
Katzbach 會戰後ノ追撃

千八百十二年 Napoleon ノ露國遠征ノ失敗後モスコーヨリスル露軍ノ追撃ハ甚タ緩慢微弱ニシテ Napoleon ハ敗軍ノ集團ト共ニ免ル、コトヲ得タリ、Blicher ノ旺盛勇敢ナル精神ト Gneisenau ノ聰明トハ千八百十三年八月二十三日 Katzbach ノ戰鬪後適當ニ追撃ヲ指導シ相當ノ成功ヲ收メシモ指揮官相互ノ誤解若干ノ軋轢並ニ軍隊ノ大疲勞トハ追撃ノ斷乎タル實施ヲ妨害シ遂ニ最高目的タル敵軍ノ全滅ヲ達スルコトヲ得サリキ此時 Blicher 曰ク

追撃



「騎兵ノ不平愁訴ニハ耳ヲ傾クルノ必要ナシ敵ノ全軍ヲ殲滅シ得可キ場合ニ於テハ國家ハ疲勞ノ爲斃ル、數百頭ノ馬ヲ失フモ毫モ意ニ介スルニ足ラス」ト

Leipzig會戰後ノ追撃

Wredeノ戰

略追撃及Hanauノ戰

千八百十三年十月十六日ヨリ同十九日ニ亘ル Leipzigノ會戰後連合軍ノ高等統帥ハ緩慢ナル行動ニ出テ特ニ追撃ニ大ナル努力ヲ爲ス點ニ缺ク所アリシカ爲メ Napoleonハ殆ト敵ノ直接ノ追撃ヲ受クルコトナク途ニ Hanau 附近ニ於テ六萬五千ノ兵力ヲ以テ遠ク東南方ヨリ Napoleonニ對シ良好ナル戰略追撃ヲ實施シ Napoleonノライン河ニ向テスル退路ニ突進シ之ヲ變換セシメントスル四萬ヨリ成レル Wrede 軍ヲ擊破シタリ詳細ハ附圖第十二ヲ見ルヘシ

指揮官人格ノ力及確乎タル意志カ疲勞極度ニ達セル軍隊ヲ驅リテ遂ニ如何ニ大ナル行動ヲ爲サシメ得ルヤハ Taconノ會戰(千八百十四年三月九日及十日)後ニ於ケル夜間追撃之ヲ證明ス

Marmontノ軍團ハ之カ爲メ全滅シ二千ノ捕虜並ニ砲四十五門ヲ敵手ニ委セリ

千八百十五年六月十八日 Belle Alliance (又 Waterlooノ會戰ト稱ス)會戰後ノ追撃ハ極度迄斷行セラレ歴史上殆ト唯一トモ稱スヘキ戰術的追撃ナリキ Blücher 及 Gneisenau ハ「今各軍隊ハ最後ノ呼吸アル迄追撃スヘシ」トノ思想ニ導カレ牢乎タル決心ニ基キ追撃ヲ實施セリ此追撃ニ關シテハ更ニ章ヲ改メ諸君ト詳細ニ研究スル所アルヘシ

千八百六十六年及千八百七十年七月三十一日會戰ニ於テ普埃兩軍ノ主決戰ニ全敗セル埃軍ハ普軍セルト疲勞セルトニヨリ理論ハ追撃ヲ本領トスルモ實施ハ之ヲ爲ス能ハストノ説ヲ一時生セシムルニ至レリ

Nachol 戰後獨逸軍ハ追撃ヲ爲サハリキ

Königsgrätz (千八百六十六年七月三日)會戰ニ於テ普埃兩軍ノ主決戰ニ全敗セル埃軍ハ普軍ニ追撃セラレハコトナク Elbe 河ヲ越エテ退却シ困難危殆ナル狀況ヨリ脱逸セリ埃國ノ豫備砲兵ハ停止シテ陣地ヲ占領シ又其若干騎兵師團ハ斷乎トシテ前進シ退却ヲ掩護セリ普軍歩兵ノ一部ハ戰鬪ニ依リ又其他ハ前進ニヨリ疲勞シ追撃セス騎兵ハ一部前進セルノミナリキ

Blumenthal (第二軍參謀長)ハ記シテ曰ク「余ハ余ノ所持シ得ル騎兵ノ全部(約六聯隊)ヲ前遣セリ次テ豫備騎兵モ前進シ茲ニ騎兵ノ兵力ハ四十乃至五十中隊トナレリ然レトモ Seydlitz 今ヤ存セス騎兵ハ停止シテ又何事モ爲サス」ト

モルトケハ普埃戰役ノ經驗ニ鑑ミ追撃ニ關シ詳細ナル規定ヲ軍隊ニ配布セリ該訓示ハ今日猶採ツテ以テ範トスルニ足ルモノアリ騎兵ハ特ニ獨斷專行以テ自ラ決心シ命令ヲ受ケサルモ追撃ノ任務ニ當ルヘキ義務ヲ有ス故ニ戰鬪後ハ直チニ前進セサルヘカラス而シテ其前進愈々急速ナルニ從ヒ其効果益々大ナリト又其ノ他追撃ノ必要ニ關シテ曰ク敵カ退却シ得ルナレハ我モ亦必ス

追撃

千八百六十六年及千八百七十年七月三十一日會戰ニ於ケル追撃

Nachol 戰後

Königsgrätz 戰後

Blumenthal 第二軍參謀長

Seydlitz

Moltke 之命令

追撃

千八百六十六年及千八百七十年七月三十一日會戰ニ於ケル追撃

Nachol 戰後

Königsgrätz 戰後

Blumenthal 第二軍參謀長

Seydlitz

Moltke 之命令

追撃

千八百六十六年及千八百七十年七月三十一日會戰ニ於ケル追撃

Nachol 戰後

Königsgrätz 戰後

Blumenthal 第二軍參謀長

Seydlitz

Moltke 之命令

追撃

千八百六十六年及千八百七十年七月三十一日會戰ニ於ケル追撃

Nachol 戰後

Königsgrätz 戰後



Welsens-  
burg 戰後後  
ノ追撃  
Worth  
會戰後ノ追  
撃

前進シ得可キ理ナリト、又追撃ニ際シ追撃隊及之ニ續行スル軍隊カ廣正面ニテ前進スルノ必要等  
ニ關シ適切ナル指示ヲ與ヘタリ然ルニ千八百七十年普佛戰役ニ於テハ諸君ノ熟知セルカ如ク  
第一ノ會戰タル Welsensburg 及 Worth ニ於テハ戰鬪ハ午後二時乃至午後四時ノ間ニ終結セシ  
モ追撃ハ行ハルルコトナク敵ト觸接ヲ失ヘリ之カ爲佛軍ハ殆ト追撃ヲ受ケルコトナク退却セリ  
Worth ニ於テハ獨軍ノ騎兵ハ佛ノ退却線ニ對シテ使用セラレタルモ戰術上ノ小成功ヲ以テ満足  
セリ又 Welsensburg ニ於テハ獨軍騎兵ハ豫備騎兵ノ如ク使用セラレ後方ニ控置セラレ戰場ニ現  
出セシハ極メテ遅キ時期ナリキ

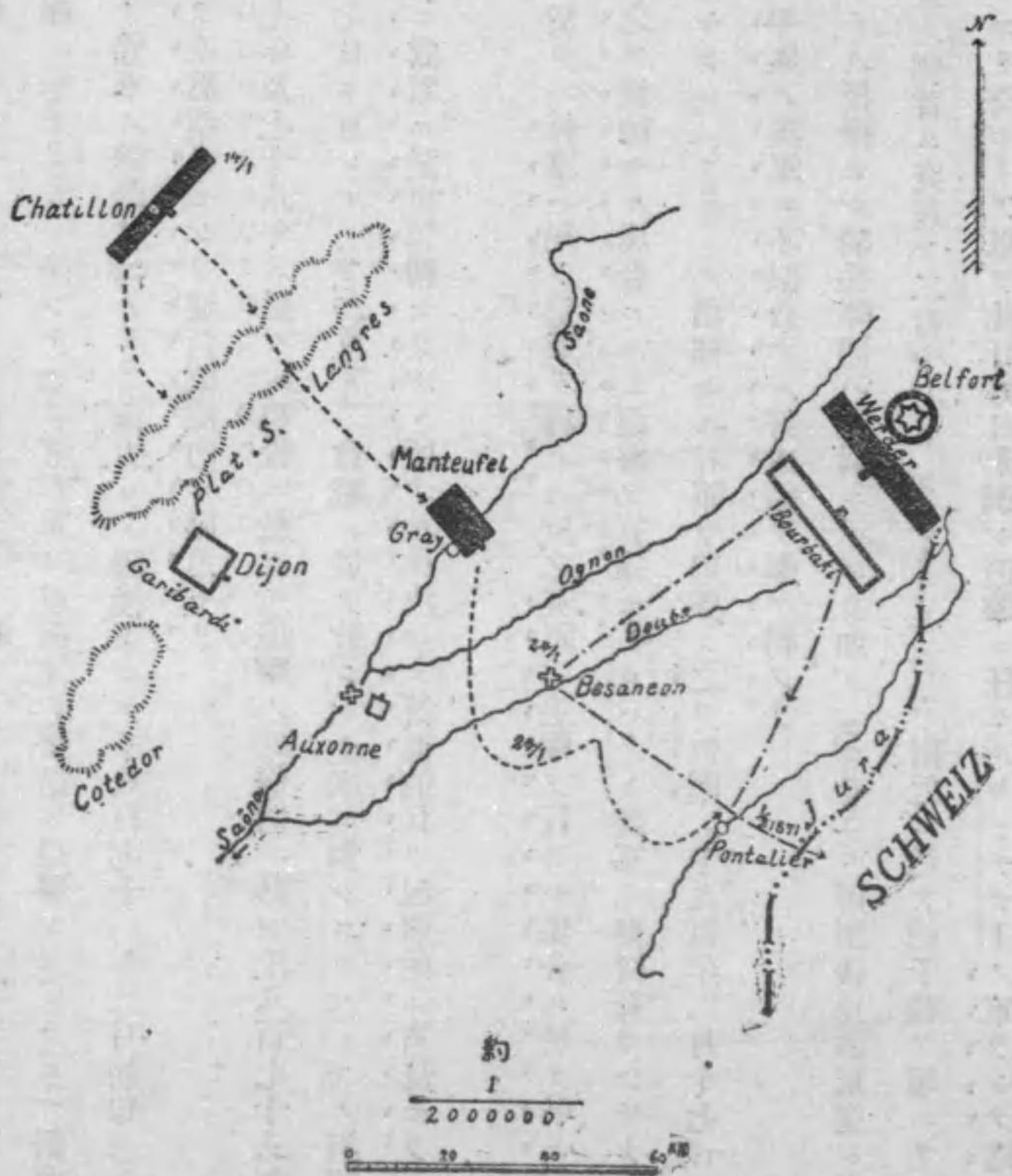
Worth ニ於テハ軍司令部ハ既ニ其勝利ノ確實ナルヲ信シモルトケノ原則ニ從ヒ追撃ヲ準備シ二  
個ノ平行縱隊ヲ進メ佛軍唯一ノ退却線ニ對シ使用シ北方ニハバイエルンノ Schleich 旅團ヲ又  
南方ニハ Württemberg ノ一旅團ヲ差遣セシモ甲縱隊ハ地形困難ナリシ爲メ遅緩シ乙縱隊ハ行進  
目標ニ向ツテ前進ヲ中止シ Froeschweiler ノ戰鬪ニ參與シテ遂ニ追撃ヲ實施セサリキ

其他ノ追撃

其他 Sedan 會戰後佛軍ノ Vinoy 軍團ノ脱逸シ得シ理由及 Orleans 會戰(千八百七十年十月十  
七日)後「フォン・シュミット」ノ追撃並ニ St. Quentin (千八百七十一年一月十九日)戰後ニ  
於ケル軍司令官 Goubaux ノ斷乎タル追撃命令並ニ其實施ノ之ニ伴ハサリシコト等ハ共ニ研究ノ  
價値アルモノトス

追  
撃

1105





普佛戰役ニ  
於ケル作戰  
上ノ追撃

露土戰役ニ  
於ケル追撃

南阿戰爭ニ  
於ケル追撃

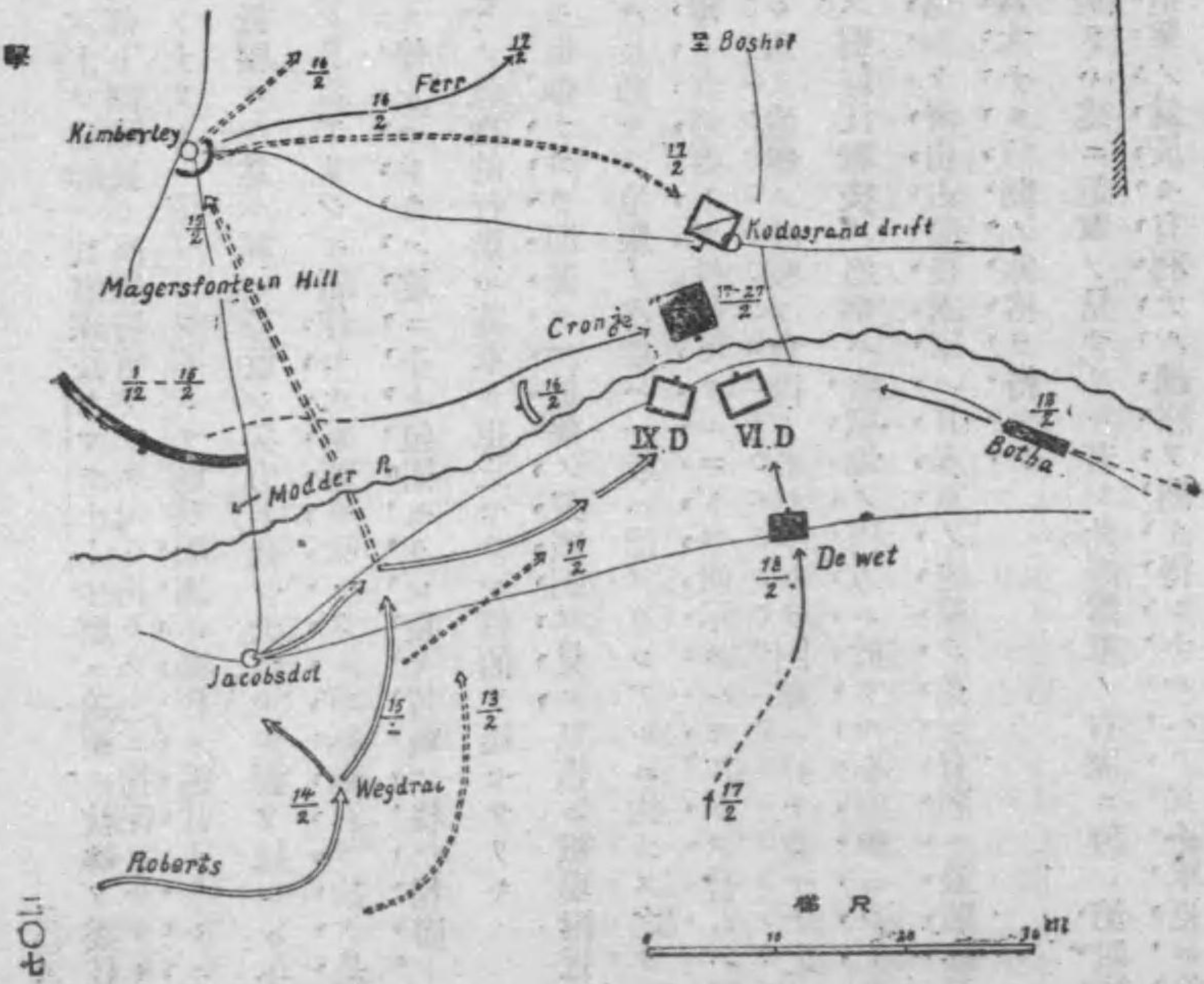
○普佛戰役ニ於ケル作戰上ノ追撃トシテハ、Mantoufelノ指揮セル獨南軍ノ追撃前進ヲ其一例(右圖參照)トス即チWander軍團ハBesanconニ向ツテBourbaki軍ヲ正面ヨリ緩徐ニ追撃シMantoufel獨南軍ハ迂回的前進ニ依リ佛軍ノ退路ヲBesancon南方ヨリ變換セシメ千八百七十一年二月初旬Pontalier附近ニ於テ佛軍ヲ全然潰亂セシメ瑞西國境內ニ壓迫セリ

○露土戰役ニ於ケル戰役ニ於テモ追撃ノ好適例ハ尠シ千八百七十八年ノ一月十五日ヨリ十七日ニ亘レルPhilippopol會戰ニ於テ敗レシ土軍ニ對シスコペレフノ指揮セル騎兵ノ追撃ハ大ニ露軍ニ於テ誇稱セラル、所ナルモ決シテ計畫的且ツ包圍的ニ實施セラレタルモノニアラス

○南阿戰爭ニ於テハ杜軍ハ殆ト追撃ヲ行ハス反之英軍ハ追撃ヲ行ヒシ場合ニ於テ特ニ名將ノ能ク斷乎トシテ之ヲ統帥セル場合ニハミ追撃ヲ實施セリロバート將軍ノ參謀長キツチナー少將カ全統帥ヲ委任セラレCronjeノ指揮セル杜軍ヲ追撃シ之ヲ包圍(千九百年二月十七日—十八日)セシ行動ハ平素ノ英軍ニ不似ナル好成绩ヲ擧ケ得タリ

當時フレンチノ指揮セル騎兵師團ハ左圖ニ示スカ如クKimberley解圍後長驅東進シ退却中ナルCronjeノ軍ノ側背ニ突進シ二月十七日Kodasrand drift附近ニ於テ約千騎ヲ超エサル兵力ヲ以テ徒歩戰ニヨリ全ボーア軍ヲ此日終日牽制シ追撃ニ任セルキツチナーノ軍ヲシテ遂ニ追及セシ

追撃



1107



日露戰役ニ於ケル追撃

鴨綠江戰後ノ追撃

南山戰後ノ追撃

得利寺戰後ノ追撃

遼陽、砂河、奉天戰後ノ追撃

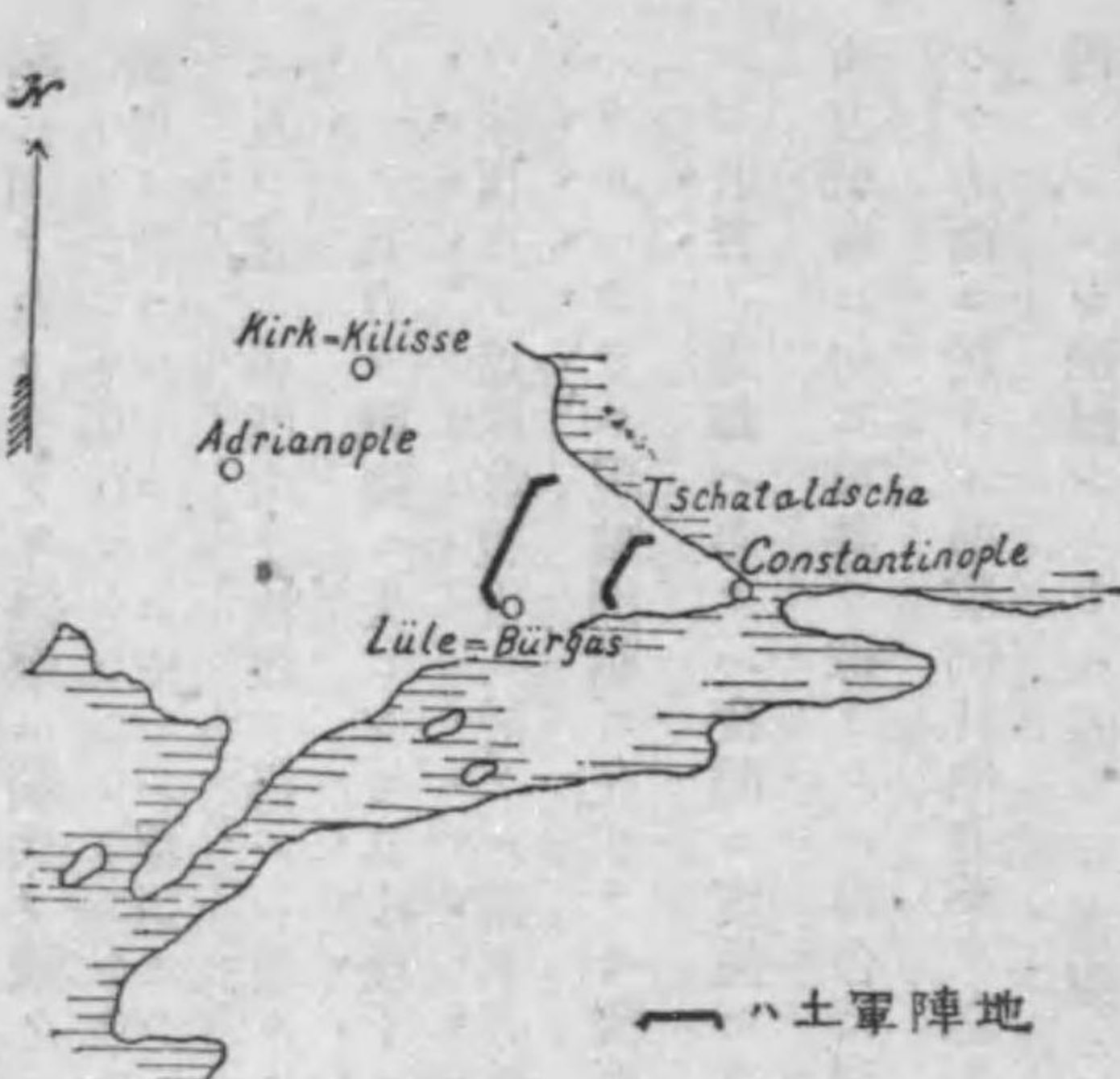
第一バルカン戰ニ於ケル追撃

メタリ、(當時ロバーツ元帥ハ其參謀長キツチナ一少將ニ追撃ノ統帥ヲ委任セ) C. G. 及其指揮スル部隊カ捕虜トナリシハ第一ニフレンチ騎兵師團ノ動作ノ適當ナリシニ歸セサルヘカラス當時此師團ハ敵ヲ欺騙スル爲小群ニ分散シ兵力ニ比シ大ナル正面ヲ探レリ尤モ Crouge ハ十七日夜退却ヲ爲シ得ル公算アリシモ隨伴セル家族ヲ乗セタル車輛數百ヲ捨テ是等家族ヲ置去ルニ忍ヒス依然其位置ニ停止セシカハ遂ニ全ク包圍セラレ長キ苦戰ノ後チ捕虜トナレリ De Witt 及 Botha ノ救援的行動ハ英軍ニ拒止セラレ目的ヲ達セザリキ

日露戰役ニ於テモ遺憾ナカラ顯著ナル追撃ノ好戰例ヲ見ス只僅ニ戰場附近ニ於ケル小規模ノ戰術追撃ノ教訓アルニ過キス追撃ノ必要ハ一般ニ認メラレアルニ拘ラス之ヲ實施スル能ハザリシハ即チ追撃ノ困難ト其必要トカ併行セサルコトヲ明示スルモノトス吾人ハ深ク過去ニ於ケル戰争ノ經驗ヲ巧究シ以テ追撃ノ呼吸ヲ會得シ敢然トシテ困難ニ打ち克テ之ヲ斷行シ得ルノ域ニ達セサルヘカラス鴨綠江戰後ノ追撃ハ會戰地ノ後方ニ於ケル小追撃ニシテ敵ノ後衛ニ對シ一撃ヲ與ヘ得タルニ過キス南山占領後露軍ハ日本軍ノ追撃ヲ免レ有利ニ旅順前面ノ要地ニ停止シ又要塞工事構成ノ爲大ナル時間ノ餘裕ヲ得タリ

得利寺ノ會戰ニ於テハ遂ニ追撃ヲ見サリキ若シ此際露軍ノ右側ニ對シ第四師團ニシテ極力前進セシナランニハ追撃ハ爲最モ有利ナル端緒ヲ開キ得シナルヘク又全軍更ニ追撃セハ戰況極メテ

有利トナリシナラン、遼陽、砂河、及奉天ノ諸戰ニ於テモ亦俱ニ斷乎タル追撃ヲ見サリシハ甚々遺憾ナリ蓋シ軍隊ノ疲勞ハ勿論極度ニ達シ彈藥及糧秣ノ補給亦意ノ如クナラサリシトハ云ヘ若シ當時我軍ニシテ大騎兵團ヲ有セシナランニハ敵ヲ追撃シテ大混亂ヲ生セシメ得タルナラン遼陽ニ於ケル數日間ノ交戰後第一軍ハ太子河左岸ニ在リテ露軍ヲ最モ有効ニ追撃シ得ル形勢ニ在リシニ係ハラス追撃ヲ實施セス又追撃力ヲ闕如セリ第二、第四軍ハ疲勞シテ追撃ノ餘力無ク雄大ナル騎兵亦存在セザリキ如此ニシテ敵ヲ殲滅スルコトハ到底爲シ能ハサルナリ而シテ敵ハ速ニ再ヒ氣力ヲ恢復シテ南面シ一二週ノ後ニハ既ニ露軍ハ其軍隊ニ敗戰ノ景況ヲ認メ能ハサル程戰鬪力ヲ回復セリト云フ



第一、バルカン戰(千九百十二年)ニ於テブルガリア軍カ Kirk-Kilisse 及 Lüle-Burgas ノ戰勝後果斷ニ土軍ヲ追撃セシナランニハ土軍ノ退却ハ愈々困難トナリ Tschataldscha ノ陣地ニ據ルコト困難トナリシナランブルガリア軍ハ追撃兵種タルヘキ充分ナル



騎兵團ヲ有セサリキ追撃ニ騎兵ヲ缺クヘカヲサルハ戰史ノ證明スルトコロナリ  
戰史ノ教ユルトコロニ依レハ撃退セラレタル軍隊ニシテ敵ノ有効ナル追撃ヲ免レタル時ハ容易  
ニ且ツ速ニ戰鬪力ヲ恢復シ得ルニ至ルモノトスワイセンブルグノ戰鬪後 Douray 師團ハ其三分  
ハ一ノ兵力ヲ戰鬪ニ失ヒシモ其後幾干モナクシテ起リシウエルト附近ノ會戰ニハ全然其戰鬪力  
ヲ恢復セリ遼陽會戰後ニ於ケル露軍亦然リ追撃ノ切要ナル又以テ推知スルニ餘リアルモノト云  
ハサルヘカラス現歐洲戰ニ在リテモ獨軍ニ於テハ斷乎タル追撃ニ關スル努力ノ跡ヲ認ムルヲ得  
ルモ敗者ノ退却ハ多クハ夜間ニ實施セラレ勝者カ適時追撃ヲ行フ能ハサル場合多シ獨軍ノ最初  
西方戰場ニ向ヒ攻勢ヲ採リタル場合勝利ヲ獲テ猛烈ナル追撃前進ニ移リシ時其ノ他東普及ガリ  
シヤ方面ニ於ケル追撃例其他追撃ヲ怠リシ爲メ直ニ敵ヲシテ有利ニ戰鬪力ヲ回復シテ正面シ  
得セシメシ例尠シトセス而シテ晝間ニ於ケル追撃ニ關スル件ハ別ニ問題トシテ諸君ニ研究セ  
シム

## 第二章

### ベル、アリアンス (Belle Alliance) 會戰

#### 後ノ追撃 (附圖第十三 第十四參照)

### 第一節

#### Belle Alliance 會戰ノ戰況概要 並追撃ノ開始

Belle Alliance ノ會戰 (千八百十五年六月十八日)ノ戰ニシテ之ヲ Waterloo 若クハ Mont St Jean  
ノ會戰ト云フ)ハ追撃ノ好例ニシテ極度迄戰術的追撃ノ實施セラレタル一例トス又戰略追撃ニ  
於テモ趣味アル情況ヲ呈シタリ

一般ノ戰況

此戰役ニ於テ奈翁ハブリユツヘル及ウエリントンノ軍ニ對シ作戰的中央突破ヲ行ハントシ初メ  
兩軍ノ連接點タル Charleroiニ前進シ六月十六日ブリユツヘルヲ擊破ス此日ネーハ二軍團ヲ率井  
Ligny 西北方 Quatrebras 附近ニ於テウエリントント對戰スナポレオンハ Grouchyノ部隊 (附圖  
第十三參照)ヲシテ Wavre 方向ニ追躡セシメ自ラ主力ヲ率井テウエリントンニ向ヒ攻勢ヲ取ル  
ウエリントンハ退却シテ Waterloo 附近ニ陣地ヲ占領ス六月十八日ナポレオンハウエリントン  
ヲ攻撃セシカ此日遅ク不意ニブリユツヘルヨリ側面ヲ攻撃セラレ大敗スグルシーハブリユツヘ  
ルノ殘置セシ普ノ軍團ヲ Wavre 附近ニ擊破セシモナポレオンノ熱望セシ主戰場ヘハ戰鬪參加  
ヲ爲サハリキ

戰況ハ概要前述ノ如クナルモ午後八時頃フランスノア (Plancenoit)カ普ノビューロー (Billow)  
軍團ニ依リ略取セラレタルヨリ佛軍ノ右翼ハ全ク壓倒セラレシャルロア (Charleroi)ニ通スル

追撃



追撃ノ決心

註  
グナイゼナウ  
ハブリユツ  
ツヘルノ參謀長

英軍追撃拒絶

追撃開始  
追撃部署

退路ハ大脅威ヲ受ケナボレオンハ全敗ニ歸シ午後九時頃戰場ヲ去レリ茲ニ於テブリユツヘル

二二二

(Blucher) 及グナイゼナウ (Gneisenau) ハ直ニ追撃ニ決ス然ルニウエリントンハブリユツヘル

自ラ同將軍ニ追撃ヲ要求シタルニ拘ハラス軍隊ノ疲勞大ナルヲ以テ夜間追撃ハ不可能ナリ軍隊

ハ野營地ニ歸還セシメ秩序ヲ回復シ且休養セシムルノ必要アリトシテ之ヲ拒絶セリプロイセン

軍ハ十五、十六日戰鬪ヲ爲シ十七、十八日ハ絶エス行進シ殊ニ此會戰ノ日タル十八日ハ午前四時

出發セリ當時天候不良ニシテ道路泥濘甚シク殊ニブリユツヘル軍ハ本道ニアラサル側路ヲ經テ

轉進シ戰鬪ニ參加セシニヨリ行軍一層困難ナリキ又ビュロー軍團ハ晩頃ノ戰鬪ニ於テ其軍團

ノミニ於テ既ニ六千三百人ヲ失ヘリ、グナイゼナウノ追撃部署ハ軍隊ノ疲勞困難此ノ如ク大ナ

リシニ拘ラス勝利ニ喜悅シ疲勞セル軍隊指揮官及軍隊ヨリ歡迎セラレ午後十時頃ニハプロイセ

ンノ全軍ハ既ニ退却中ノ敵ニ對シ悉ク追撃運動ニ移レリ此追撃ハ會戰後ニ於ケル直接追撃ノ稀

有ナル好實例ナリ、グナイゼナウハ追撃ノ爲ナボレオンヲシテ其敗殘部隊ヲ以テテイル(Dyke)

川ノ後方ニ集合シ隊伍ヲ集結セシムル時間ヲ得セシメサルヲ最モ必要ナリトシ出來得ル限りノ

軍隊ヲ夜間直ニチユナツプ(Genappe) — シヤルルロア(Charleroi) 街道上ニ前進セシメントセ

リ先ツビュロー及チーテン(Ziegen) 軍團ノ全騎兵、次テビュロー軍團ノ諸大隊、チツベル

スキルヒ(Tippelskirch) 旅團(Pirch 軍團ニ屬ス)ノ順序ヲ以テ特ニ軍隊區分ヲ行フコトナク

速ニ敵ヲ追撃シ敵ヲ騷擾セシメ敵ヲシテ夜間ノ休止ヲ得セシメサルヲ主トシ猛進セリ

午後九時三十分ブリユツヘルハベル、アリアンス會戰後ニ於ケル追撃ニ關スル命令ヲ與ヘ各軍

團ノ任務ヲ次ノ如ク定メタリ  
一、ビュロー軍團(第四)ハシヤルルロアニ通スル街道ヲ前進シテ敵ヲ追撃ス

二、チーテン軍團(第一)ハビュロー軍團ニ續行ス  
三、ビルヒ軍團(第二) (チツベルスキルヒ旅團缺) ハワーブル(Wavre) ニ前進シチールマン

(Thielmann) 軍團(第三)ト協同シグルーシーノ退路ヲ遮斷ス

各軍團ハ各必要ナル秩序ヲ整ヘ夜間ノ前進運動ヲ規正スル爲勿論若干ノ時間ヲ要シタリチーテ

ン軍團 Maison du Roi 附近ニ集合シビルヒ軍團 (チツベルスキルヒ旅團缺) ハ夜半ワーブル

ニ向ヒ其他ノ諸隊ハ街道ニ沿ヒシヤルルロアニ向ヒ直接追撃セリブリユツヘル及グナイゼナウ

ハ先頭ニ前進セルビュロー軍團ノ許ニアリ其軍隊ノ前進順序ハビュロー軍團チーテン軍團

ノ騎兵、ビルヒ軍團ノチツベルスキルヒ旅團チーテン軍團ナリシカ如シ

此集團セル猛烈ナル追撃ハ潰走スル佛軍ノ敗殘部隊ヲ續々壓迫シツツテイル河河畔ニ到達セリ

此間唯敵ノ敗殘兵ニ衝突シタルノミ時正ニ夜半ニシテ暗黒深シ、退却セル敵ハ初メテチユナツ

プ(Genappe) 附近ニ於テ若干ノ抵抗ヲ試ム同市街ノ縁端ハ敵之ヲ占領シ又テイル川ノ前岸ニハ

追撃

二二三

初メブリユツヘルノ各軍團ハ約三萬ノ兵力ヲ又ナボレオンノ軍團ハ其兵力一萬乃至二萬五千ニシテ騎兵團ハ其兵力三千乃至三千五百ヲ有ス(騎兵團ハ四旅團ヨリ成リ當時ウオターロー方面ニ三旅團ヲ有シ又一旅團ハグルーシーノ指揮下ニアリ)



廣範圍ニ敵ノ露營ヲ認ムテユナツブノ縁端附近ニハ烈シキ銃聲起リ追撃中ノ全部隊ハ依然續々前進シツ、在リ

第一問題 (試問)

グナイゼナウノ決心

右原案

決心

直チニ前面ノ敵ヲ攻撃セントス

第二節 情況

軍ハ續テ追撃前進シ本街道及之ニ沿フテイル川ノ橋梁附近ハ敵ハ敗殘部隊潮ノ如クナリテ退却シ先頭ニ追撃中ノ普ノ軍隊ハ之ニ混入シ大混雜ヲ以テ猛進シ右前方ノ諸大隊ハ大鼓ヲ打チ螺ヲ吹キ、喊聲ヲ擧ケテユナツブニ向ヒ進入シ銃聲又盛ニ各所ニ起ル同時ニ砲兵ニ中隊モ此戰鬪ニ參加シテ射撃ヲ開始ス此猛烈果敢ナル亂攻撃ニヨリ苦モナクデユナツブハ占領セララル、ナポレオンハ此地ニ於テ漸ク捕虜タルヲ免レテ逃退シ砲八十門ヲ敵手ニ委スルニ至リ、又此夜ブリユツヘルハデユナツブニ宿營シビュロー軍團モ亦此地ニ停止シ騎兵ノ集團ノミカトトルブラ

問題

原案

情況

第二問題 (試問)

グナイゼナウハ如何ニスルヤ

右原案

續テ追撃ヲ實施スルヲ要ス

但益々隊伍ヲ集結シテ前進スルニ努ムヘシ

第二節 情況

此ノ如クシテ漸次兵力ハ離散シ二百乃至三百ノ歩兵ハ乗車シテ尙騎兵部隊ニ續行スルアルノミ當時鼓手、喇叭手等ハ乘馬シテ襲撃ハ譜ヲ鼓奏シツツ追撃前進シタリト云フ天明グナイゼナウガゴセリー (Goselie) 附近ニ達シタル時ニ於テハ其跟随セル兵力ハ、全ク一握シ得ヘキ如キ少數トナリシガ時恰モプロイセンノウイルヘルム親王ノ指揮セルビュロー軍團ノ豫備騎兵同地

追撃



ニ着シ之ト相合ス該騎兵ハ閉塞セラレタル本街道ヲ避ケ退却スル佛軍ノ側方ヨリ追撃ヲ實施セ  
ハトシ側路ヲ前進シ此地點ニ出テ來リタルモノトス此夜ニ於ケル夜間追撃ハ其經過距離實ニ二  
十五吉米以上ニ達セリ

第三問題 (宿題)

ベル、アリアンス會戰後ニ於ケルブリエツヘルノ夜間攻撃ニ關スル所見ノ概要

第四節 情況

グルーシーハ十八日ワープル附近ニ在リシプロイセンノ少ナクモ約一軍團半以上ノ敵ヲ攻撃ノ  
後之ヲ擊破シワープルヲ占領セリ敵ハ少シク北方ニ退却セルモブリユヘルノ主力ハ何レガニ運  
動シ轉進セリ此夜グルーシーハウオータール(Waterloo)附近ニ於テナポレオンハ全ク大敗シ  
南方ニ向ヒ退却中ナルコト同會戰ニハブリユツヘルノ主力參加セルコトヲ知リ並同時以前ニ主  
力ノ會戰ニ參與スヘキ任務ヲ受ケタルモ時機已ニ遅レタルコトヲ知レリグルーシーハ二軍團ト  
騎兵一旅團ヲ有ス

第四問題 (宿題)

六月十八日夜ニ於ケルグルーシーノ情況判斷

但判決及概要ノ理由ヲ記シ處置ヲ要セス

第四問題學生案

學生諸君ノ答案ハ概シテ次ノ八案トス

- (1) 一部ヲ以テ西方ノ敵ニ對セシメ主力ヲワープル(Warre)附近ニ集結シ敵情ヲ偵察スルヲ要ス
- (2) 敵ヲ牽制シテ本軍ノ退却ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テプランスノワ(Plancenoit)方向ニ前進スルヲ要ス
- (3) 一部ヲ以テ當面ノ敵ニ對セシメ主力ヲ以テ直ニ出發ジユナツプ(Genappe)ニ前進シ佛軍主力ヲ追撃中ナル敵ヲ攻撃シ其退却ヲ容易ナラシムルヲ要ス
- (4) サンブル(Sambre)川右岸ニ退却シ本軍ノ退却ヲ容易ナラシムルヲ要ス
- (5) 先ツナミユール(Namur)方向ニ退却シ明日以後ニ於ケル第二ノ企圖ヲ決行スルヲ要ス或ハ先ツナミユール(Namur)ニ退却スルヲ要ス
- (6) 全力ヲ以テシャルルロア(Charleroi)ニ退却スルヲ要ス
- (7) シャルルロア(Charleroi)附近ニ退却シ堅固ニ陣地ヲ占領シナポレオンヲシテ恢復攻撃ヲ容易ナラシムルヲ要ス



(8) 速ニ皇帝ノ手裡ニ歸シ其再舉ヲ圖ル爲急行巴里ニ退却スルヲ要ス

以下予カ原案ヲ述ヘントス

原案

原案

先ツ理由ヨリ述ヘン

理由

一、ナポレオンハベル、アリアンス附近ノ會戰ニ於テ激戰ノ後大敗シテ南方ニ向ヒ退却中ナリ聯合軍ハ躊躇ナク追撃ヲ續行シ廣正面ヲ以テジユナツプ (Genappe) シャルルロア (Charleroi) 方向ニ前進スルト同時ニ一部ヲ以テグルーシー (Grouchy) 兵團ノ背後ニ向ヒ前進スルナラン殊ニブリユツヘルノカッツバハ (Katzbach) 會戰後ニ於ケル追撃及其他ニ於ケル行動ニ徴スレハ此事ハ必ス豫期セサルヘカラス

グルーシー (Grouchy) ニシテ依然明日攻撃前進シ或ハ今夜尙ホ現在地附近ニ停止センカ正面ノ敵ハベル、アリアンス會戰ノ勝報ニ接シテ攻勢ニ轉シ牽制的動作ニ出テ又同會戰ニ參與セシト想像セラル、ブリユツヘル主力ノ一部ハグルーシーノ背後ニ迫ルヘキ危險ハ刻々増加シツ、アルヲ以テ依然現在地附近ニ停止スルハ不可ナリ

二、敗退セルナポレオンカ何處ニ先ツ停止スヘキヤ何處ニ於テ其兵力ヲ集結スヘキヤハ確言シ得サルモジユナツプ (Genappe) 附近ハ會戰地ニ近ク到底其兵力ヲ集結シ得ヘキ地ニアラス同地ハ著シク敗走セサル場合ニ於テ恐ラク後衛陣地タリ得ヘキノミナポレオン主力ノ集結ハ思フニ少クモサンブル (Sambre) 河左岸シャルルロア (Charleroi) 又ハ南方ハ地區ナラサルヘカラスナポレオンノ大敗セル場合ニ於テ敵ノ猛進ニ際シテハ或ハ尙一層其以南ニ兵力ヲ集結シ後圖ヲ計ルカ或ハ更ニ巴里ニ向ヒ退却ノ餘儀ナキニ至リ更ニ同地ヨリ捲土重來ヲ企畫セサルヘカラスル場合ヲ生スルコトアルヘシ之ヲ要スルニナポレオンノ再ヒ其兵力ヲ集結シテ行動ノ自由ヲ保有スヘキ位置ハ少クモシャルルロア南方ノ地區ナラン

三、グルーシーハ本戰ニ參與スルヲ得スシテ支作戰地ニ牽制セラレ遺憾已ムナキカ故ニ尙健在ハ軍ヲ以テ連合軍ノ側面ヲ衝キテ之ニ殺到シ奈翁ノ退却ヲ容易ニシ敵ニ打撃ヲ與ヘント欲スルモ此ノ如キハ猪勇ニシテ直ニ敵連合軍ノ思フ壺ニ陥リテ優勢ノ敵ヨリ全滅セラルハヤ明ニシテ少シク奈翁軍主力ノ退却ヲ容易ナラシメ得ルニ過キサラン情況ハ一變セリグルーシーハ宜シク將來再ヒ奈翁ト合シテ再ヒ新作戰ヲ實施セサルヘカラス此奈翁再舉ノ核心ト成ランカ爲グルーシー軍ハ重要ナル任務及價值ヲ有スルモノトス故ニ如上ノ情況ニ於テ其兵團ヲ大敗北ノ區域内ニ彷徨セシメ敵ニ包圍セラレ又ハ敵ニ擒ヘラルハ斷シテ之ヲ避



ケ速ニ敵ヨリ離脱シテ將來有利ニナポレオント相協同シ合一スルヲ肝要トス但此際一部ヲ以テ尙主力軍ノ退却ヲ容易ナラシムヘキ手段ヲ講スルコトヲ考慮スルコト必要ナリ

- 四、グルーシーニシテ本軍ノ退却ヲ容易ナラシメンカ爲西進シ追撃スル聯合軍ノ主力ノ側面ヲ衝カンカ此場合ニ於テグルーシーハ能ク追撃スル東方縱隊ノ行動ヲ妨害シ得ルモ其ノ他ノ聯合軍ハ恐ラク依然追撃ヲ續行シ得ヘク斯ノ如クニシテグルーシー兵團ハ漸次全然敵ヨリ包圍セラレ又ハ其ノ西進中既ニ北方若クハ西北方ヨリ反對ニ其側面ヲ攻撃セラレ遂ニ離脱スル能ハスシテ極メテ不利ノ形勢ニ陥ルノ恐アリ目下主要トスル所ハ敵ヨリ離脱シテナポレオンノ新作戦ノ爲其手裡ニ入ルニ在リ而シテナポレオン本縱隊ノ退却ハ正面ノ敵ニ對シテハ困難ナカラモ本縱隊自ラ之ヲ區處スヘキヲ以テ此場合ニ於テグルーシーハ一部ヲ以テ側方ヨリ追撃スル敵ニ對シ本軍ノ退却ヲ容易ナラシムルヲ以テ満足セサルヘカラス
- 五、以上ノ理由ニ依リグルーシーハ戰鬪有利ナルニ拘ハラズ直路直ニナミユール(Namur)ニ向ヒ退却シテ敵ト離脱シ其騎兵ノ主力及歩兵ノ一部ヲリグニー(Ligny)ヲ經テシャルロア(Charleroi)ナミユール(Namur)ノ中間地區ニ退却セシメナポレオンノ本軍ト速ニ連絡シ且ツ其退却ヲ容易ナラシムルヲ可トスグルーシーカナミユールヨリマース(Maes)河右岸地區ヲ遠ク退却スヘキヤ或ハマース河左岸ニ出テナポレオン軍ト何處ニ於テ合衆ヘキ

判決

ヤハ爾後ノ情況ニ因ラサル可ラス

グルーシーハ直ニ先ツナミユール(Namur)以南ニ向ヒ退却スルヲ要ス

但シ騎兵ノ主力及歩兵ノ一部ヲ某將官ノ指揮ニ屬シリグニー(Ligny)ヲ經テナミユール(Namur)シャルロア(Charleroi)ノ中間地區ニ退却セシメ速ニナポレオント連絡シ且ツ其退却ヲ容易ナラシムルヲ要ス

第五節 第二問題 Belle-Alliance 會戰後ノ夜間 追撃ニ關スル所見ノ概要原案

其一、追撃ニ關スル一般の觀察

一、連日ノ行軍及戰鬪ノ疲勞大ナルト猶此日ノ會戰ニ於テ大ナル勞苦ヲ伴ヒタリシニ拘ラス能ク之ニ屈セスブリユツヘル及グナイゼナウカ敢然トシテ敵軍ノ全滅ヲ目的トシ斷然夜間追撃ヲ實行シ以テ戰勝ノ果ヲ終局マテ獲得セントスルト同時ニ又一旦會戰ニ失敗セルモ一度行動ノ自由ヲ得ル曉ニ於テハ機略縱橫直ニ捲土重來ノ舉ヲ爲シ得ル奈翁ニ對シツエリントシカ機宜ヲ誤リ徒ニ自己ノ安逸ヲ主トシ戰場ニ停止シテ協同追撃ヲ拒絶セルニ拘ラス進



テ、單獨追撃ニ移リ、奈翁ヲシテ再ヒ氣息ヲ恢復シ、聯合軍ニ對シ、動作スルコトヲ不可能ナラシ  
メントセシハ、獨リ統帥ノ原則ニ適合セルノミナラス、將來ニ於ケル敵將機動ノ方寸ヲ根本ヨ  
リ破摧セントセル頗ル戰機ニ適セル行動ニシテ、高級指揮官ノ聰明殊ニ斷乎タル決意及人格  
ノ力能ク之レカ實施ヲ得セシメタリ

二、軍隊カ此ノ如ク疲勞困苦ノ状態ニ在リシニ係ラス、斷然追撃前進ニ移リ得シハ、主將ノ斷乎タ  
ル決意鞏固ナル意志ト人格カ主トシテ、此疲勞飢饉及困難ヲ排除シ、軍隊ヲシテ喜ンテ困苦ヲ  
忘レ邁進セシメシモノナルモ、抑モ亦一方ニ於テハ受命者タル軍隊及下級指揮官ノ奈翁ニ對  
スル敵愾心ニ富ミタリシト又普國軍隊ノ全部カ未タ悉ク戰鬪ニ參與セルニアラスシテ、猶多  
少餘力ヲ有シタリシト共ニ戰勝ノ喜悅ニヨリ却テ勇躍シテ前進セントシ、且軍隊カ比較的良  
好ニシテ攻撃精神ニ富ミタルトニ因ル、此夜間追撃ハ斯克ノ如クシテ二十五吉米ヲ越エタリ

三、追撃ハ迅速ヲ主トシ、簡單ニ部署セラレ所在敗殘ノ敵兵ヲ壓シ之ヲ追撃セシモ Genappe 以南  
ハ寧ロ之ヲ大追撃ノ眞面目ナル實施ト見ルコト能ハス之レ單ニ斷然タル大追撃ノ一ツノ情  
性的ナル一小戰術追撃行動ナリ而カモ此果敢ナル小追撃カ尙所在敵ヲ壓シ又十九日早朝  
Bulow ノ全軍團ハ Genappe 附近ニ、騎兵ノ殆ント全力ハ Charlevot ニ近ク進ミ、當夜ニ於ケル戰  
術追撃ハ正ニ十九日早朝ヨリ直ニ、略有利ナル戰略追撃ニ連繫スルヲ得ルニ至リシハ、グナイ

ゼナウノ連綿不斷ノ邁進行動之ヲ然ラシメタルモノニシテ之レ又斯ノ如キ小部隊ノ追撃ト  
雖モ大ナル効果ヲ發揮シ得ル所以ナル良例ナリトス

四、佛軍ハ會戰ニ於テ大敗シ戰鬪ノ終局ニ於テハ殆ント全敗ノ姿ニシテ潰亂其極ニ達シタリキ  
斯ノ如キ場合ノ追撃ニ於テハ追撃者ハ最早殆ント整然タル部隊ト衝突スル憂ナク又眞面目  
ナル抵抗ニ遭遇スル顧慮ナク此ノ如クニシテ追撃戰鬪ハ縱令之ヲ惹起スルモ小規模ニシテ  
追撃者ハ單簡、大膽、粗漫ノ部署ニ依ルモ單ニ若干ノ損害ヲ生セシメンノミ故ニ斯ノ如キ  
場合ニハ拙速猛烈ノ追撃ヲ可トシ、緩慢整々ナル慎重追撃ハ戰況ニ適セサルモノトス諸君ハ  
軍隊ノ部署上戒心ヲ要スル程度ハ戰況ニ應シ數百ノ階段アルモノナルコトヲ知ラサルヘカ  
ラス然レモ大ナル戰略關係ヲ顧慮シ戰術上ノ直接追撃ト共ニ將來ノ戰略的追撃ニ配慮スル  
ハ勿論必要ナルモ此事ニ關シテハ猶後ニ述ヘン

佛軍大敗ノ事實ハ勿論 Waterloo 戰後ノ追撃ヲ著シク容易ナラシメタリ本追撃ハ始メハ  
「大」次イテ「小」後ハ「最小」ナル武力ト勢ヒトヲ以テ追撃セルモノナリ然レトモ克ク敵ノ  
騷擾ヲ増加シ集合シ休憩シ秩序ヲ恢復スルヲ妨ケ敵ヲシテ新ニ抵抗ヲ企圖セシムルノ時間  
ヲ與ヘサリキ  
蓋シ十九日夜ノ追撃ハ佛國ヲシテ Belle Alliance ノ勝者ノ脚下ニ伏セシメ、巴里ニ至ル迄途ニ



何等着目スヘキ抵抗ヲ爲スヲ得セシメサリシ基礎ナリトス。斯ノ如クシテ、此夜間追撃ハ大勝ヲ利用シ、敵ヲ全滅セント企圖シ、且敵將ノ機略ヲ一舉ニ破摧セントセル一ツノ模範例ト見ルヲ得ヘシ、但シ其努力カ最初ニ於ケル猛烈及大規模ニ似ス。終局迄其勢ヲ以テ斷行スル能ハサリシヲ遺憾トス。

五、高級指揮官ノ意志ト人格カ克ク一方ニ於テ追撃ヲシテ茲ニ至ラシメシ事實ト他方ニ於テErich 軍團ノ部隊カ同一ノ普軍團ナルニ拘ラス、毫モ追撃ヲ敢行シ得サリシコトトニ想到シ吾人ハ統帥ニ任スル將帥ノ斷乎タル意志ト人格カ彌ガ上ニモ強固ニシテ優越ナルヲ希望シテ止マサルナリ。

六、Blücher 及 Gneisenau ハ人格其斷乎タル意志及攻撃精神ノ強烈ヲ以テシテ猶 Genappe 以南ニ大部隊ヲ前進セシメ得サリシハ蓋シ勇將ノ鼓舞激勵セル軍隊ト雖モ、遂ニ休憩ナクシテ連續シテ追撃ヲ續行スル能ハス。縱令軍隊ハ奮然トシテ追撃行動ヲ行ヒタルモ、遂ニ軍隊ニハ一定ノ休憩ヲ爲サシメサルヘカラサルコトカ事實ナルヲ證明セリ、即チ大部隊ニ要求スヘキ非常行動ニハ一定ノ限度アリテ Genappe 以南ニ前進スルハ殆ント不可能ナルヲ示シ、其以上大部隊ヲ以テスル追撃前進ハ蓋シ人力以上ノ大能力ヲ要シ、統帥者ノ鞏固ナル意志能ク無限ナルニアラスンハ更ニ此追撃軍隊ヲ驅テ南方ニ邁進セシメ能ハサルモノトス。高級指揮官ノ

意志ハ須ク無限ニ強固ナラサル可ラス、吾人ハ須ラク此域ニ達セサル可ラス。

七、大部隊ノ追撃ニ於テ此無限ノ困難アルニ拘ラス、猶一部ヲ以テスル追撃ハ依然續行スルコト可能ナリ、Gneisenau ハ小部隊ナルモ終夜強力ニ追撃シ其鼓奏シテ敵ノ背後ニ迫マリタリシ行動ハ賞讃ニ値スルモノニシテ吾人ニ二度敗走シ精神上自信力ヲ失ヘル敗者ニ對シテハ斯ノ如キ小兵力ノ追撃ト雖モ大ナル感響ヲ與ヘ之ヲ恐怖潰走セシメ其敗走ヲシテ益々大ナラシムルコトヲ得ルヲ知ラシム、即チ斯ノ如ク敗走セル敵ニ對シテハ小部隊ト雖モ大危険ナク躊躇ヲ要セス、斷乎トシテ大敵ニ踵續シテ有力ニ追撃シテ可ナルノミナラス能ク大功ヲ收メ得ヘキモノニシテ小部隊ト雖モ猛烈ナル踵續的追撃ハ敗者ヲシテ停止シ得サラシムルモノナリ、是レ追撃ノ呼吸ナリ之レ戰爭本體ノ示セル追撃ノ真理ニシテ空虚ナル理論ノ示シ能ハサル所ナリ。

然レトモ、當時佛軍カ獨リ此小追撃ニ依リテ潰走シタリト見ルハ誤リニシテ佛軍ノ戰鬪地ニ於ケル大敗退カ大ニ與テ力アリタルモノトス。

グナイゼナウニシテ當時尙一層大部隊ヲ集結シテ追撃セハ猶有利ナリシハ言ヲ俟タスト雖グナイゼナウカ最後ニ最小部隊トナルマテ追撃セル行動ハ恐ラク殆ント堪エ得サル多大ノ困難ヲ冒シ、猶勇敢ニ追撃セシ事實ヲ證明セシナラン。



八、步兵ノ追撃ハ一定ノ範圍以上ニ能力ヲ發揮シ得サルモ騎兵ハ追撃上最モ有威活動セサルヘカヲ本夜間追撃又之ヲ證明シテ餘リアリ騎兵隊ノ一部ハ勿論其正面ヨリ其主力ハ側方ヨリ活動セシメサルヘカヲ本追撃ハ騎兵用法ノ適當ヲ失セル一例ナリ諸君ハ常ニ追撃ニ於テ騎兵ノ用法ニ多大ノ注意ヲ拂ハサル可ラス

其二、追撃ノ統帥ニ關スル戰略戰術上細部ノ觀察

一、Belle-Alliance 會戰後ノ追撃ハ如何ニ實施スルヲ適當トスルヤ

地圖及與ヘラレタル戰鬪ノ狀況簡單ナル爲メ本問題ヲ正確ニ答解シ得サルモ主要トスル所ハ直接猛烈ナル踵續的追撃ヲ爲スト同時ニ爾後ノ戰略追撃ニ便ナル如ク軍隊ヲ廣正面ニ亘リ追撃前進セシメ騎兵ノ大ナルモノヲ側面ヨリ敵ノ背後ニ前進セシムルヲ必要トス之レカ爲メ例ヘハ英軍ハ本街道(含マス)以西ノ地區ヨリ獨軍ハ本街道及其東方地區ヨリ併行路ニヨリ數縱隊トナリ夜間猶追撃前進シテ騎兵ハ各々其側路ヲ挺進シ退路スル敵ノ側背ニ迫ルヲ適當トシ又グルーシーノ背後ニ對シ其退却ヲ不可能ナラシムル如ク一部隊ヲ派遣スルヲ要ス  
ウエリントンカ追撃ヲ拒ミタルハ全然同意シ難シ  
プリユツヘルカ英軍ノ追撃ヲ拒絕セシニ係ラス斷然單獨追撃行動ニ出テシハ適當ニシテ

模範トスルニ足ル

二、プリユツヘルカ追撃方針及追撃部署ニ關スル觀察

A、第一ノ追撃方針及部署

- (a) グナイゼナウヲシテ不取敢ビユーロー軍團チーテン軍團ノ騎兵ビユーローノ諸大隊チツベルスキルヒ旅團ヲ追撃隊ト爲シ追撃ニ任セシメ直ニ追撃行動ヲ起シ其目標ヲDyle河畔ニ取リCharleroiニ通スル大街道ヲ前進シ敵軍ヲシテ同河畔ニ於テ集結ヲ妨ケ大追撃ノ端緒ヲ開キシハ適切ノ部署法ナリ但シ此際一部ノ騎兵ヲ正面ヨリ決意使用スルハ適當ナルモ猶チーテン軍團ノ騎兵及ビユーロー軍團ノ騎兵等騎兵ノ主力ヲ側方ヨリ敵ノ背後ニ進ムル區處ヲ爲ササリシハ遺憾ナリ
- (b) 此追撃隊ノ選定ニ際シ敵方ニ近キ部隊ヲ以テ之ニ任シタルハ拙速ヲ尊ヘル追撃ノ要領ニ適セルモノトス
- (c) 追撃前進ニ當リ騎兵ノ決意前進ノ後特別ノ軍隊區分ナク追撃隊カ前進シタルハ奈翁ノ大敗後ノ狀況上迅速果敢ナル追撃前進法ニシテ此狀況上特ニ戒慎ノ必要ナカリシナラ
- (d) 追撃前進ハ猛烈勇敢ニシテ追撃ノ要義ニ合セル行動ト認ム

追撃



(c) 併行縦隊ヲ進ムヘキヤ否ヤハ交通網ノ狀況ニ關シ特別地圖ナキヲ以テ研究ヲ略ス  
B、第二、本追撃ノ部署及追撃目標ニ就テ

一、追撃目標ハ之ヲ Sambre 河ノ線ニ選定スルヲ可トス

Genappe 附近ハ戰場追撃ニ連續セル追撃運動ニシテ第一ニ敵ノ後衛ノ抵抗並ニ部隊ノ集結ヲ妨害スルニ在リ軍ノ追撃ハ一層猛烈且廣範圍ナルヲ要ス而シテナボレオンノ部隊ノ集結又ハ第二ノ企圖ヲ爲サントスルハ Sambre 河以南ノ線ナルヘク其以後ニ於ケル追撃ハ新ナル區分ヲ爲スヲ必要トシ又 Sambre 河ノ通過モ新ナル區分ヲ必要トスルカ故ニ本縦隊ノ追撃目標ハ Charleroi 附近トシ其他ノ併行縦隊ハ之ニ應スル Sambre 河ノ線ヲ適當トス

但シ騎兵部隊ハ尙南方ニ選ヒ敵ノ背後ニ進出セシムルヲ可トス

二、追撃命令下達ノ時機ハ其ノ戰況ノ實際ニ徴セサレハ之ヲ論シ難キモ此混亂大ナル戰況ト其決戦期ヲ顧慮セハ其命令ハ迅速ニ下達セラレタルモノト認ム

三、追撃部署ニ就テ

(a) 追撃ノ部署ニ於テチツベルスギルヒ旅團ノ任務ヲ示ササリシハ其理由ニ苦シムビュローノ指揮下ニ入りタルモノナランカ

(b) チーテン軍團ハ併行追撃ノ要領ニ依リ本道西側ノ併行街道ヲ追撃前進セシムルヲ可トス同軍團カ Maison du Roi 附近ニ停止シビュロー軍團ニ續テ前進セサリシカ如キハ適當ナラサルコト明ナリ

(c) 前進ニ際シ尙ホ併行縦隊ヲ進ムヘキヤ否ヤハ道路網ニ關係スル所ニシテ要圖上茲ニ述ヘ得サルヲ以テ略ス

(d) チーテン軍團ノ騎兵ヲビュロー軍團ノ後方ニ使用シタルハ同意シ難シ前述セル要領ニヨリ使用スルヲ可トス

(a) 騎兵ヲ側方ニ進メ敵本軍ノ退路ニ對シ遠ク前進セシムルコトノ必要ニ就テハ前述セル所ニ同シ

(b) ビルヒ軍團ヲグルーシーニ對シ其退路遮斷ノ爲ニ前進セシメタルハ適當ノ處置ナルモ其行進目標ヲ Wavre ニ取ラシメタルハ適當ナラス斯ノ如キ場合ニハ斷然タル要求ヲ示シ必スグルーシーノ背後ニ迫リ得ル如ク直ニ出發 Mellery ヲ經テ Namur 又ハ Gembloux 方向ニ前進シ且ツ其到達點ヲモ示シ又ビュロー軍團ト嚴ニ連絡セシムルヲ要ス  
(g) フリュツヘル及グナイゼナウカ追撃ニ際シ常ニ前方ニ位置シ軍隊ヲ激勵推進シタルハ適當ナリ  
C、追撃前進ニ移リタル後ノ行動ニ就テ



一、午後十時、二軍ガ悉ク追撃前進ニ移リ得タルハ迅速ナル行動ト認ム

1) Genappe ニ至ル前ノ追撃ハ迅速猛烈ニシテ當時ノ戦況ニ適應セルモノト認ム

1) Genappe 附近ノ佛軍ニ對スル攻撃行動ハ又迅速ニシテ攻撃精神ヲ利用シ迅速ニ所望ノ目的ヲ達セルモノト認ム

斯ノ如キ戦況ニ於テハ斷然タル拙速の攻撃ハ直ニ敵ノ抵抗ヲ破摧スヘキモノニシテ緩慢遠巡ノ動作ニ出テ時間ノ餘裕ヲ敵ニ與フルカ如キハ斷シテ避ケサル可ラス

四、ブリユツヘルカ Genappe ニ宿營シビューロー軍團カ又同地ニ到レルモ軍隊ノ疲勞大ニシテ遂ニ停止スルニ至リタルハ軍ノ集團ニハ一定ノ休憩ヲ與フルヲ要シ又軍ニ要求シ得ル程度ニハ一定ノ制限アルコトヲ示スモノナルモ此停止ハ主義トシテ同意シ難シ依然 Sambre 河ノ線ニ向ヒ極力進撃ヲ行ハサル可ラス

凡ソ戰鬪勝利ヲ得タル場合ニ於テ軍隊ハ勝利ノ喜悅ニ滿チテ攻撃精神ノ興奮スルモ一方ニ於テハ安心ノ爲メニ疲勞倍加シ加フルニ夜間疲勞セル軍隊ニ一度休憩ヲ命セハ軍隊ハ死人ノ如ク睡眠シテ最早到底前進セシメ得ス一方ヲ覺醒セハ他方ニ既ニ睡眠ス斯ノ如キ場合ニ於ケル休憩ハ之レヲ廢セサレハ前進ヲ爲シ得ス

五、グナイゼナウカ盛ニ追撃前進セルハ嘆賞ニ値ス彼ヤ真ニ其名ヲ竹帛ニ垂レタリ但其追撃ハ

實施ノ内容及効果ヨリモ勇氣及追撃ノ精神ニ於テ吾人ハ之ニ學ブヲ要ス其ノ追撃ハ宜シク騎兵ノ全部並一層多クノ歩兵部隊ヲ以テ追撃前進ヲ爲スヲ必要トス各種ノ軍隊ノ多クノ單位ヲ混同シテ前進シタルハ奇異ノ感アルモ之レ多分戦況上機ヲ失セス混亂セル最前線部隊ヲ提ケ追撃前進シタルニ非ラサルカト思ハル

六、グナイゼナウカ隊伍ノ疎開モ部下ノ離散モ毫モ意トセス猛烈ニ追撃セルハ其追撃意志ノ如何ニ強烈ナルカラ知リ得ヘシ

此追撃ニ際シ隊伍ノ集結ニ關シテハ遺憾ノ點多キモ之レ敢行ノ強度遙ニ軍ノ能力ヲ越エタルノ結果ナランカ

七、騎兵ハ唯一ノ追撃兵種ナリ其前進行動ハ馬力ニ依リテ大ニ發揮シ得ルヲ以テ少クモ連續 Sambre 河ノ線附近ヲテハ前進スルヲ要ス

八、要スルニ本追撃ハ始メハ「大」ニシテ後ハ「小」續イテ「極小」ノ力ヲ以テ猛烈ニ實施セル追撃ナリ又此追撃情態ハ秩序ト集結トニ於テ缺クル所アリ殊ニ騎兵ノ用法ニ關シ缺點多シ又敵ノ側背ニ對スル戰略的追撃ノ觀念ニ乏シグルーシーノ背後ニ行動セシメタルビルヒ軍團ノ行動ハ極メテ緩慢ナリ

九、乗車セシメタル歩兵ヲ以テセル追撃、徒手、喇叭手ヲ以テ追撃ノ譜ヲ奏セシメタル事モ亦



一ツノ趣味アル適切ナル一小戰術的處置ト認メラル  
其他ウイールヘルム親王カ豫備騎兵ヲ提ケテ本道ヲ避ケ側方ヨリ追撃前進セル等ノ事實ハ今日ノ追撃ニ於テモ應用シ得ル適當ノ手段ナリ

Pirch 軍團  
ノ行動及其  
ノ觀察

第六節 情 況。(Pirch軍團ノ行動及其觀察)

Pirch 軍團ハ Thielmann 軍團ト Wavre 附近ニ相對セシグルーシーノ軍ニ迫リ之ヲ殲滅セントシ  
夜間前進ヲ起シタリ然レトモ上ニ英將ナキ時ハ斯ノ如ク疲勞セル集團ヲ驅テ前進セシムルコト  
困難ニシテ如何ニ人格ノ力カ軍隊ノ精神ニ影響スルコトノ大ナルカハ此ビルヒ軍團ノ行動ニ依  
リ知ルコトヲ得

此軍團ハ勿論疲勞シアリシカ軍隊ハ夜半漸ク出發シ著シク不良ノ道路ヲ經テ十九日午前漸ク  
メレリト (Mellery) ニ到着ス其追撃前進ハ緩慢ナリキ同地ニ於テ軍隊ハ全ク困憊シ爾後ノ前進  
ハ最早困難トナリ休憩ニ移ルヲ要スルニ至レリ

Gamboux (Charlaroi + Tittich 道ト Wavre-Namur 道ノ交叉點) ニ先遣セラレタル騎兵ハチー  
ルマン軍團又ハ Dyle 河畔ニ在リシ友軍ト連絡セス又 Namur ニ向テ退却スルグルーシーニ對  
シ何等ノ妨害ヲモ爲サスグルーシーハ疲勞セル軍隊ヲ以テ Sambre 河ヲ越エテ退却セリ

問題

斯ノ如クニシテグルーシーニ對シ實施セル追撃ハ之ニ任セラレタル各部隊ノ追撃ハ緩慢及協同  
動作ノ不充分、殊ニ高級指揮官カ極度迄敵ヲ追撃スル觀念ニ乏シカリシ爲失敗ニ歸セリ

第五問題 (宿題)

六月十九日朝ニ於ケルブリユツヘルノ情況判斷 但シ左ノ件ヲ顧慮シ作業スヘシ

- (1) ビューロー軍團ハ十九日早朝 Genappe 附近ニ Zützen 軍團 Tipperkirch 旅團ハ其後方ニ在  
リ其騎兵ノ主力ハ Charlaroi-Gosselies 間ニ位置ス
- (2) ブリュツヘルハ Genappe ニ在リ
- (3) 敵ノ敗殘兵ハ軍ノ前方後方ニ散亂シアルモノアルモ Charlaroi 及 Maubenge 要塞ハ敵兵之  
ヲ占領シアリ
- (4) Thielmann 及 Pirch 軍團ニ關シテハ尙報告ニ接セス
- (5) グルーシーハ Namur ニ向ヒ退却セルカ如シ

注意 本問題ハ宿題トシテ課スル豫定ナリシモ學期末ニ際シ研究時間ノ不足上之ヲ略セリ今後  
述フル經過ト對シテ自ラ研究スヘシ



六月十九日  
以後ノ戰畧  
追撃ニ就テ

### 第七節 六月十九日以後ノ戰略追撃ニ就テ

本經過ハ情況ノ經過變遷ニ伴ヒ多數ノ興味多キ問題アリ然レモ今ヤ諸君ト充分研究スヘキ  
授業時間ヲ有セス諸君カ他日適當ナル地形圖ニヨリ又一層詳細ナル戰史ヲ研究シ得ル機會  
アリタル場合ニ於テハ更ニ研究セラレンコトヲ望ム

六月十九日ブリユツヘル及グナイゼナウハグルーシーニ對スル追撃不成效ニ終リシト雖モ續テ  
ナポレオン軍ノ敗敵ヲ追撃殲滅シテ巴里ニ向テ邁進スルニ決ス此日チーテン軍團ビューロー軍  
團ビルヒ軍團ハ三縱隊トナリ相併行シテ巴里ニ向テ前進セリ炎暑酷烈ナリシニ拘ラス諸隊ハ平  
均日三十吉乃至三十五吉米ヲ經過シ同月二十二日 Hanappe-La Capelle ノ線ニ達ス實ニ Belle  
Alliance ノ戰場ヲ隔ツルコト百二十吉米ナリ此日チイテン及ビューローノ兩軍團ハ相合シテ休  
養ヲ規整シビルヒ軍團ハ Maubeuge 要塞前ニ停止セリ

ブリユツヘルハチールマンノ軍團ヲシテ速ニ軍ニ追及セシメ之ヲ追撃縱隊ノ左縱隊トシテ使用  
セントシ又ビルヒ軍團ハ巴里ニ向テ前進スル間ブリユツヘル軍ノ後方ニ多數存在スル佛國北部  
ノ諸要塞ヲ攻圍又ハ陥落スヘキ任務ヲ與ヘ同軍團ノ騎兵ハ巴里ニ向テ追撃ニ參與セシム  
Givet-Raoroi ヲ經テ急速ニ退却セシグルーシーニ對シテハ軍ニ僅少ノ部隊ヲ以テ之ヲ監視セシ

メタリ

ウエリントンハブリユツヘルノ要求ニ基キ普軍ヨリ二三日行程後レテ右後方ニ續テ前進スブリ  
ユツヘル軍ハ續テ前進中六月二十四日ブリユツヘルハ強大ナル佛ノ兵團カ (Southノ指揮スル約  
二萬ト稱セル) Laon 附近ニ集合シ同地ニハ尚 Belle Alliance ノ敗殘兵及其他約三萬ノ兵力ヲ  
有スルグルーシー兵團モ之レニ合一セリトノ情報ニ接ス

ブリユツヘルハ今ヤビルヒ軍團ヲ除キ六萬五千以上ノ兵力ヲ戰鬪ニ使用スル能ハサル情態ニ  
アリ

### 第六問題 (宿題) (既記ノ如ク學期末ニ際シ 研究時間ノ都合上省略)

ブリユツヘルノ情況判斷

### 情況並觀察

ブリユツヘルハ茲ニ於テ一時「Laon」附近ノ敵ニ向テ追撃行動ヲ中止シ (Oise 河右岸(西岸)ヲ經  
テ巴里ニ向ヒ前進スルニ決セリ彼ハ斯ノ如クシテ佛軍ノ新企圖ニ對シ Oise 河ノ堅固ナル障壁  
ヲ以テ其ノ側面ヲ掩護セラレ Laon 附近ニ停止セル佛軍ヲ包圍スヘキ端緒ヲ開キ又普軍左翼ノ  
先頭六月二十七日 Oise 河ノ渡河點タル Compiègne ニ又其ノ右翼ハ Pont St. Maxenceニ達スル  
迄敵ノ正面ニ若干ノ騎兵旅團ヲ行動セシメ之ヲ欺騙セシメタリ斯クシテブリユツヘルハ Laon

追 撃

問題



附近ノ敵ヲ巴里ヨリ遮斷セントシ其ノ主力ヲ以テ Ouzouer 巴里街道ニ向ヒ前進ス二十八日早朝  
グロトシーハ Villers-Cotterets 附近ニ於テ辛フシテ捕虜タルコトヲ免レタリ彼ハ必死ノ努力ヲ  
揮ヒ其疲勞セル軍隊ヲ以テ漸ク東方ニ大迂回ヲナシ巴里ニ向テ退却スルヲ得タリ

六月二十九日普軍ハ佛ノ首府巴里ノ正面 Conasse ニ達シテ近ク敵ノ首府要塞ヲ望ムニ至ル實ニ  
普軍ハ此時迄ニ約二百七十五吉米ノ距離ヲ十日間ニ前進セリ

ウエリントンハ緩漫ナカラモ絶エス前進ヲ續行セリ此時埃國及南獨逸聯邦軍ノ主力ハ漸クライ  
ン河ノ線ニ達シ續テ佛國ニ侵入セントスル情態ニアリブリユツヘルカバ里ニ向テ斷乎トシテ行  
ヒタル追撃前進ハ佛軍ヲシテ何等著大ナル抵抗ヲ途中ニ於テナスヲ得サラシメタリ然レトモ此  
追撃ニ方リ彼ノ軍モ亦著シク減耗セリ

六月二十九日ニ於ケルブリユツヘルハ如何ニ爾後ノ作戰ヲ指導スヘヤ

ブリユツヘルハ其ノ弱勢トナリシ軍ヲ以テ堅固ナル巴里ノ北正面ヲ攻撃スルヲ不利トナシ北正  
面ノ監視ハウエリントンニ任シ普軍ハ巴里ノ西方ヲ迂回シテ守備薄弱ナル巴里ノ南正面ニ向ヒ  
前進シ之レニ依リテ豊饒ナル Loire 河畔ニ對スル佛軍ノ連絡ヲ遮斷セリ此ブリユツヘルノ運動  
ハ佛軍ニ對シ決定的ノ打撃ヲ與ヘ佛軍ハ遂ニ開城ノ止ムヲ得サルニ至レリ

第八節 結論

諸君ハ右ノ戰略追撃ノ經過ニ鑑ミ追撃前進ニ於テ多數ノ興味豊カナル戰略戰術上ノ諸決心カ存  
セルコトヲ認メタルナルヘシ此等ハ又大ニ吾人ノ研究ニ値スヘキモノトス

ブリユツヘルノ Belle-Alliance 戰後ノ夜間追撃ハ既ニ詳細ニ論評セル如ク蓋シ模範トシテ見ルヘ  
キモノ少カラス又其巴里ニ向ヘル戰略追撃ニ於ケル軍ノ統帥法ハ着目ニ値スヘキモノアリ特  
ニ其果敢ナル決心迅速ナル追撃戰術的着眼用意ノ周到 (Oise 川ヲ渡河シテ敵ノ側背ヲ衝カン  
トシウエリントントノ戰略關係ヲ適當ニセシコト及同河ニヨリ其側面ヲ掩護シテ危機ヲ作ラサ  
リシコト) 等ハ着目ニ値ス然レトモ斯ノ如ク勇敢ニ實施セラレタル追撃モ亦遂ニ敵ニ追及スル  
能ハス戰史ニ於テ屢々見ル多クノ追撃ノ例ノ如ク遂ニ敵ト接觸ヲ絶チ敵ト離隔シ敵ノ退路ヲ遮  
斷スル能ハサリシコトヲ思ヘハ諸君ハ如何ニ完全ニ追撃スルノ困難ナルカヲ知ルヲ得ヘシ實ニ  
佛軍ハ第一夜ニ於テ既ニ Cambre 川ノ後方迄退却セリ之ニヨリテ之ヲ見レハ各級指揮官ハ其全  
幅ノ力ヲ傾注シ追撃ニ努力スルニ非サレハ決シテ敗者ニ追及スル能ハサルヲ知ルヘシ退却力ハ  
追撃力ヨリ大ナリ

世人往々普軍カウエリントント離レ單獨ニテ追撃シ Igaon 附近ノ敵ト接近セルハ危險ナリト稱



シ又 Waterloo ノ會戰ニ於テ敵ハ非常ニ潰亂セル故其後ノ追撃ハ徒勞ナリト言フモノアルモ余ハ全然同意スル能ハス吾人ハ常ニ全力ヲ盡シ、追撃ヲ完成シ敵ヲシテ再ヒ起ツ能ハサラシムルコトヲ努メサルヘカラス吾人ハ常ニ少ナク追撃スルヨリ多ク追撃スルノ可ナルコトヲ銘肝セサル可ラス過度ニ注意周到ナルヨリモ追撃ハ冒險ニ出ルヲ可トス又 Ligny 附近ノ敵ニ對スル Blucher ノ行動ハ用意周到ニシテ決シテ危險ヲ伴ハス本會戰ノ二年前即千八百十三年普國軍ハライプツヒ會戰後追撃ノ機會ヲ逸セリ又千八百十四年ニ於ケル慎重且逡巡的ナル作戰ハ敵ニ對シテ十分ナル打撃ヲ與フルコトヲ得サリキ今ヤ千八百十五年ナリ奈翁ハ日没セントスル太陽ニ等シ軍ハ須ラク面目ヲ一新シテ將ニ哀境ニ瀕シツツアル奈翁ニ對シテ最モ大膽ナル追撃及作戰行動ヲ實施シ彼ヲシテ再ヒ起ツ能ハサラシムルヲ要ス大体ニ於テ Blucher ノ作戰行動カ此意義ニ於テ指導サレツツアリシコトハ吾人ノ贊同ヲ禁スル能ハサル所ナリ

### 第三章 サン、カンタン 戰鬪後ニ於ケル追

#### 撃ノ觀察 (附圖第十 五參照)

##### 第一節 サン、カンタン (St. Quentin) 戰鬪ノ經過概要

將官 Faidherbe ノ指揮スル佛北軍ハ Paris ヲ包圍シツツアル獨軍ニ對シ第三回ノ作戰行動ヲ開

注意  
學期末ニ際  
シ研究時間  
ノ都合上單  
簡ニ觀察シ  
所見ヲ述フ

始シ一八七一年一月中旬 Reims ニ通スル鐵道線上 La Fere 向ヒ前進シ同地附近ニテ鐵道線ヲ破壞セントシ Bapaume ヲ經テ St. Quentin 方向ニ前進セリ而シテ同地占領後 Goeben ノ指揮スル獨軍ノ攻撃ヲ受ク佛北軍ハ第二十二軍團及第二十三軍團ヨリ成リ獨軍ハ第十五師團第十六師團並ニ第三豫備師團、及三個ノ豫備大隊並ニ多數ノ騎兵、騎兵第十二師團及騎兵旅團二個ヨリ成ル戰鬪ハ St. Quentin 西方及南方ニ於テ Somme 川ニヨリ二個ノ地區ニ分割セラレテ實施セラレ町ノ西方ニ於テハ佛第二十三軍團ニ對シテ獨ノ第十五師團及一騎兵旅團、町ノ南方ニ於テハ獨ノ第十六師團ト第三豫備師團ト、佛ノ第二十二軍團ニ對シテ交戦セリ又獨軍騎兵ノ主力ハ右翼方面ニアリ其後戰鬪ニ參與セシ三個ノ豫備大隊ハ前述兩兵團ノ中間ニ使用セラレ攻撃ヲ實施ス

##### 第二節 戰鬪後ノ情況並、追撃ノ實施及其觀察

一月十九日日没ノ際佛北軍ハ遂ニ St. Quentin 附近ノ戰鬪ニテ大敗シ Goeben ノ攻撃ハ殆ント美事ニ實施セテレ St. Quentin ハ普軍ニヨリ占領セラレ佛軍ハ潰亂シテ退却ス此際 Goeben 將軍ノ急務トスル所ハ軍隊ノ疲勞困憊如何ニ拘ハラス軍ヲシテ極度迄追撃ヲ續行セシムルニアリ Napoleon 曰ク人類ノ能力ハ無限ナリ要ハ只鐵石ノ意志ヲ以テ此無限ノ能力ヲ利用シテ人類最

サンカンタン戰鬪後ニ於ケル追撃ノ觀察



後ノ餘瀝ヲ絞リ出ス人物ヲ發見スルニアルノミト Cochran ハ名將ナリ其軍ノ統帥ハ後年屢模範トシテ賞讃セララル然ルニ彼ハ夜半十二時初メテ其有名ナル命令即明日間斷ナク敵ヲ追撃シ全ク敵ヲ殲滅スヘシトノ命令ヲ部下ニ與ヘタリ其大要ニ曰ク

佛北軍ハ全ク撃破セラレタリ今ヤ其勝利ヲ利用セサルヘカラス吾軍ハ今日戰鬪セリ明日ハ敵ノ敗退ヲ完全ニスルタメ吾人ハ前進セサルヘカラス敵ノ一部ハ Cranberry 方向ニ其他ハ Guise 方向ニ退却セルモノノ如シ我軍ハ敵カ其要塞線ニ達スル以前ニ於テ敵ニ追及セサルヘカラス

此目的ノタメ予ハ原則トシテ左ノ如ク定ム

各隊ハ明日五獨里ヲ前進スヘシ(約十二里)

歩兵ハナルヘク背囊ヲ車ニ載セテ携行スヘシ

各師團ノ出發ハ午前八時トス

此外各師團ニ追撃方向ヲ指定シ又 Cochran 自身ハ二十日正午 La Chapelle ニテ各軍隊指揮官ヨリ追撃ノ經過及成績ニ關シ報告ニ接センコトヲ期スト

本命令ハ明カニ Cochran ノ追撃ニ關スル意志ノ強固ナルコトヲ證ス然レトモ此追撃ノ斷乎タル意志ハ惜イ哉事實上其結果ヲ收ムル能ハサリキ思フニ其第一主ナル誤謬ハ追撃開始前ニ一夜

ヲ空過セルニアリ敵モ氣力盡キ戰場ニ近ク宿營セルナラント推定シ土地ハ雪解ケノタメ柔カニ夜ハ時シモ一月中旬末ニシテ非常ニ寒ク獨ノ軍隊ハ此日至難ナル苦戰ノ後大ニ休憩ヲ欲セリ此疲勞困憊ハ遂ニ軍隊ヲ St. Quentin ノ市街及周圍ノ村落ニ宿營セシメ從テ大努力大苦戰ノ後戰勝ヲ得タル此一夜丈ハ少クモ露營ノ困苦ヲ免レシメ軍隊ヲ休養セシメントセシ將軍ノ慈愛ニ滿チタル區處ハ遂ニ軍隊ヲ廣地域ニ宿營セシメ從テ配宿ニ時間ヲ要シ又翌朝午前八時出發センカタメ軍隊ハ天明以前頗ル早ク宿營地ヲ出テサルヘカラサリキ二十日濃霧四方ヲ鎖シ道柔カニシテ行進困難ナリ此日獨ノ軍隊ハ Cochran ノ要求セルカ如ク五獨里ノ行進ヲ實施シ敵ニ追及セントセシモ既ニ敵ト觸接ヲ失ヒ只數百人ノ敵ノ落伍者ヲ捕獲シ得タルニ過キサリキ又獨軍ノ騎兵部隊ハ Cambrai 及 Landreies ノ要塞前ニ達セシモ何等ナス所ナカリキ是ヨリ先佛北軍ハ十九日夜既ニ約四〇吉米ノ退却ヲナシ之カ爲メ獨軍ノ一切ノ追撃ヲ免ル然レトモ此夜間退却ノタメ佛軍ノ志氣ハ全ク阻喪セリ思フニ此戰例ニヨリ其他又他ノ戰史ノ示ス所ニ依ルモ敗者ノ退却力ハ勝者ノ追撃力ヨリモ常ニ其速度偉大ナリ自衛力ノ作用ハ敵ニ追及シ之ヲ殲滅セムトスル觀念ヨリ強烈ナリ追撃成功ノ呼吸ハ此差等ヲ有セル溝渠ヲ超越シテ更ニ一步ヲ進ムルニアリ

蓋シ十九日夜戰鬪ト追撃トノ間ニ休憩時間ヲ置カスシテ戰場ヨリ直ニ追撃行動ヲ起シ猛烈ニ前



進シ此日ノ會戰中殆ト協同動作ヲナサザリシ獨軍多數ノ騎兵部隊ハ側路ヲ經テ敵ノ退路ニ前進シ之ヲ遮斷セハ佛軍ハ殆ト騎兵ヲ有セザリシカ故ニ獨ノ騎兵ノ爲大ニ退却ヲ妨害セラレ獨軍ノ追撃ハ其ノ效果ヲ奏シ得タルナラム勿論此日獨軍ハ悉ク困難ナル戰鬪ニ參與シテ新銳ナル部隊ナク天候地形惡シク且夜間ニ際セル追撃ノ困難ハ勿論大ナルモノアリタルナラム然レトモ吾人ハ飽マテ此困難ヲ排除シテ猛烈ナル追撃ヲ實施シ戰鬪ノ成果ヲ完全ニ收メ敵ヲ殲滅スルニ全幅ノ力ヲ傾注セサルヘカラス

### 第五篇 將帥並其ノ司令部ニ關スル 戰史的觀察

#### 緒言

將帥ハ統帥ノ中心能力ニシテ其司令部殊ニ參謀長ハ統帥權發動ノ中樞機關ナリ三軍作戰ノ良否、勝敗ノ樞機主トシテ之ニ關ス誠ニ之レ吾人ノ深ク研究セサル可ラサル所ナリ諸君ノ現況ハ遠ク高等統帥ノ要諦ヲ論スルヲ許サザルモ高等司令官ト司令部カ如何ニ勝敗ニ大ナル關係ヲ有シ如何ニ國軍ノ運命ニ關スルカハ須ラク省察シ在ラサル可カラサル所ナルヲ以テ其一般ヲ茲ニ研究スルコトトセリ

モルトケ曰ク自ラ情況ヲ判斷シ自ラ決心シ決シテ他ノ補助官ヲ要セサル如キ將帥ハ蓋シ將帥中ノ明星ニシテ此ノ如キ將帥ハ百年ノ下向一人ヲ發見シ得サル所ニシテ多クノ場合ニ於テ將帥ハ其補佐官ヲ缺ク能ハサルモノトス之ヲ戰史ニ見ルニ將帥ト司令部ノ關係屢々其實ヲ缺キ特ニ將帥ト參謀長及參謀部ノ撰擇適當ナラスシテ國軍ノ勝敗ニ大影響ヲ及ホシ一將帥ニシテ自ラ古今ノ名將ヲ以テ居リ敢テ參謀長ニ諮ラスシテ自ラ事ヲ處シ、或ハ司令部ノ一致ヲ缺キ或ハ部員互ニ拮抗シ軍ニ不利ナル影響ヲ與ヘタルモノ又尠シトセス諸君ハ以下左ノ叙説ヲ見テ慄然トシテ戒メサル可カサルモノアルヲ見ルヘシ

#### 第一節 クロバトキン及其ノ司令部

凡ソ國軍ハ開戰ノ場合ヲ顧慮シ戰地ノ情勢ニ鑑ミ豫メ國軍ノ運命ヲ托スヘキ高等將帥及其他要職ニ任スヘキ者ヲ定メ動員ト共ニ成ルヘク速ニ任務ニ就カシムルコト肝要ニシテ其職務ハ平時之ニ熟練シアリタルモノナルヲ要ス然ルニクロバトキン大將ハ全然之ヲ無視シ戰爭ノ開始以來多大ノ混雜ヲ生シ軍作戰ニ至大ノ不利ノ情況ヲ生セシメタリクロバトキンカ軍司令官ニ任命セラルルヤ世上及軍人社會ニ於テ彼ノ參謀長ハ果シテ何人ナルヘキヤニ關シ大ニ噂セラレタリ之

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



ニ對シテハ何人モ之ヲ答解シ得ルモノナカリキ宜ナリククロバトキン自身又之ヲ知サル所ナリシヲ茲ニクロバトキンノ軍司令官ニ任セラレテヨリ三週日ヲ經タル三月十二日開戰一ヶ月後ニ至リ軍司令官ハ初メテ當時ノ首府ベテルスブルグヲ發シ戰地ニ向ヒ出發セリ軍司令官ノ出發遲延ニ關シテハ頗ル非難セル者多シ要スルニ此ノ如キ一般ノ作戰情況ニ於テハ軍司令官ハ速ニ戰地ニ至リ適切ニ情況ヲ判斷シ所要ノ處置ヲ執ルヲ必要トセルニ拘ラス彼ハ荏苒ベテルスブルグニ止マリ開戰當時ニ於ケル主要ナル部署ヲ爲スコトヲ怠リシハ自己ノ職責ニ忠實ナラサル者トシテ攻撃セラレタリ當時クロバトキンハ陸軍大臣ニシテ之カ後任者タルサハロウハ陸軍省ニ於ケル中央部長ニシテクロバトキン將軍直轄ノ部下タリ大臣官房長レデイガー（後陸軍大臣トナル同氏ハ千九百三年クロバトキンノ日本ニ旅行セルトキ）又陸軍省ニ留任セシヲ以テ陸軍大臣事務ノ交代ハ頗ル容易ナリシナリ故ニクロバトキンカ永ク露都ニ留マルヲ要スルノ理ナシククロバトキン將軍ハ當時常ニ人ニ對シ述テ曰ク極東ノ事ソレ忍耐スルニアルノミ忍耐ナル哉忍耐ナル哉吾人ハ終局ニ於テ日本軍ニ大打撃ヲ與フヘシ吾人ハ此時期迄忍耐セサル可ラスト恐ラク彼ハ極東ヘノ出發ヲ延引シ忍耐ノ模範ヲ示サント欲シタルナルヘシト冷評セルモノアリ又同將軍ヲ辨護スルモノハ曰ク戰況ノ未タ何等發展セサルノ今日クロバトキンノ極東ニ至ルモ何等爲ス所ナシ同地駐在ノ部隊ハ僅

少ニシテ何等活潑ナル企圖ヲ實行スルニ由ナシ須ラク吾人ハ逐次軍ノ集中ヲ待タサル可ラス速ニ極東ニ至ル必要毫モ之ナシト

其後クロバトキンカ極東へ出發セントスルニ至レルモ尙其參謀長ハ確定セスタクロバトキンノ言ナリトシテ露都傳フル所ニ依ルニクロバトキン曰ク余ハ參謀長ヲ要セス余ハ軍司令官ニシテ其參謀長ハ我自ラ之ニ當ランノミト蓋シ彼ノ自信力及其敏勉ナル作業力ハ或ハ此言ヲナサシメタルナラン然レトモ軍司令部ニハ參謀長ヲ缺クヲ得サルヲ以テ彼カ極東ニ向ヒ出發ノ日參謀長トシテ最モ有爲適任ナル某將官ニ對シ電報シ余今ヨリ滿州ニ至ルヲ以テ貴官ハ後滿州ニ來リ余ニ追及スヘキコトヲ命セリ然ルニ該將官ハ戰爭ハ既ニ一ヶ月前ニ開始セラレタルニ拘ラスクロバトキンノ作戰的企圖及使用シ得ヘキ兵力モ知り得サル情況ニ於テ彼ハクロバトキンノ參謀長トシテ赴任スルヲ快トセス斷然其要求ヲ拒絕セリ

千九百四年三月末クロバトキン將軍ハ滿州ニ到着スクロバトキンヲ評セル兵學家WA氏（クロバトキンノ事ニ關シ大ニ通曉ス）ハ主張シテ曰ククロバトキンハ滿州ニ到着前其赴任途中サマラニ於テ其幕僚ニミヒネウイチノ戰略論及塙國歩兵大將V. Kulinノ山地戰ノ二部ヲ直チニ本國ヨリ取寄スヘキコトヲ命セリWA氏之ニ關シ評シテ曰ク今ニ於テ彼カ戰論ヲ學ハントスル如キハ時機既ニ遲シト



クロバトキンノ滿州ニ到着スル迄ハ奉天ニ於テ極東總督アレキシーフ海軍大將ハ日本ニ對スル全陸海軍ヲ指揮シリネウイツチ大將(六十六歳ニシテアムール軍管司令官)ハ遼陽ニ於テ同地附近ニ集合セシ軍隊ヲ指揮セリクロバトキン大將ノ極東到着ニ依リリネウイツチ大將ハ南部ウスリー守備ノ爲メ後方ニ殘置セル二個師團ヲ指揮センカ爲メ遼東ヲ去レリ抑モクロバトキン將軍ノ參謀長ハ原則上リネウイツチ將軍ノ參謀長ヲ以テ之ニ任スルコト當然ニシテリネウイツチ將軍ノ參謀長ハヒヨルシユチエウニコウ將軍ニシテアムール軍管區參謀長トシテ既ニ三年間其職ニアル有爲ノ適材ニシテ戰地ノ情態等ニ關シ充分ナル知識ヲ有シ參謀長トシテ最モ適當ナリシノミナラス豫メ軍參謀長トシテ準備シ在リシナリ是レ平時同軍管司令部ハ極東軍ノ軍司令部下ナリリネウイツチハ軍司令官ニ同參謀長ハ軍參謀長トナル筈トナリ居リシヲ以テナリ然ルニクロバトキンハ彼ヲ其參謀長トナスヲ喜ハス彼ハ遼陽ニ於テ我軍團長ニハ古キ將軍多シ參謀長トナス爲メニハヒヨルシユチエウニコウ若キニ過クト稱セリ結局ウラヂイミル、サハロウハ軍參謀長トナレリ同人ハ元騎兵第四師團長ニシテ開戰當時西比利亞第一軍團長ナリキ現軍團長ヲ參謀長タラシムルハ大ニ考慮ヲ要ス勿論適任ナレハ之ヲナスヲ得ヘシ然ルニ當時クロバトキンノ選定ハ彼ヲ參謀長トシテ適任ナリトノ許ニ拔擢セシニアラス彼ノ有名ナルドラゴミロフ將軍之ヲ聞キテ露語ノ Kuropatka 雄鷓鴣ト Sachar 砂糖トノ料理ハ不味ナリト批評セリ

クロバトキン、サハロフトモニ其性格消極的ナリシヲ以テ其配合ハ益々露軍ノ作戰企圖ヲシテ退嬰的ナラシメタリ遼陽會戰ノ數日前參謀長ハ尙閑暇ヲ有シ露軍本營ニ於ケル野戰教會ニ於テ婚姻ノ式ヲ擧ケクロバトキン之ニ列シタリトハ豈ニ驚クニ堪ヘサルヘケンヤ

露軍ノ規定ニ依レハ軍參謀長ハ軍司令官ヲ第一ニ補佐スヘキモノトス軍司令部ニハ八個ノ主務課及八個ノ附屬部アリ其主務課ト稱スヘキモノハ

- 一、參謀次長ノ統轄スルモノ
- 二、General du jour ノ統轄スルモノ
- 三、陸軍交通長官ノ統轄スルモノ
- 四、軍經理部長ノ統轄スルモノ
- 五、砲兵監ノ統轄スルモノ
- 六、工兵監ノ統轄スルモノ
- 七、野戰會計長官ノ統轄スルモノ
- 八、野戰監督長官ノ統轄スルモノ

參謀次長ノ統轄スル部ニ於テハ作戰及牒報勤務ノ凡テヲ取扱ヒ General du jour ノ統轄部ニ於テハ豫算、補充、衛生事項等ヲ取扱フ

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史の觀察



參謀次長ハハルケウイツチニシテ作戦事項ハ凡テ其方寸ニヨリ區處セサル可ラス同氏ハ初メ  
 ウイルナ軍管區ノ軍事鐵道長官ナリ明治三十七年秋露軍ノ三軍ヲ編成スルニ至ルヤリネウイツ  
 チ大將ハ第一軍司令官ニ任セラレ氏ハ入テ其ノ參謀長トナレリリネウイツチ大將カ奉天戰後露  
 全軍ヲ指揮スルニ至リシモ彼ハ尙其ノ參謀長タリ氏ハ懇切ニシテ友愛アリ教育アル人ナリナボ  
 レオンノ千八百十二年戰ニ關シ廣濶ナル數多ノ著書アリ「祖國ノ戰爭ニ於ケル Parclay de To-  
 lly」及「Njamen 及 Smolensk 迄」其他「千八百十二年」(四卷)及「Beresina」等ノ著アリ彼  
 ハ千八百十二年戰役ニ於ケル世界ニ於ケル著書ノ殆ト凡テヲ精究セリ Parclay de Tolly ノ退却  
 戰略ノ主ナル辯護者ナリ、退却作戰ヲ行ハンコトヲ考慮セルクロバトキンカ千八百十二年ノ退  
 却戰略ヲ模範トシテ實施センカ爲此退却作戰研究家讚美家タル同人ヲ參謀次長トナセルニアラ  
 サルカ想フテ茲ニ至レハクロバトキンカ今時祖國ノ國難戰ニ方リ此ノ如キ參謀長及參謀次長ヲ  
 有ストセハ實ニ勇敢ニシテ潑瀾タル積極的行動ヲ企圖スルヲ得サルハ實理眞ニ明瞭ナルヘシ  
 ハルケウイツツノ參謀次長ニ任命セラル、迄參謀次長ハ少將 Blagawieschinski ナリキ同少將  
 ハ開戰前キイエフ軍管區參謀次長ニシテ軍用鐵道ノ權威ナリ同少將ハ極東ノ作戦地及敵國ニ關  
 スル智識乏シク其ノ重任ニ堪エスト信シ其ノ職ヲ辭シ人事、兵額、豫算、補充等ヲ司ル Gen-  
 ral du jour トナレリ又戰地ニ於ケル野戰鐵道長官ハ少將サブエリンニシテ開戰前迄陸軍省官房

次長タリ軍司令部幕僚(官房)長ハダニロフ大佐之ニ任ス同大佐ハ開戰前參謀大學戰術教官ナ  
 リキ軍ノ後方面司令官(作戰地ニ於ケル軍事行政及軍ノ後方ニ行動スル軍隊ノ指揮等皆之ニ屬  
 ス)ハ將官ウオルコフニシテ開戰前ヨリ既ニ關東軍管區司令官タリシ人ナリ之ヲ要スルニ軍司  
 令部ニ於ケル重要ナル長官ノ位置ニ在ル者ハ當該職務ニ堪能ナル者ヲ以テ補セラレサリハ補  
 職上ノ著意全ク適當ナラスト謂フヘシ此ノ如キハ吾人ノ又最モ注意ヲ要スヘキコトニシテ一朝  
 開戰ノ日、不適任ノ者、又作戰ニ通曉セサル者ヲ以テ作戰ニ任シ、或ハ後方勤務ノ要職ヲ全然  
 不適任者ヲ以テ充當スルコトアルヘカラス平時動員計畫上絶大ノ注意ヲ拂フヘキコトトス唯一  
 ノ例外トスヘキハ軍經理長官タル將官 Huber ナリトス同將官ハ開戰前アムール軍管區經理部  
 長ニシテ同將官ハ實ニ日本ニ對スル作戰軍ノ給養ニ關シ萬般ノ準備ヲ整ヘタル人ナリ開戰稍前  
 一時軍管區司令官ト意見ノ衝突ヲ生シ爲ニ高加索ニ轉任セシカ其ノ後任者ハ如斯重大ナル職務  
 ニ適應スル能力ヲ缺キ司令官ハ大ニ困難ヲ感シタリキ間モナクリネウイツチ大將ハ軍經理部長  
 トシテ再ヒ同將官ヲ招還セリ(アムール軍管區ハアムール地方沿海州及北滿洲ノ廣大ナル地域  
 ヲ管轄ス) Huber ハ聰明ニシテ且廉潔有爲ノ經理部長ニシテ露滿州全軍ノ給養ノ豐富ナリシハ  
 實ニ同氏ニ負フコト大ナリキ  
 又クロバトキンハ其ノ個人的副官ノ名ノ下ニ多數ノ露國高級貴族ヲ副官トシ其司令部ハ必要



ノ人員ヲ擁シ著シク尨大ナリキ其ノ他該司令部員ハ從前ヨリノクロバトキンノ良友及陸軍省在職當時ノ部下ヲ多ク採用セリ是等諸點ヨリ觀察セハ軍司令部ノ編成ハ全然適材ヲ適所ニ使用スルノ願慮ヲ缺キ專ラクロバトキント個人的關係ヲ有スル者ニシテ露都若クハ歐露ノ衛戍地ニ關係アルモノノミヲ採用シ最モ必要トスル極東ノ天地ニ親シク關係ヲ有スル有爲ノ材ヲ利用スルヲ忘却セリ元來クロバトキンハ溫和恰悌ニシテ且非常ナル勤勉家ナリ故ニ其ノ司令部ノ要職ニ不適當ナル者アルモ強テ之ヲ更迭スルノ勇氣ナク、自己ノ聰明ヲ以テ之ヲ補ハントセシカ如シ彼ハ比較的沈着シ且克己心強キモ大軍ノ指揮官タルニ適セス、斷乎タル決心、果斷ノ處置ヲ決行スルノ勇ナク徒ニ細事ニノミ齷齪スルノ風アリ彼ハ時ニ四十餘頁ノ訓示ヲ草シ之ヲ下達セシコトアリ以テ其ノ一班ヲ知ルニ足ラン然レモ彼ハ參謀ヨリ奉仕セラレ唯々許諾スル人形ニ在ラスシテ兎ニ角露軍統帥ノ中心ナリキ然レモ此ノ如キ首將ヲ有セル全軍ハ不幸ナリト謂フヘシ參謀長サワロフ將軍トクロバトキン將軍トノ關係ハ互ニ補佐スル風ナカリキ蓋シ參謀長サハロフハ此ノ如キ司令官ニ對シ充分補佐ヲナスノ困難ヲ知り故意ニ之ヲ避ケタルカ如シ然レモ參謀次長ハルケウイツチ、將官ウエリシニコ、シーバー大佐等トクロバトキレトノ關係ハ比較的良好ニシテ屢々司令官ト机ヲ共ニシ研究セリ凡ソ英將上ニ立チ司令部適當ニ編成セラレ協同一致シテ行動スルトキハ軍ノ指揮ハ一方

針ノ下ニ統帥セラレ軍隊ノ行動ハ滯滞ナク實施セラレ軍隊ハ仰テ司令官及司令部ヲ信認シ必勝ヲ期シ踴躍シテ動作スルモノトス此ノ如キハ到底クロバトキン及其司令部ニ望ムヘカラス軍隊ハ彼ヲ信認セス常ニ軍指導ノ適否ヲ疑フ此ノ如クシテ何ソ能ク軍ノ能力ヲ發揮スルヲ得ンヤ高級司令部及司令官ノ一舉一動、適否ハ嘗ニ軍ノ指揮ニ影響シ國家ヲ誤ルニ至ルノミナラス直ニ軍隊ノ心理ニ反映シ軍ノ精神ニ感及スクロバトキンノナセル部下司令官ノ撰任ハ亦頗ル適切ヲ缺キ吾人ノ大ニ鑑戒セサルヘカラサルモノアルモ今本問題外ナルヲ以テ之ヲ述ヘス諸君將來ノ研究ニ委ス

第二節 フレデリック大王及其ノ司令部

常ニ補佐官ヲ要セス將帥獨リ自ラ判斷シ決心シ其ノ周圍ニ在ルモノハ單ニ之ヲ實行スルヲ以テ足レリトスルカ如キ將帥ハ蓋シ稀ニシテ是レ眞ニ名將中ノ名將ナリトス大王ハ蓋シ此ノ稀有ニ屬スヘキ名將ノ一人ナラン彼ノ周圍ニハ意見ヲ具申スルモノナク獨リ寂寥タル個影ノ高處ニ在リテ自ラ軍ヲ統帥セリ彼ハ所謂其參謀長及參謀部ヲ有セサリキ然レモ大王カ此ノ如キ名將トナルニ至ル迄ニ於テ彼ハ軍事上ニ關シ諸將軍ト談論シ意見ヲ交換セリ

V. Winterfeldt ハ屢々王ト意見ヲ交換セリ、七年戰爭ノ開始ニ際シ同人ハ其ノ作戰計畫ニ參與

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



セリ一七五六—一七五七年ノ冬期間屢々書翰ノ交換アリ又元帥シュウエーリン (Solwern) (眞個ノ當時有名ナル武將ニシテ戰) トモ屢々意見ヲ交換セリ一七五七年ノ作戰計畫ハ大王及此 (爭ノ經驗ニ富メル戰場往來ノ武將) 兩將トノ口頭及書信ニ依リ意見ヲ徴シ成立セリ同作戰計畫ハ斷乎タル目的ヲ有シ埃軍ノ全滅ヲ企圖セリ此計畫ニ於テ作戰ノ目的ヲ殲滅戰ニ置キタルハ實ニ卓見ト謂フヘシ蓋シ當時ニ至ルマテ作戰ノ眞目的ヲ敵武力ノ殲滅ニ置カス單ニ一城一地ノ略取或ハ敵ヲ擊破スルヲ以テ満足シタレハナリ餘談ハ楮ヲ置キ右ノ關係ヨリ見レハ此兩將ハ恰モ參謀長タルカ如キ觀アルモ其ノ計畫ニ參與セルハ單ニ開戰前ニ止マリ一度戰役開始セラルルニ至レハ兩將軍ハ出テ、共ニ各一方面ノ將トナリ獨立ノ任務ヲ遂行シ大王ハ全ク輔佐官ナク自ラ全作戰ヲ遂行セリ而シテ大王ハ兩將軍ノ歿後ハ平時ニ於テモ全然其輔佐官ヲ失フニ至レリ七年戰爭中多數ノ將校ヲ從ヘタルモ右ノ意義ヲ有スル輔佐官ナカリキ一七五六年大王ノ大本營ニハ侍從武官長大佐ウオベール (Wobersnow) ノ外九名ノ侍從武官アリ參謀ノ長ハ伯爵シュメットウ中將 (Zimmertan) ナリ然レモ直接作戰ノ計畫ニ參與スルコトナカリキ事務ノ直接補助ニハ其ノ周圍ニ在ル者ノ外特ニ侍從武官長及侍從武官ヲ使用セリ大王ハ司令部ノ將校ヲ傳令其ノ他實地ノ勤務ニ熟練セシムル爲メ平時ハ演習及檢閲等ニ於テ自ラ之ヲ教育セリ王ハ是等幕僚ヲ道路偵察、行軍縱隊ノ案内者及口演命令ノ傳達ニ使用シ又其ノ副官ハ通報將校トシテ獨立シテ作戰スル軍ニ配屬シ又屢々彼等ヲシテ

遠隔セル作戰地ニ在ル軍固有ノ指揮ヲ執ラシメ其ノ老將軍ハ單ニ名目上軍司令官タルニ止リタルコトアリキ此ノ如キ幕僚派遣ニヨリ生スヘキ不利ハ充分考察セサル可ラス  
一七五七年六月十八日 Kolin ノ戰鬪 (千七百五十七年七月六日) 後大王ハ皇子ハインリヒ親王ノ指揮セル軍ニ Winterfeldt 將軍ヲ配屬シタルニ親王ハ固ヨリ獨立シテ作戰スルコトヲ希望シ彼ヲ敵視シ Winterfeldt ノ意見具申ハ全ク採用セス自ラ萬事ヲ處理セリ  
大王ハ右ノ如ク自己副官ノ外尙所謂參謀 (Quartiermeisterstab) ヲ使用セリ當時會戰地ノ撰定及會戰地ノ延長ノ僅少ナルトハ特ニ教育セル將校ヲ將帥ノ補助トナス必要少ナカリキ然レモ當時宿營、行軍及戰鬪ノ爲メ偵察ニ際シ既ニ之等將校ノ必要ヲ認メタリ大王ハ其七年戰爭史ニ於テ多數ノ良好ナル所謂參謀 (Quartiermeisterstab) ノ缺乏ヲ嘆セリ此目的ノ爲メ教育セラレタル將校ノ數ハ戰爭間二名以下ナリキ之等將校ノ行動ハ決シテ今日ノ參謀將校ノ如キモノニアラス此意味ニ於テ大王ハ自ラ其ノ參謀長タルト共ニ又屢々下級參謀ノ職務ヲ實行セリ  
大王ハ自ラ軍事行動ヲ計畫シ下級指揮官ニ與フル凡テノ命令及訓令ヲ自ラ起案シ且自ラ口演シ又筆ヲ探リテ記載セリ戰鬪前ニハ自ラ會戰場ヲ偵察シ且所要ノ處置ヲ爲セリ Hohenfriedberg ノ戰鬪ニ於テハ王ハ自ラ偵察ヲ行ヒ Lobositz (千七百五十六年十月一日) ノ會戰ニ於テハ元帥 Kold 及皇太子並兩プラウンシュワイヒノ皇子ト共ニ偵察ヲ行ヘリ Prag (千七百五十七年五月

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



七日)ノ會戰ニ於テハ、Prosekノ東方ニ於テ敵ノ全陣地ヲ眼鏡ヲ以テ視察シ、アリシ際敵砲彈ニ見舞ハレタリ、Rosbach及Leuthenノ會戰ニ於テハ、彼ハ會戰前先進輕騎兵ノ掩護ノ下ニ偵察ヲ行ヘリ、大王ハ成ルヘク諸將官ト偵察ヲ行ヒタル後口頭ヲ以テ之等諸將官ニ所要ノ命令及指示ヲ與フルヲ常トセリ、

Hohenfridbergノ會戰前ニ於テハ午前二時凡テノ集合セル將官ニ自ラ其ノ命令ヲ與ヘタリ

之ヲ要スルニ大王ニハ統一的ノ司令部ナルモノナク必要ニ應シ輔佐官ヲ採リテ使用セリ故ニ大王ハ作戰ノ中心ニ座シテ自ラ決心シ命令ヲ下シ給養、補給並其ノ他技術的事項ニ至ル迄自ラ苦心セリ、大王ハ午前四時起床シ騎馬ニテ哨兵線ヲ巡視シ必要ノ訓令ヲ與ヘ又自ラ報告、通報ヲ受領シ之ニ對シ自ラ所要ノ處置ヲ取リ或ハ回答ヲ與ヘ勤勉倦ム所ナク大王ハ實ニ政事作戰等總テ共ニ自ラ之ヲ掌中ニ握リ之ヲ部署セリ故ニ其ノ部下ハ唯大王ノ計畫ヲ忠實ニ實行セハ足レリ之ヲ要スルニ大王ノ統帥及指揮ハ全く個人的ナリト謂フヘシ然レモ實施機關ハ之ヲ必要トセリ

### 第三節 奈翁及其ノ司令部

奈翁及其ノ司令部

ナポレオンノ參謀長ベルチエー管テ、元帥ニ語リシ言ニ曰ク「ナポレオンノ計畫ニハ意見具申、作戰計畫ノ必要ナシ如何ナル人モナポレオンノ考案ヲ知ラス部下ノ義務ハ只服従ヲ要ス

ルノミ」トナポレオンハ自己ヲ信賴シ自ラ其ノ偉大ナルヲ信シタリ此奈翁優越ナル信念ハナポレオンノ司令部ニ大ナル信念ヲ與ヘ其ノ部下ハナポレオンカ如何ナル難境ニ於テモ必ス成効スル手段ヲ發見シ得ヘシト信シ部下ハ唯其命ニ從ヒ泰然トシテ動作セハ可ナリ必勝期シテ待ツヘシト思考セリナポレオンハ其ノ司令部員ヲ任スルニ當リテハ何等カ特殊ノ技能ヲ有スル有爲ノ將校ヲ撰拔シ重要ナル勤務ニハ之等ノ撰拔將校ヲ使用セリ而シテ其ノ使用ノ跡ヲ見レハ彼レカ人ヲ視ルハ明ノ如何ニ偉大ニシテ如何ニ人物撰擇ノ方法ノ巧ナリシヤヲ知ルニ足ル

ナポレオンハ其ノ性來倏儼ニシテ且短氣ナリ然レトモ時ニ氣ノ欲シタル場合ニハ頗ル親切ナリキ彼ノセント、ヘレナニ幽閉セラルルヤ彼ハ其親任使用セル元帥、將官ニ對シ酷評ヲ下シタリキ彼ハ沈黙シテ其ノ胸中ヲ人ニ語ラサリキ是レ彼レヲ圍繞スル人士ハ皆信用スルニ足ラサル凡庸ノ士ト彼ハ思考セリナポレオンハ總テノ場合ニ於テ皇帝ナリキ故ニ參謀長ベルチエースヲ彼ノ前ニ出スル時ハ常ニ長靴ヲ穿テ劍ヲ帶ヒ帽子ヲ手ニシ服裝ヲ整ヘテ面謁セリ彼ハ某夜ナポレオンニ召サル、コト十七回ノ多キニ達シタルコトアルモ毎回必ス服裝ヲ正シタリト謂フ又ベルチエーカ如何ニナポレオンヲ畏敬セルカハ彼カ嘗テ奈翁ト共ニ騎行中奈翁ヨリ命令ヲ受ケツ、全行程ヲ脱帽ノ儘經過セシヲ以テ知ルヘシナポレオンニハ容易ニ近キ難ク彼ハ部下ニ絶對ノ服従ヲ要求セリ意見具申ハ用ヒラル、コトナシ故ニ部署及命令ニ對シテハ之ヲ非難セントスルモノ

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



ナク部下ハ全然之ニ服從シ之ヲ實行スルノミナリキ奈翁ハ古今先ツ其ノ比ヲ見サル勤勉家ナリ  
 キ故ニ其ノ部下ニ對シテモ亦努力ノ最大限ヲ要求セリ彼ハ自ラ大ニ努力シ且之ヲ其ノ周圍ノ人  
 士ニ要求セリ彼ハ何等勞力上ニ遠慮スルコトナク其ノ必要ニ際シテハ要求屢々程度ヲ越ユルコ  
 トアリサレハ奈翁ノ司令部ハ有爲ノ人士ヨリ成立シアリシモ疲勞困憊ニ惱メルコト屢々ナリキ  
 一七九六年將官ホナバルトハ伊太利戰役ニ於テ努力最モ力メ大ニ名聲ヲ擧ケタリ彼ハ伊太利ヨ  
 リ執政官ニ書ヲ送リテ曰ク『我生命ハ不可解ナリ吾ハ大ニ疲勞シテ到着シ然ル後尙行政事項ヲ  
 處理シ秩序ヲ回復センカ爲メ諸處ニ赴クヲ要シ終夜睡眠シ得サリシモ元氣旺盛ナリ我生命ハ不  
 可解ナリ』ト一八〇九年役ノ初期ニハ彼ハ特ニ激烈ニ行動シ絶エス運動シ常ニ必要ノ地點ニ赴  
 ケリ、食事睡眠ノ爲真ニ瞬間ヲ使用シ得ルニ過キササル状態ナリキ之レ實ニ緊張セル精神及確乎  
 タル意志カ大ナル行動ヲ爲スヲ得セシメ死セル肉體ヲ制馭セル實例ナリトス  
 奈翁曰ク『仕事ハ我本質ナリ吾ハ作業ノ爲ニ生レ作業ノ爲ニ作ラレタリ我脚ニハ限界アルヲ知  
 ル然レモ未タ我作業力ノ限界ヲ認知スルヲ得サリキ』ト心中大ニ誇リトセシナラン然レトモ  
 ナボレオンノ時代ニ於テハ既ニ軍ハ漸次大トナリ一人ノ力能ク之ヲ細部ニ至ルマテ統帥スルヲ  
 得ス茲ニ於テカ大軍ノ統帥、大計畫ヲ實施スル爲ノ必要條件ヲ知得シ且絶對ニ確實ニシテ萬難  
 ヲ辭セサル熱心ヲ有シ皇帝ニ服從スル人ヲ要求セリト彼ハ之ヲベルチエーニ發見シ參謀長トシ

ヲ採用セリ

ベルチエーハ一七九六年ノ春ヨリ一八一四年ニ至ル迄奈翁ノ參謀長タリベルチエーハ奈翁ノ考案  
 ヲ實行スル爲ニ必要トシ適當ト思考セル細部ノ處置等ハ悉ク之ヲ了解セリ之カ爲彼ハ又大ナル  
 權力ヲ賦與セラレタリ奈翁ハ彼ヲ評シテ曰ク『彼ハ疲勞スルコトナキ作業力ヲ有ス而シテ彼ハ  
 總テノ偵察ニ際シ隨行シ又如何ナル道路上ト雖隨從セリト雖其ノ後ニ於ケル事務所ノ仕事ヲ怠  
 リタルコトナシ但彼ハ斷乎タル性質ヲ有セス故ニ高等指揮官タルニ適セサルモ參謀長トシテハ  
 必要ナル性質ヲ有ス又彼ハ能ク地圖ヲ讀ミ地形ヲ判斷シ情報ヲ正確ニ理解シ命令ヲ傳達シ、或  
 ハ軍ノ困難ナル運動ヲ單簡ニ實行スルノ術ヲ了解セリ』トベルチエーハ敵意アル者ヲ有シ其ノ  
 勳功モ屢々誤認セラレタリ彼ハ終ニ將帥タルコトヲ得サリキ彼ハ參謀長トシテ奈翁ヲ輔佐シ時  
 ニ過失ヲナシ大聲叱責セラル、コトアリ然レモ奈翁ハ參謀長トシテ彼ヲ缺クコトヲ得サリキ  
 ウオターローノ敗戰ニ際シ奈翁嘆シテ曰ク『若シベルチエーアラハ此ノ不幸ナル敗北ヲ蒙ルコ  
 トナカラン』ト(時ノ參謀長ハ Boullé ナリ參謀長トシテノ仕事ヲ十分了解セス當時命令ノ傳達  
 ニ缺點アリウオターローノ敗戰ニ大ナル原因ヲ爲セリ)ベルチエーハ忍耐力強ク仕事ヲ好ミ其  
 ハ職務ニ忠實熱心ナリキ軍ノ業務ハ大小トナク之ヲ了解シ且熟練セリ彼ハ大偉人ノ第一ノ補助  
 官タルコトヲ以テ大ニ其ノ誇リトセリ



一七九六年奈翁ノ司令部ハ約四十名ノ將校官吏ヨリ成リ埃及遠征ニ際シテハ更ニ大ニ増加シタ  
リ是レ軍事以外ニ學術上ノ各種ノ専門家ヲ隨行シタレハナリ時ノ司令部ハ實ニ千二百二十三名ノ  
多數ヲ有セリ

埃及遠征當時ニ於ケル司令部ノ編成左ノ如シ

總司令官      ボナバルト      副官      九名  
參謀長      ベルチエー      副官      五名

參謀部ノ編成

中將 (General de division)      十一名  
少將 (General de Brigade)      二十二名  
侍從武官      十三名  
少佐      十六名  
副官及附將校      六十八名  
中少尉      十二名  
砲兵部ノ編成  
少將 (General de Brigade)      三名

少佐      三名  
大尉      十六名  
中少尉      十六名  
Garde Principaux      二名  
Garde Ordinaires      二名  
Conducteurs Principaux      四名  
Conducteurs Ordinaires      二十一名

工兵部ノ編成

少將 (General de Brigade)      三名  
少佐      八名  
大尉      十四名  
中少尉      五名  
Sous Lieutenant (少尉)      一名  
補助將校      七名  
秘書官、書記、圖工      十四名  
合計      十四名

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



管理人 (Gerant)

一名

倉庫守衛吏 (Gardes Magasins)

二名

Conducteurs an chef

三名

土木監督 (Piqueurs)

二名

會計部ノ編成

支拂命令官吏 (Commissaire ordonnateur en chef)

一名

陸軍監督

二十五名

衛生部ノ編成

長官 (Officiers en chef)

三名

衛生部將校

三十名 (第一團)

衛生部將校

二十五名 (第二團)

衛生部將校

百十名 (第三團)

財政部ノ編成

主計官 (Payeur Généraux)

二十五名

會計検査官

六名

經理部ノ編成

給養官吏

二百五名

被服官吏

百四十二名

砲兵材料官吏

二十名

運輸官吏

二十一名

郵便(其他)官吏

二十二名

以上之外特ニ大本營ニ屬セラレタルモノ左ノ如シ

數學者 二名、天文學者 三名、鑛山技師 十五名、土木技師 (Ingénieur Civil) 十七名

地理學者 十五名、建築技師 四名、技師見習生 三名、畫家 八名、彫刻師 一名、

機械師 十名、化學者 三名、秘書官書記 十名、領事及翻譯官 十五名、醫師 九名

病院使役 九名、印刷師 二十二名、音樂師 二名

奈翁ハ自己ノ周圍ニ在ル人物中勳功アル者ヲ將官ニ任命セリ

ベルテイエーハ埃及戰役(一七九八年五月トウーロンヲ發ス)ニ於テ其ノ多方面ニ亘ル智識ト  
技能ヲ發揮シ奈翁モ之ニ感服セル程ナリキ即チベルテイエーハ奈翁ノ意見ニ基キ考案ノ後病院  
ヲ設立シ給養ヲ整備シ埃及官吏ノ補助ニヨリ倉庫ヲ設ク糧秣ヲ充實シ其ノ他埃及人ヲ以テ軍隊

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



ヲ編成シ軍事上ノ目的ヲ以テナイル河ノ航行ヲ監視シ租稅ヲ徵收シ占領市街ノ警急ニ關スル規定ヲ作り地形ヲ測量シテ地圖ヲ製作シ道路ヲ改修スル等諸般ノ部署ヲ定メタリ此ノ如キ理由ニヨリ右ノ如キ大ナル司令部ヲ要シタリ而シテ此ノ戰役ニ於テ種々ノ研究ヲナセルカ千八百十二年露國遠征ノ際ニハ司令部ハ更ニ大ナル編成ト爲セリ

マレンゴーノ會戰(一八〇〇年)ニ於ケル軍ノ編成及 St. Bernhard ノ渡河ノ際ニ於ケルベルタイエーノ處置ハ色彩ヲ放テルモノニシテ其ノ勳功大ナリキ奈翁ハベルタイエーノ長所ヲ利用スルコトヲ能ク理解セリ

奈翁ノ司令部ハ奈翁カ皇帝トナリタル後トボナバルトトノ時代トハ大ナル差異アリ一八〇五年ニ於ケル大本營ハ將校官吏計四〇〇其他ノ人五〇〇、馬五〇〇頭ヲ算セリ一八〇六年ノ戰役ニ於テハ大本營ノ編成ハ概ネ同様ナリ一八一二—一八一三年戰役ニハ更ニ其ノ編成ヲ増大シ其ノ編成ハ一層組織的トナレリ

ベルタイエーハ常ニ皇帝ノ傍ニアリ宿營ニ際シテモ皇帝ハ宿舎ヲ共ニシ露營ノ際ハ奈翁ノ皇室幕舎内ニ其ノ居ヲ有セリ又毎日皇帝ト共ニ食事ヲ爲シ行軍ノ際ハ奈翁ノ馬車ニ同乗シ或ハ共ニ騎行セリ之ニ反シ參謀長カ情況ヲ綜合シテ報告シ重要ナル作戰ノ事項ニ關シ意見具申ヲ爲ス等ノ事ハ全クナク單ニ皇帝ヨリ筆記命令ヲ下附セラルハ、ハミナリキベルタイエーハ自己ノ司令部

員ニ對シテハ親切丁寧ニシテ立腹セス熱心職務ニ從ヒ談話モ適當ニ眞面目ニシテ決シテ不敬粗野ノ言ヲ發セス丁寧ナリキ

大本營ノ人員ノ此ノ如ク過多ナルヲ以テ前進ニ際シテハ之ヲ梯隊ニ區分スルヲ要シ(我師團司令部、軍司令部ノ行軍ニ際シテモ同様ナリ而シテ司令部内ノ行軍序列ハ明瞭ニ規定セラル、モノトス)行軍中各種ノ規定ヲ設クル必要アリキ一八一三年ニ於テ奈翁カ偵察若クハ勤務上騎行スル場合ニ於テ皇帝ト同行スヘキモノハベルタイエー Durce, Conlaincourt, Bessieres, Soult, Guyot, 外ニ副官二名、傳令將校二名、通譯二名扈從、馬持、衛兵長隨行スヘキコトヲ規定セラレタリキ而シテ實際偵察ニ際シテハ奈翁ハベルタイエー及 Durce 又ハ Conlaincourt ト共ニ騎行セリ奈翁ハ敵火ヲ恐レサリシカ能ク敵火ヲ避ケテ偵察スル爲巧ニ地形ヲ利用シ他ノ隨從者ハ地形ニ蔭蔽セラレテ五六百米後方ニ馬ト共ニ位置セシメラレタリ奈翁ハ非常ニ良好ナル遞騎馬ヲ配置シ之ニ依リ驚クヘキ大距離ヲ短時間ニ騎行セリ而シテ此ノ遞騎馬ノ配置ハ Guyot 之ヲ擔任セリ是レ奈翁ノ統帥上大ニ注意スヘキコトトス行軍中奈翁カ如何ニ行動セルカニ關シテハ興味アル事實ヲ有ス即チ次ノ如シ

奈翁ノ旅行用ノ馬車ハ馬車中ニ於テ作業ヲ爲シ又寢ルコトモ出來得ヘク造ラレアリ奈翁此ノ馬車内ニテベルタイエート同乗シ共ニ作業セリ馬車ノ右側ニハ Conlaincourt 騎行シ戰地ノ地圖ヲ



疊ミテ胸ニ懸ク到着スル急使ノ「報告挾ミ」ノ鍵ヲ所持ス左側ニハ Durco 騎行セリ其死後ハ Guyot 之ニ代リ馬車ノ前方ニハ二名ノ護衛輕騎兵アリ其ノ後方ニハ傳令將校二名アリ馬車ノ後方ニハ副官（勤務中ノ者）勤務中ノ傳令將校主馬頭扈從、手馬、衛兵長、輕騎兵二十四名ヨリ成ル護衛隊之ニ續行ス

馬車停止セハ輕騎兵四名ハ直チニ馬車ノ側ニ至リ扈從ハ望遠鏡ヲ、衛兵長ハ「マント」ヲ持シテ側ニ在リ尙親衛騎兵ハ地圖及紙ヲ持チ直ニ皇帝ノ命ニ應セント準備ス

舍營ノ場合ニハ奈翁ハ居室一、寢室一、Cabinet 一、勤務室一、ヲ設備スベルタイエーハ自己ノ爲メ二室ヲ使用ス又露營ニ際シテハ天幕五個ヲ準備シベルタイエーモ其内ニ在リ奈翁ハ通常 Cabinet ニテ常ニ仕事セリ此室ハ常ニ同様ニ設備セラル室ノ中央ニ机アリ机上ニハ地圖ヲ擴ケ其ノ圖紙上ニ針ヲ立ツ此針ハ彩色セラレタル頂ヲ有シ敵及味方ノ位置ヲ明瞭ニ表示セラル夜ハ地圖ノ周圍ニ二十乃至三十ノ燈火ヲ點セラル奈翁ハ此ノ如キ裡ニ於テ兩脚器ヲ持チテ地圖ヲ案シ作戰ヲ計畫ス室ノ一隅ニ小ナル机アリ秘書官用ノモノトス奈翁ハ決心定マリタル後彼方此方ニ歩行シツ、非常ニ迅速ナル速度ヲ以テ命令ヲ下シ秘書官ハ之レヲ筆記ス其ノ後秘書官ハ直チニ之レヲ暗號文ニテ書シ更ニ之レヲ普通文ニ書キ改ム此ノ如クシテ暗號文トナシ又ハ之レヲ譯スルコトニ熟セシム凡テ軍用文書ノ交通ハ凡テ參謀長ヲ經由シテ實施セラル

司令部ノ業務ハ突然發生スルコト多シ故ニ司令部員ハ如何ナル時ト雖絶エス命令一下直チニ行動シ得ル如ク準備シアルコトヲ要セリ即チ或ル時ハ時間ニ大ニ餘裕アリ又或ル時ハ突然出發ヲ命セラル時間ノ變更又ハ行軍中急ニ轉進シ或ハ宿營地豫定ノ變更等ハ絶エス發生セリ故ニ奈翁ノ命令ノ終末ニハ屢々乘馬、馬車等ノ言アルヲ見ル

司令部内ノ勤務ハ Durco (奈翁ノ青年時代ヨリノ朋友ニシテ信任アリ時トシテ昔ノ友人ニ對スルト同様ノ言語ヲ以テ談話セリト云フ) 擔任セリ Durco ハ一八一三年五月二十日ヨリ二十一日ニ亘ル Bautzen ノ會戰ニ於テ奈翁ニ隨行偵察中榴彈ニ中リ戰死シタルヲ以テ爾後 Conlaincourt 之ニ代リ Conlaincourt ハ以前主馬頭ニシテ皇厨、急使、傳令使ノ勤務ヲ監督シ帝ノ信任大ナリキ當時傳令勤務ハ非常ナル價值ヲ有シタルモノニシテ彼ハ精勵類ナカリキ又此兩人ハ政事上及其ノ他重要ノ任務ニ使用セラレタリ

皇帝ノ侍從武官並ニ副官ハ本來傳令勤務ニ使用セラレ日々二名宛服務スルモ戰鬪ニ際シテハ全員之ニ服セリ而シテ時トシテ外交上ノ使節トナリ又時トシテハ軍團師團等ヲ戰場ニ誘導シ或ハ又占領地ヲ支配セシメタルカ如キコトモアリキ當時傳令勤務ハ非常ニ困難ニシテ勞苦大ナリ從フテ名譽大ナル任務ナリキ傳令將校ハ良好ナル家庭ノ者ヨリ若干士官ヲ任用セリ通常其ノ大部分ハ傳令勤務ノ途中ニ在リ（諸方面ニ多ク派遣セラル、故）而シテ是等將校ハ軍隊ヨリ大ニ尊



敬セラレ佳麗ナル軍服ヲ纏ヘリ其ノ大部分ハ砲工兵科將校ヲ以テ任シタリシモ稀ニ騎兵科將校ヲ採用シ尙奈翁ハ此副官、傳令ヲ皇族及貴族ヨリ好シク採用セリ

尙奈翁ノ司令部ニ於テ重要ナル人物ハ地形局長ノ Becker, Albe ニシテ永ク奈翁ノ傍ニアリテ輔佐セリ彼ハ時トシテハ斷乎トシテ帝ニ反對意見ヲ陳述セリ彼ハ總テノ地圖ヲ保管スルノ責ニ任シ特ニ一八二二年露國遠征ノ際ハ彼ハ努力頗ル大ニシテ大ニ其ノ腕ヲ揮ヘリ即チ前進間ニ技師ハ各前進部隊ニ配置セラレ日々通過セシ地方ノ掌圖ヲ作成セリ

ベルタイエーハ獨立シテ固有ノ司令部員ヲ有シ奈翁ヨリ一層多ク將校ヲ有セリ然ルニ奈翁ハ彼ニ尙一層多クノ將校ヲ使用スヘキヲ勸告セリ而シテ其ノ副官ハ又傳令ニ任シ大本營ト軍團並師團ト絶エス連絡シ其ノ情況ヲ明ニシ此連絡勤務ハ頗ル良好ニ實施セラレタリ

參謀將校ハ命令傳達ニモ使用セラレタルモ其ノ他ハ司令部内ニ於テ事務ヲ執レリ其ノ參謀部ハ三課ニ分タル

第一課 (課長一名、少佐一名、大尉二名)

作戰事項ヲ擔任シ軍隊ノ運動、搜索、諜報勤務、日々命令、書翰及物品ノ送達ヲ計畫セリ其ノ他豫算、定額、陣中日誌ノ記載ニ任ス

第二課 (課長一名、大尉二名)

大本營ノ宿營、警察勤務、憲兵、給養、徵發、衛生勤務等ニ任ス

第三課 (課長一名、大尉二名)

捕虜、逃亡者、徵募、補充、金錢給養、法律事務ヲ行フ

其ノ他砲工兵部ニハ一定ノ種々ナル任務ヲ有ス以上述フルカ如ク司令部員ハ皆各一定ノ任務ヲ有セシヲ以テ特ニ高級者ナル一、二ノ者ヲ除キ其ノ他ノ者ハ單ニ自己ノ取扱フヘキ事項ヲ知レルニ過キス故ニ外人カ奈翁ノ軍ノ配置目的等ヲ知ラントスルハ頗ル困難ナリキ之レニ加フルニ新聞ハ檢閲嚴ナリシヲ以テ軍統帥ノ秘密ハ能ク確保スルヲ得タリ

奈翁ハ閑暇アル時ハ通常乘馬散策ヲナシ地形ヲ觀察シ又芝居ヲ見、檢閱觀兵式等ヲ實施シテ喜ヘリ

結 言

之ヲ要スルニ奈翁ハ大軍統帥ノ全綱ヲ自己ノ掌中ニ握リ大ハ參謀長ヨリ小ハ秘書官ノ事務ニ至ルマテ自ラ之ヲ見、之ヲ監視シ其ノ嚴格ト絶大ナル作業力ト優越ナル才能トハ以テ事ニ當リ其ノ周圍ノ者ハ舉ケテ奈翁ノ盲從實行者ニシテ彼ハ周圍ヲ盡ク屈服セシメ意ノ如ク動作セシメタリ故ニ其統帥ニ於テハ彼ノ人格偉才ノミ現出シ其ノ周圍ニ對シテハ全ク懇親ナル友誼的關係ヲ

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史の觀察



有○セ○ス○彼○ノ○親○族○ト○雖○又○彼○ニ○對○シ○テ○接○近○ス○ル○能○ハ○ス○彼○ハ○帝○王○ヲ○以○テ○之○ニ○臨○メ○リ○奈○翁○ノ○大○天○才○ハ○此○ノ○如○ク○ニ○シ○テ○尙○大○ナル○成○効○ヲ○得○タリシモ軍ノ増大ニ伴ヒ晩年彼ノ統帥指揮ハ彼ト雖尙個人ヲ以テ大軍ノ萬事ヲ自ラ宰スル能ハサルヲ證明セシメ失敗ノ因ヲ成形セシメタリ

第四節

一八〇六年プロイセンノ大本營及總司令官ブラウンシュワ  
イヒ大公

千八百六年  
プロイセン  
大本營及總  
司令官ブラウ  
ンシュワ  
イヒ大公

奈翁ト當時對峙セシ普國ノ其ノ大本營ハ一八〇六年ノ戰役ニ於テ甚タ不利ナル編制狀態ニアリ  
キ彼ノ有名ナルクラウゼウヰツハ戲レニ此大本營ヲ評シテ「是レ一ノ議會ナリ集會ナリ」ト  
一八〇六年ノ戰役ニ於ケル普國王ハ齡正ニ七十一歳ヲ算セルブランシュワイヒ大公ヲ全軍司令  
官ニ任命セリ大公ハ豐富ナル戰爭ノ經驗ト其ノ聰明トニ依リ國王ノ信認ヲ得タリ大公ハ又同時  
ニ普國主力軍ノ司令官ナリキ  
此ノ國歩艱難ノ秋ニ當リ大公ハ軍司令官トシテ大事ニ當ラントスルニ際シ毫モ其ノ自信力ヲ失  
墜セシテ職ニ就キ軍事會議ヲ開キタルカ此會議ニハ各種ノ人々列席セリ其ノ列席者ハ勿論  
愛國心名譽心熾盛ノ人士ナリシカ戰爭經驗豐富ナラス軍事ニ關スル健全ナル智識ヲ缺キ其ノ計  
畫ノ實行ニ關シ責任ヲ負フ觀念ニ乏シク空想的計畫ヲ立案シ動モスレハ無責任ナル人士多カ

リキ

作戰計畫ニ關シ第一回ノ會議ヲブラウンシュワイヒニ開キ國王ハ其ノ許ニ在リシ大將 V. Plülli  
及 Rüchel 及其參謀長タル Zoharnhorst ヲ列席セシメ其ノ他此ノ會議ニ列シ口演又ハ筆記ニテ  
意見ヲ開陳セシ人士頗ル多シ  
國王ハ軍中ニ在リテ屢々意見ノ異レル各種人士ノ作戰ニ關スル考案ヲ傾聽セリ此ノ如キハ決シ  
テ良好ノ結果ヲ生セサルモノトス而シテ此ノ會議ニ參與セシ主ナル人士ハ Braunschweig 大公、  
Hohenlohe, V. Kalkreuth (以上獨立兵團司令官) 及參謀次長 Massenbach, Scharnhorst 又國王ノ  
周圍ヨリ V. Phull 傳奏侍從武官大佐 V. Kleist 及其ノ參謀 V. Rauch 其ノ他大臣及外交官等ナ  
リ故ニ斷乎タル意志ニ基キ終始一貫スル方針ノ決定セラル、コトナク會議ノ結果ハ半途ノ處置  
ヲ産ミ軍ノ統帥ニ甚タ不利ナル影響ヲ與ヘ斷然タル行動ヲ敢行スルヲ得セシメサリキ斯ノ如キ  
情況ナリシヲ以テ千八百六年ノ作戰意ノ如クナラサリシハ宣ナリト謂フヘシ

第五節 普佛戰役及普墮戰役ニ於ケル普國王、  
モルトケ將軍及其司令部並其他ノ軍司令部

國王ト參謀總長モルトケトノ關係ハ極メテ良好ノ情態ニ在リキ兩者ハ日ヲ逐フテ漸次接近シ國  
將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史の觀察



國王カ第  
四軍團長  
當時モルト  
ケハ大佐ニ  
シテ其參謀  
長ナリ當時  
第四軍團ハ  
モルトケノ  
勤勉ニヨリ  
模範軍團ト  
稱セラレタ  
リ

王ハ益々モルトケカ其ノ帷幄ニ參與シテ輔佐スル價值ハ大ナルヲ認メ兩者ハ遂ニ離ルヘカヲサ  
ル關係ヲ生セリ國王ハ其ノ性モト單簡ニシテ質實モルトケハ實歴アリ經驗ニ富ム將帥ニシテ一  
旦正當ナリト認識セシ事ハ常ニ堅確ナル意志ヲ以テ之ヲ斷行スル性ヲ有ス國王カ衷心ヨリモ  
トケヲ確信セル關係ハモルトケヲシテ參謀總長トシテ充分ニ其ノ手腕ヲ振フヲ得セシメ國軍ノ  
統帥ヲ極メテ有利ナラシメタリ又モルトケハ凡テノ困難ナル情況ニ際シテモ克ク之ニ處スル活  
眼ヲ有シ然モ大計畫ヲ單簡且完全ニ實行スルニ特別ナル能力ヲ有セリ而シテ偉人タル彼ハ周圍  
ニ模範ヲ垂レ司令部員ヲ勵マシ良好ナル影響ヲ與ヘタリモルトケハ國王トノ關係カ理想的ナル  
ト同時ニ司令部員トノ關係モ亦極メテ良好ナリキ之ニ關シ「The King's Army」ハ次ノ如ク言ヘリ「半ケ  
年以上ノ全戰役中一人ノ不平ヲ言フ者ナク司令部員ハ皆親友ノ會合ニシテ各自ノ職責ヲ完全ニ  
盡サンコトヲ力メ同時ニ又他人ヲ最モ能ク補助セント考ヘタリ」ト是等ハ司令部ノ編制良好ナ  
ルヲ證明スルモノナリト雖モ主トシテ特ニ司令部ノ首腦タル偉人ノ大ナル魔力カ此ノ如ク一致  
協同セシメタル結果ナリトスモルトケノ優越ナル精神ハ司令部ノ各員ヲシテ毫モ相拮抗シ相爭  
ブノ餘地ヲ生セシメス彼ノ義務心ニ富ミ職務ニ忠實ニシテ勤務ニ嚴格ナルコト又部下ニ無理ナ  
ル要求ヲ爲サス寸毫利己ノ念ナク而シテ如何ナル困難ナル情況ニ於テモ常ニ沈着ニシテ又縱令  
忍耐シ難キコトアリトモ決シテ之ヲ口ニ出サス顔色モ變セサリキ斯ノ如キ模範的ナル彼ノ性質

千八百六十  
六年戰役ノ  
大本營部員  
參謀總長  
「フォンモ  
ルトケ」參  
謀次長中將  
「フォン、ホ  
ドビール」  
ドビール  
「キー」砲兵  
總監中將  
「フォン、ヒ  
ンデル」  
「工兵總  
監中將」  
「ライオン  
」

ハ其ノ幕僚ニ良影響ヲ及ボシ國家大事ノ秋ニ方リ此ノ如キ偉人ノ輔佐官タルハ名譽ニシテ各司  
令部員カ鑽細ノ感情ヲ壓却シテ其ノ名譽ヲ完ウセンコトヲ努メタリ此ノ意味ニ於テモルトケノ  
精神ハ司令部ヲ支配セルモノト謂フヲ得ヘシモルトケハ參謀總長トシテ千八百五十七年以來  
平時其ノ隸屬機關ヲ養成シ戰爭開始スルモ可成平時ヨリ協同シテ諸種ノ作業ニ從事セル者ヲ其  
司令部員ニ採用セリ千八百六十六年ノ大本營參謀部ト千八百七十年ノ大本營ノ參謀部トヲ比  
較スレハ這般ノ關係ヲ明ニスルヲ得ヘシ

千八百七十年戰役ニ於ケル普軍大本營ノ編制左ノ如シ

- 參謀總長 步兵大將男爵フォン、モルトケ
- 參謀次長 中將フォン、ボドビールスキー
- 砲兵總監 步兵大將フォン、ヒンデルジン
- 工兵總監 中將フォン、クライスト
- 侍從武官長 步兵大將フォン、ホイエン
- 傳奏侍從武官長兼軍事內局長中將フォン、トレスコツ
- 經理長官 中將フォレ、ストツシユ
- 大本營附將官 少將フォン、スタインエツケル

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



侍從 武官

- 一、大佐フォン、アルベチル
- 二、中佐フォン、ルカドウ
- 三、伯爵フォン、レインドルフ
- 四、中佐アントン、ブリントツ、ラドチヴィール
- 五、中佐伯爵フォン、ヴァルデルゼー
- 六、少佐フォン、アルテン

參謀部

- 參謀總長附副官 一、少佐ド、クレール(龍騎兵第十II Schleswig, Holstein 聯隊附)
- 二、中尉フォン、ブルト(歩兵第六十聯隊附)

課長 一、中佐ブロンサルト、フォン、シエツレンドルフ 二、中佐フォン、ヴェルデ

一、デイヴェルノア 三、中佐フォン、ブランデンスタイン

參謀將校 一、少佐フォン、ホルレーベン(索敵王國參謀) 二、少佐クラウゼ三、少

佐ブルーメ 四、大尉フォン、ビュロウ 五、大尉チングレル 六、大尉フォ

ン、グインテンフェルド 七、大尉フォン、アルテン 八、大尉伯爵フォン、ノ

スチツ(近衛龍騎兵第一聯隊附) 九、中尉シユミツト(近衛騎兵第一聯隊附)

鐵道輸送實施委員 一、中佐フォン、ブランデンスタイン二、技師ヴァイスハウプト

(商務省鐵道管理局長官) 三、大尉チングレル 四、技師キネル(商務省參事官)

砲兵總監附副官 一、少佐ファツソン(近衛野戰砲兵聯隊附) 二、大尉フォン、ライ

ンパーベン(近衛、砲兵旅團)

工兵總監附副官 一、少佐ベータールス(工兵總監附幕僚) 二、大尉フォン、フリツチエ

(工兵第一方面本部)

經理部

經理長官附副官 少尉フォン、ストツシユ(歩兵第九十四聯隊)

野戰高級經理部員 フオン、ゴルデンベルヒ(陸軍省參事官)

野戰經理部々員 フリツチユ

管理部長少佐男爵 フオン、ロクエンギーン(近衛胸甲騎兵聯隊)

大本營衛兵 一、騎兵大尉フォン、アルベチル(胸甲騎兵第二聯隊)

二、大尉フォン、クノーベルスドルフ、ブレンケンホッフ(近衛歩兵 Grenadier

第四聯隊)

軍用電信部長 大佐マイダム(陸軍省附)

野戰高等糧餉部長 ベルチル

野戰高等郵便部長 フオン、チユセン

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



モルトケハ其ノ代理トシテ兩戰役共大將ポドビールスキー (Podbielski) ヲ參謀次長タラシメタリ同大將ハモルトケノ良友ナルト同時ニ判斷力ニ富ミ健全ナル理性ヲ有シ職務遂行ニ最モ忠實ニシテ軍事ニ通曉セリ

大本營中最モ主要ナル地位ハ作戰ニ從事セル諸課長ナリトス專ラ作戰事項ヲ擔任セシハ中佐 Bronsart V. Schellendorf ニシテ運輸通信ニ關シテハ中佐 V. Brandenstein 佛軍ニ關シテハ中佐 V. Verdý du vernois 之ニ當リ以上三名ハ概ネ同年輩ニシテ青年時代ヨリ友情濃カニ又軍ノ統帥ニ關シ同様ノ教育ヲ受ケ聰明ニシテ善クモルトケヲ輔佐セリ

大本營參謀ノ業務ハ多クハ本營内ニテ服務セシモ時々他ニ派遣セラル例ヘハ前記 V. Verdý 中佐ハ千八百七十年七月末未タ作戰開始前第三軍ニ派遣セラレ相互ノ意思ヲ通シ軍司令部ト大本營トノ關係ヲ良好ナラシメタリ

參謀部内ノ情態ハ前述ノ如クニシテモルトケハ此ノ良好ナル狀態ニ對シ大ニ満足セリモルトケ將軍ノ沈着ト確實ナルコト、又常ニ情況ヲ迎フルニ樂觀的思想ヲ以テシ常ニ勝利ヲ確信シ毫モ悲觀動搖ノ態ヲ呈セサリシハ部下ノ行動ニ良好ノ影響ヲ與ヘタリ

平日ニ於ケル本營ノ勤務ハ通常毎朝參謀長ノ前ニテ課長カ戰況及其ノ執ルヘキ處置ニ關シ意見ヲ具申ス此席ニ列スルハ參謀次長、各課長、中將フォン、ストツシニ Burlaucher タルブルー

メ高級副官及時々電信總監トス然ル後モルトケハ御前ニ出テ具申ヲナシ御裁可ヲ得テ後取ルヘキ處置實施セラル又其ノ後ノ情報及報告ニ基キ必要ニ應シ當該部長直接モルトケノ所ニ至リ具申ノ後モルトケ直奏シ或ハ前述ノ如ク立會ノ上通常ノ手續ニヨリテ所置ヲ定メラル大本營ノ兵力ハ行軍ニ際シ之ヲ梯隊ニ分タサルヘカラス其ノ第一梯隊ハ作戰ノ指導ニ關係スルモノニ限ラシ大本營ハ此ノ如ク區分セラル、モ各部共ニモルトケノ精神ニ基キ適當ニ精神的ニ集結セラレ作戰ノ機密外部ニ洩ル、コトナカリキ

モルトケハ時々慰ミヲ催シ晝間ノ疲勞ヲ醫シ精神ヲ沈靜ナラシメタリ爲之ニハ通常晩ニ於テ若干時 Wispartie (ウイスト骨牌遊) ヲ催セリ

モルトケハ敗軍ノ將ニ對シ同情ヲ有シベネデツクヲ非難スル者アルトキニハ同席スルニ堪エザリキ又バゼーシカ戰後「彼ハ間諜ナリ」トノ非難ヲ受ケタルニ對シ痛ク其不幸ニ同情セリ

千八百七十年獨軍ハ他ノ司令部モ概シテ幸福ノ狀態ニ在リキ第二軍司令官フリードリッヒ、カール親王ハ其ノ日誌中ニ自己ノ統轄セル司令部カ甚タ幸福ナリシヲ明記セリ又皇太子フリードリッヒウヰルヘルム配下ノ第三軍司令部參謀長中將フォン、ブルーメンタール及ザクセン皇太子アルベルト親王ノマース軍ニ於テモ概シテ司令部ノ情況幸福ノ情態ニアリキ凡ソ司令部殊ニ

卓越セル幕僚相互ノ間ニ良好ノ情態ヲ有スヘキ最モ確實ナル基礎ノ主ナルモノハ平時ノ協同作用

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察

其他ノ司令  
部



業ヨリ生セル相互ノ同情親愛ノ與テ大ニ價值アルヲ考慮セサル可ラス若シ夫レ實戰ノ爲撰定セ  
ラレタル將帥カ既ニ平時ニ於テ己レノ補助官トナル者ト勤務上ノ連繫ヲ取り又一方ニ於テ或點  
迄同將帥ヲシテ其ノ輔佐官ヲ自ラ撰擇セシメハ良好ナル結果ヲ得ルナラント思考ス參謀長ト將  
帥トハ性質相反シ互ニ補充セシムルヲ可トスルモノアルモ此ノ如キハ大ニ慎マサルヘカラス蓋  
シ之レ不一致ノ生スル根原ニシテ徹底的ナル作戰ノ遂行ヲ困難ナラシムルニ至ル此點ニ關シテ  
ハ詳細ニ結論ニ於テ余ノ意見ヲ述ヘン

第六節 ベネテツク並其ノ司令部

ベネテツクノ參謀長ハ中將男爵 Henikstein ニシテベネテツクトハ互ニ能ク相知リ親密ノ間柄ニ  
在リキ同中將ハ事務的才能ヲ有シ極メテ交際上手ナリシモ作戰上ニ關シテハ特ニ傑出セル才能  
ナク中將ハ自ラ亦作戰ノ指導ニ不適任ナリト考ヘタリシヲ以テ作戰ニ關スル自信力ナク從テ作  
戰ニ立チ入ルコトヲ遠慮シベネテツクノ輔佐官タルヨリモ友人トシテ同將軍ニ隨伴セリ之ニ反  
シ作戰ニ對シ大關係ヲ有セシハ實ニ作戰部長少將 V. Krismatic ナリ少將ハ斯拉ブ人ナルモ永  
ク參謀ノ職ニアリ又能ク戰地ノ情況ニ通シ態度、調子柔カナルモ傲慢ニシテ貴族的ナルノミナ  
ラス我儘ノ人ナリキ作戰ニ關シテハ守勢主義ニシテベネテツク將軍ハ攻勢主義ナリキ故ニベネ

デツクハ一時同少將ヲ依頼セシモ間モナク兩者間ニ圓滑ヲ缺キ種々ノ論争ヲ生シ又參謀部ノ中  
ニハ職務ニ不熱心ナルモノアリ命令傳達ヲ怠ル者アリキ周圍ノ情況右ノ如シ焉ンソ作戰指導宜  
シキヲ得ルノ理アラシヤ全作戰ハ此ノ如クニシテ極メテ不利ナル影響ヲ受ケタリ元來ベネテツ  
クハ自己ノ意志ニ反シ上意ニ依リ司令官トナレリ彼ハ軍人トシテハ好個ノ精神ヲ有セシモ前  
ノ如キ關係ハ作戰ノ決心及處置ヲシテ不決斷ニ陥ラシメ適確ナル決心ヲ執ルコトヲ得サラシメ  
半途ノ處置ハ講セラレ司令部内ノ意見ハ益々種々ニ分レ協同動作ハ益々不良トナリ作戰ハ此ノ  
如クニシテ失敗ニ歸セリ戒メサル可ケンヤ

第七節 バツエーン及其ノ司令部

一八七〇年普佛戰役ニ於ケル佛軍高等司令部ノ活動ハ顯著ナルモノアルヲ見ス其ノ作戰ハ統一  
ヲ缺キ軍ノ行動ハ大ナル一作戰上ノ根本的思想ニヨリ支配セラレタルヤ否ヤニ關シ遺憾ナル點  
頗ル多ク昨是今非爲メニ多大ノ缺點ヲ暴露セリ此缺點ハバツエーン元帥ノ司令部ニ於テ特ニ明  
瞭ニ看取スルコトヲ得

一八七〇年八月中旬ノ初メバツエーン元帥ハ佛ライン軍ノ總指揮官ニ任セラレ其ノ參謀長ニハ  
將官ジャラー(Jarar)撰定セラル此選定ハ共ニ兩者ノ意思ニ反セリジャラーハ彼ノ參謀長タル

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



ヲ本意トセス初メ異議ヲ申立テタルモ傳フル所ニ依レハ其ノ後彼ハ内面ニ於テ參謀長ノ位置ヲ得ントシ運動セリト

當時彼ハ奈翁三世ノ本營ニ於ケル作戰課長ナリシモ當時作戰ニ關シテハ其ノ參與セル所少ク唯軍統帥ノ事實ニ關シテ若干通曉セルニ過キスバツエーン元帥ハ元來高等統帥ニ關スル能力ニ於テ關如セル所アリシニモ拘ラス自ラ參謀長ノ必要ヲ認メストシ殊ニ新任參謀長タルジャラーニ對シテ何等個人的同情並ニ信任ヲ有セス彼ハ之カ爲故意ニ其參謀長着任第一日ヨリ之ヲ遠ク彼ヲシテ單ニ傍觀者タラシメタリ八月十二日參謀長ノ任命セラル、ヤジャラーハ當時モ東方ニ吉米 Bony ニ在リシバツエーン元帥ニ問フニ彼ハ其ノ司令部ト共ニ Metz ヨリ該地ニ至ルヘキヤ否ヤヲ以テセリ然ルニバツエーン元帥ハ參謀長ニ對シテ答ヘラク「予ハ參謀長ヲ要セス貴官ハ依然 Metz ニ止マルヘク予ハ八月十三日 Metz ニ至ルヘシ」ト諸君之ヲ讀テ如何ノ感ヲカナス乎」八月十三日實際ニ於テバツエーン元帥及參謀長ハ Metz ニ於テ短時間會見セリ當時八月十二日ニ於ケル情況ハ獨軍カ漸次 Metz ニ近迫セントシ又其ノ大兵團ハ Metz 東南方地區ヨリ迂回作戰ヲ爲サントスル重要時機ニシテ佛軍ハモーゼル河ヲ渡河セントシ近ク獨軍ト決戰的作戰ノ惹起セントスル重要ノ情況ニ於テ其ノ參謀長ト軍司令官トハ單ニ短時間ノ會見ヲ爲シタルニ過キス此ノ如ク參謀長ニシテ充分軍司令官ノ意圖及部署ヲ知悉スルヲ得サルニ於テハ馮ンソ適

當ナル作戰ヲ實施シ得ン此短時間ノ會見ハ單ニ形式的挨拶ニ止リ何等作戰上ニ關シテ兩者ノ胸襟ヲ披瀝シ其ノ當時ノ情況ニ應ジ斷乎タル作戰ヲ實施スヘキ方策及部署ノ議セラレタルコトナシ當時ジャラーノ接手セシ書簡並ニ觀察ニヨレハ佛ライン軍ノモーゼル河渡河ニ關シテハ作戰上並ニ技術上大ナル困難ノ生スヘキ事項多ク存シ之レカ爲メ是非共之ニ對シ臨機ノ部署ヲ爲スヲ要シタリキ然ルニ彼ハ此ノ如キ情況ナリシニ拘ラス自ラ進ンテ意見ヲ具申スルコトナク全ク之ヲ放置シテ自然ニ委シ敢テ顧ミル所ナカリキ是レ國軍ノ爲メ參謀長カ獨斷ヲ以テ尙所要ノ實施的部署ヲ變更スヘキ場合トス參謀長ト軍司令官トノ兩者ノ疎隔此ノ如シ其ノ結果ハ言ハスシテ明ナリ彼ハ獨斷專行ニヨリテ所要ノ處置ヲ取り部署ヲ變更スルノ勇斷ニ乏シク此結果ハモーゼル河左岸ニ於ケル佛軍ノ大ナル行進遲滯及輜重ノ混亂ヲ惹起セリ越テ八月十五日バツエーン元帥ハ其ノ本營ノ位置ヲ變換シタリシカ參謀長ジャラーハ之ヲ知ラサリキバツエーン元帥ハ全然其ノ參謀長令下ノ司令部ヲ自己ノ近傍ニ宿營セシムルヲ必要ト思惟セリ八月十八日ニ於ケルバツエーン元帥ノ行動ハ破天荒ト言ハサルヘカラス八月十八日獨軍ノ攻撃行動ニ關スル情報頻リニ到着セルニモ拘ハラスバツエーン元帥ハ Metz 西方約三吉米ノ Plappeville 停止セリ參謀長 Jarrig ハ段々タル砲聲ニ鑑ミ裝鞍セシメントシタリシニ拘ハラス元帥ハ之ニ對シ沈着シ忍耐シ騷カサルコトヲ戒メジャラーニ前進命令ノ起案ヲ命シ佛軍ハ軍ノ前進命令ヲ大



ニ期待シツ、アリト言ヘリ然ルニバツエーン元帥ハ此日午後其ノ副官及傳令將校ト共ニサンクワントン (St Quentin) 迄前進スルニ當リテ再ビジャラーニ參謀長及其ノ司令部ハ不用ナルニヨリ其ノ隨伴ノ必要ナシト言ヘリ午後七時頃彼レハ Pappesville ニ歸還セシカ本日ニ於ケル佛軍ノ行動ハ予ノ満足スル所ナリト述ヘ特ニ會心得意ノ態度ナリシカ須臾ニシテ諸方面ヨリ佛軍敗戦ノ情報ニ接シ戰況極メテ不利ナルヲ知得スルニ及ンテ俄然驚愕セリバツエーン元帥ハ元來能力上自ラ參謀長タルノ價值ナキニ拘ハラス自ラ自己ノ參謀長タラントセリ世ニハ時々此種ノ將帥アリテ「予ハ參謀長ヲ要セス」ト傲語シ眞ニ參謀長ノ價值ヲ認メス之ヲ良用セサルモノアルヲ見ルハ誤レルノ甚タシキモノト謂ハサルヘカラスバツエーン元帥ハ如上ノ自覺ノ外特ニ全クジャラーヲ嫌忌シテ信任セサリキ此ノ如キ不幸ナル關係ハ延テ軍ノ作戰ニ惡影響ヲ及ホスヘキハ明瞭ナルヲ以テ皇帝ニ上奏シテ適任者ヲ得之ト交代セシムルヲ可トス

參謀長ト軍司令官兩者間ニ其信任ナキ場合ニ於テハ軍ノ統帥上絕對ニ之ヲ必要トスル兩者ノ協同動作カ不可能トナル所ノ好適例ハバツエーン元帥トジャラートノ關係之ヲ證シテ餘リアリト謂フヘシ

### 第八節 日露戰役ニ於ケル日本軍高等指揮官並司令部

滿洲軍總司令部及其ノ他ニ於ケル軍司令部ニ於ケル司令官及參謀長、司令部員ノ關係ハ略良好ナル状態ニ在リシモノノ如シ然レモ其ノ要員ノ撰定、配合及編成並作戰間ノ行動ニ於テハ勿論遺憾ノ點ナキニアラサルモ此種ノ事ニ關シテハ余ノ研究不十分ニシテ具體的ニ之ヲ發表シ得ルノ資料ニ缺如セルモノアルト猶發表ヲ憚ルモノアリ此等ニ關シテハ諸君將來ノ研究ヲ望ム所ニシテ茲ニハ單ニ二三ノ餘談ヲ述フルニ止メントス以下口述筆記不詳

#### 結論 (如上觀察ノ總括並特ニ將帥ト參謀長トノ理想的關係及參謀長ノ司令部ニ於ケル位置ヲ論ス)

以上數回ニ亘レル概要ノ戰史的觀察ニ依リ統帥ノ本源タル高級司令官及參謀長並司令部員ノ選定及編成カ軍ノ作戰ニ大ナル影響ヲ及ホシ延テハ國家ノ安危ニ關係スル結果ヲ生スヘキ事實ヲ認メサルヲ得サルニ至ルヘク諸君ハ慄然トシテ大ニ戒飭スル所ナカルヘカラサルヲ知ルヘシ又諸君ハ如上ニヨリ司令部ノ發達カ漸次歴史的ニ發展シタルヲ認メタルナランフレデリック大王ハ既ニ述ヘタルカ如ク所謂今日ノ司令部ノ如キモノヲ有セス彼ハ作戰計畫等ノ準備ノ爲時々二三ノ信任者即チシユウエーリン元帥並ウインターフェルド將軍ヲ輔佐トセルモ元來彼ハ其ノ自身ニ於テ自己ノ參謀長ナリ當時ノ僅少ナル兵力戰法及其ノ軍事的天才ハ自ラ其ノ細件ニ至ル迄能ク之ヲ區處シ自由ニ軍ヲ統帥スルヲ得タリ

奈翁時代ニ至リテハ既ニ著シク大ナル軍ヲ運用シ一七九六年ヨリ一八一四年ニ至ル迄ベルチエ



1) 奈翁ノ參謀長タリ既ニ述ヘタル如クベルチエーノ位置ハ勿論形式的ニシテ單ニ實行機關ニ止リ奈翁ノ天才ハ萬事ヲ處理シテ光芒陸離タリシト雖軍ノ益々増大スルニ從ヒ奈翁ト雖自ラ盡ク萬事ヲ處理スルコト不可能トナリ統帥ハ漸次適切ヲ缺クニ至レリ之ニ反シ奈翁ニ對抗セシ諸軍ハ縱令一軍ノ編成小ナリシ時ト雖軍司令官ハ參謀長ヲ有シ參謀長ハ司令官ヲ輔佐シ司令官ヲシテ細部ニ關スル區處ヲナシムルハ煩勞ヲ減却シ司令官ヲシテ充分重要ナル作戰事項ニ其ノ聰明ナル精神力ヲ傾注セシムルコトヲ得タリ此方式ハ近世ニ至リ漸次傳ヘ漸次發達シテ方今司令部ノ編成ヲ見ルニ至レリ

一八〇六年プロイセン軍司令部殊ニベネテック、パツエーン元帥、クロバトキンノ司令部ノ編成ハ頗ル不利不幸ノ状態ニアリテ軍統帥ニ多大ナル障得ヲ與ヘシコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ凡ソ將帥カ參謀長ヲ缺ク能ハサルハ茲ニ多言ヲ要セス今之カ理論ヲ説クノ必要ナカラン而シテ高等統帥ト其ノ部下軍司令官並其高級司令部並下級司令部トノ關係ヲ圓滿ナラシムルコトハ又大ニ必要ニシテ研究ヲ要スヘキ事ナルモ本研究範圍外ニ脱逸スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘス將帥ト參謀長トノ關係ニ於ケル根本觀念ハ任意遂行ニ關スル總テノ重要ナル決心ニ關スル判決ハ將帥自ラ之ヲ行ヒ之ニ關スル意見具申並ニ重要ナル實行的區處ニ關スル區處ハ參謀長カ親シク其意見ヲ開陳披瀝スルト同時ニ實施ニ關スル細部ハ參謀長之ヲ悉ク行フニ存ス將帥ハ此ノ如クニシテ細部ニ拘泥スルコトナク其煩勞ヲ省キ得ヘシ而シテ實施ノ責任ハ參謀長ノ意見ヲ採用セル場合ト然ラサルトキトニ拘ラヌ將帥自ラ其責任ニ任ス參謀長ハ自己ノ意見ノ採用セラレサル場合ニ於テモ其全力ヲ盡クシテ將帥ノ目的企圖ヲ斷行貫徹スルコトニ努メサルヘカラス司令部員ハ參謀長ノ爲サントスル意見具申ノ準備並決定セラレタル決心ノ實行ニ關シテ參謀長ヲ輔佐スルニ在リ

問題

右ノ目的ヲ達スル爲將帥及參謀長ハ如何ナル關係ニ在ルヲ可トスルヤ

右意味ニ於テ參謀長ト軍司令官トノ充分ナル協力ヲナシ得ンカ爲ニハ此兩者ノ精神、性質、智識、能力ハ共ニ此重要ナル職務ニ適應シ得ヘキ素質ヲ具有シ又其軍事上ニ於ケル根本的觀察點カ大體ニ於テ一致シ(慎重ト暴進、攻勢的ト守勢的所謂彌左衛門戰術ト石橋戰術等ノ如キ兩者統帥上ノ傾向ニ大差アルカ如シ)又其個人ノ性格モ略一致シ其人格互ニ調和スルヲ要ス而シテ特ニ此兩者ハ義務觀念ニ富ミ其負擔セル協同任務ニ感奮シ之ヲ榮譽トシ喜ンテ從事スル人タラサル可ラス職務ニ對スル喜悦熱心ヲ有セスシテ不平不滿ヲ發スルカ如キハ甚タ不可ナリ野心ヲ懷キ自負心、虛榮心、嫉妬心、或ハ競争心等ノ存スルコトナク正當ナル自覺ノ念ヲ有シアルヲ要ス

自己ノ體面ヲ尊重スルヲ觀念ヨリ參謀長ノ意見具申ヲ採用スルハ自己ヲ傷フルモノトシテ之ヲ

右ニ對スル意見ノ概要

將帥並其ノ司令部ニ關スル戰史的觀察



歡迎セ、喜ンテ之ニ耳ヲ傾クルコトヲナササルノ將帥、並ニ又參謀長ノ行動ニ對シテハ、不信任  
 ハ目ヲ以テ視或ハ參謀長ヲシテ充分其能力ヲ盡サシムルコトナク却テ之ヲ妨害スルカ如キ將帥  
 ハ軍及國軍ノ爲メ大ナル障害ヲ與フヘキモノニシテ此事項タルヤ又直ニ參謀長カ軍司令官ニ對  
 スル場合ニモ適用シ得ヘシ又過度ニ神經過敏ナル參謀長或ハ參謀長ニシテ將帥ヲ代表セントシ  
 萬事ハ自ラ之ヲ爲ス如ク裝ヒ或ハ參謀長トシテ忠實確實ナル意見具申者又ハ補助官タルニ満足  
 セシテ僭越ノ舉動ニ出テ或ハ大ニ街フ者ノ如キハ共ニ參謀長タルノ資格ノ根本ニ於テ闕如ス  
 此ノ如キ參謀長ヲ有スル軍司令官ハ獨リ多大ノ不幸ナルノミナラス作戰ハ有利ニ統帥セララル  
 コトナク國軍ノ爲メ大ナル不幸ヲ生スルニ至ラン

以上此原則的ニ述ヘタル諸缺點ハバツエーン元帥及ベネデツク、クロバトキン將軍ノ司令部ニ  
 於テ屢々明瞭ニ之ヲ認ムルヲ得ヘシベテデツクト其參謀長ノヘニツクスタイントハ互ニ友情ア  
 リシヲ以テ此點ニ關シテハ良好ナル狀態ニ在リシモヘニツクスタインハ自ラ參謀長ノ資格ナシ  
 トシテ作戰ニ參與セス茲ニ於テ少將クリスマニツクハ僭越ニシテ傲慢不遜ナリシヲ以テベテデ  
 ツクハ最初彼ヲ信用セシモ後互ニ相容レサルニ至レリ又其作戰方針ハ根本的ニ觀察點ヲ異ニシ  
 不幸ノ結果ヲ生セリ

之ニ反シテブリユツヘルトグナイゼナウトノ關係ハ最モ良好ナル狀態ニアリキブリユツヘルム

膽大ニシテ快活喜ンテ事ニ從ヒ企圖心ニ富ミ人ヲ容ルノ雅量アリ危險ニ臨ムモ責任ヲ恐レス  
 之ニ對シグナイゼナウトハ彼ニ比シ年齒二十歳モ若ナリシモ戰爭ニ於ケル其統帥ニ關スル技能  
 智識ノ優越ナルコト並ニ斷乎トシテ行動スルノ性質、企圖心ニ富ミアルコト並ニ高尚ナル感情  
 ニ富ミ兩者互ニ友情ヲ以テ肝膽相照シ愛國心ニ富ミ敵愾心旺盛ナリシヲ以テ兩者互ニ克ク一致  
 シテ協力セルコト美望ニ値スト稱セラル其他予ノ所見ニ依レハ歸スル所兩者協同ノ基礎中最モ  
 必要ナルハ個人的ノ同情親愛ニ存ス此點ヲ缺ク場合ニ於テハ如何ナル他ノ良好ナル條件モ有効  
 ナラシムルヲ得ス思フニ職ニ適任ナル參謀長カ自由ニ且確實ニ其意見ヲ陳述シ得ルト同時ニ司  
 令官ハ參謀長ヲシテ忌憚ナク意見具申ヲナサシムルハ勿論喜テ進ンテ之ヲナスコトヲ勸メ其判  
 決ニ對シテハ結果ノ是非如何ニ拘ラス又其全行動ニ對シ司令官責任ヲ負ハサル可ラス思フニ兩  
 者何レモ確乎タル意志ト性格ト大ナル思想ヲ有スル人格ナルヘキヲ以テ作戰上重要ナル問題ニ  
 對シテハ恐ラク意見ヲ異ニスルコトアルヘク此ノ如キ場合ニ於テ兩者共ニ自己ノ正當ト認メタ  
 ル意見ハ其吾人ノ要求スル如上ノ性格上互ニ相讓ルコト屢々困難ニシテ之等意見ノ相違ヲ適當  
 ニ調和スルコト至難ヲ感スルコトアラシク此ノ如キ場合ニ於テ兩者ヲシテ一致シテ相協同シ之ヲ  
 調和シ斷乎トシテ最高目的ヲ達セシメ得ヘキ唯一ノ手段ハ兩者ヲ堅確ニ緊結セル友情ト相互ノ  
 信任トニ待タサルヘカラス



凡ソ參謀長ハ兩方面ニ對シ任務ヲ有ス。上ニ對シテハ司令官ノ信任者ニシテ意見具申ニ任シ下ニ對シテハ各種ノ素質ヲ有スル部員ヲ統轄スルモノニシテ參謀長ノ動作カ司令部内ニ大ナル影響ヲ與フルコトハ勿論ニシテ善良ナル參謀長ノ指導ノ下ニハ司令部員ハ各満足シ友誼的感情ヲ以テ相互ニ協同シ全機關ハ一層迅速確實良好ニ作業スヘシ之ニ反シ上ニ不適當ナル參謀長アル時ハ部内ノ空氣ハ險惡トナリ事毎ニ不調和ヲ生シ種々ナル障礙ヲ醸成シ悅服事ニ當ル點ニ於テ闕クル所アルニ至ルヘシ戒メサルヘカラス

研究ハ以上ノ概要ニ留メ參謀部内ノ勤務等ハ諸君ノ勤務令ノ研究ニ委シ尙細部ハ將來諸君ノ研鑽ニ讓ル

### 第六編 戰史ノ情況ヲ基礎トセル戰術及兵棋ノ研究 (附圖第十)

#### 總 說

凡ソ戰術及兵棋等戰術ノ應用的研究ハ次ノ二ツノ著眼ニ基キテ研究スルヲ自然ナリト信ス即チ

甲、將來戰ノ豫想的情況ヲ基礎トセルモノ

乙、過去ノ戰爭ニ於ケル實際的情況ヲ基礎トセルモノ

甲ハ勿論大ナル價值ヲ有シ將來敵トナルヘキ豫想國トハ戰略關係、豫想敵國ノ作戰法及編制ヲ顧慮シテ將來生起スヘキ戰況ヲ考定シ之ヲ擊摧セントスル方法手段ヲ研究セントスルニアリ

乙ハ過去ノ實際的ナル戰史上ノ情況ヲ基礎トセルモノニシテ此研究ハ戰術問題及兵棋トシテノ一般的ナル研究目的ノ外戰史研究ノ趣味ヲ喚起スルノミナラス此研究ニヨリ軍人精神ノ養成、軍隊指揮官トシテノ技能殊ニ判斷力ヲ涵養シ實戰ニ際シテ惑ハサル指揮官ヲ養成スルニアリ此研究法ハ次ノ三方法ニ依ルヲ適當ト信ス

- 一、全然戰史ノ原形的情況ニ依ルモノ
- 二、戰史情況ノ基礎ニ若干ノ變更ヲ加ヘ以テ趣味アル情況トナスモノ
- 三、戰史的情況ヲ其儘トシ或ハ多少修正セルノミナラス軍隊ノ編制及裝備ヲ近世的トナシ又戰地モ現世ノ情況ノ如キモノトシテ研究スルモノ

第一ハ純然タル戰史ノ某情況ヲ基礎トセル研究ニシテ之カ統裁ハ今日ノ戰略戰術ヲ知悉スルノミナラス特ニ當時ノ關係ヲ詳知セサルヘカラス例令ハ千八百六年ノ十月十四日 Jena 及 Austerlitz ノ會戰後 Pruzlan 附近マテ追擊セラレタル普魯西ノ軍隊ハ殆ト死ニ瀕セル如キ潰亂ノ情態ニ達セルモ之ニ反シ比類稀ナル名將奈翁統率ノ下ニ戰勝ニ酔フテ追擊セシ佛軍ト其ノ戰鬪力ヲ比較セハ兩者多大ナル差異アルヲ顧慮セサルヘカラス又千八百七十年及七十一年ノ普佛戰役



ニ於テ Loire 河畔ニ於テ新ニ編成セラレタル佛軍ハ固ヨリ戰爭ノ經驗ニ富ミ勝利ニ慣レタル普軍ト比較セハ其ノ戰鬪力ニ多大ノ差アルヘキナリ故ニ兩部隊ノ戰鬪力ヲ正當ニ定メ之ヲ統裁上適當ニ演出スルコトハ困難ナリトス此要素ニ關シテハ已ニ最初ノ問題ニ於テ初ヨリ之ヲ適當ニ定メサルヘカラス何トナレハ此戰鬪能力ノ比較ハ指揮官ノ決心及處置ヲ定メ又正當ニシテ不偏不黨ノ判斷ヲナスノ基礎ヲナスヲ以テナリ其ノ他地形ニ關シテモ充分往時ノ研究ヲ必要トス縱令斯ノ如キ研究ヲ現在ノ地圖ヲ用ヒテ行フモ地圖上ニ多少ノ制限ヲ加ヘサルヘカラス此等ノ困難アリト雖此研究方法ハ多大ノ價值ヲ有スルヤ明ナリ

第二ノ研究法ハ前項ノ研究ニ伴ヒテ趣味アル研究ヲ行ヒ主トシテ指揮官ノ決心及統帥能力ノ向上ヲ目的トス

第三ノ方法ハ過去ノ情勢ニ基キ編制裝備其ノ他戰鬪條件ヲ近世的トナスノミナラス將來戰鬪ノ一般的研究ト過去ニ於ケル實戰的形勢ニ基ケルトニ依リ空想ニ流レサルハ二大利益ヲ有スルモ一方ニハ戰史ノ研究及過去ニ於ケル諸指揮官ノ行動ニ對スル比較並精神的研究ニ對シ聊カ劣ル所アルヲ免レス故ニ此三者ハ各々特有ノ利益ヲ有シ何レモ吾人ノ研究上必要ノ研究法ナリトス今左ニ右研究法ニ就テ二三ノ例ヲ示サントス

第一想定

一、第一想定(千八百七十年八月十三日佛 Pruss 軍ノ情況)

一、Spichern ノ會戰後佛ノ Rhein 軍ハ Metz ニ向ヒ退却シ八月十二日同要塞ノ前方ニ於テ概シテ左ノ配置ニアリ

- 第二軍團 (Frossard) Peltre-Mery 附近
- 第三軍團 (Drazen) Grivy-Nonilly 附近
- 第四軍團 (Lahnstein) Mey-St. Julien 附近
- 第六軍團 (Carnobert) Magny Woippy 附近
- 近衛軍團 (Bourbaki) Borny 附近
- 第一豫備騎兵師團 (Barrail) St. Julien 附近
- 第三豫備騎兵師團 (Forton) Queleu 附近
- 二、Napoleon 皇帝ハ八月十二日總軍ノ指揮ヲ Bazaine 元帥ニ委シ攻勢ヲ企圖スヘキ任務ヲ與ヘタリ
- 三、Bazaine 元帥ハ八月十三日以後 Mac-Mahon ノ軍ト合シテ動作センカ爲 Mosel 河左岸ニ於テ攻勢ニ轉スルニ決セリ
- 四、Mac-Mahon ハ Worth 附近ニ於ケル不利ナル會戰ノ後 Neuf-Chateau 及 Chalignont ニ向テ退却ヲ續行シ次テ同軍ハ同地ヨリ鐵道ニヨリ Châlon ノ野營地ニ向フ筈ナル旨報告セリ



五、八月十二日夕頃マテニ Bazaine 元帥ノ知り得タル情況ノ概要左ノ如シ  
 敵ハ廣大ナル正面ヲトリ強大ナル騎兵ヲ先進セシメ Mosel 河ニ向ヒ前進中ニシテ八月十二日既ニ強大ナル騎兵部隊ハ Französische-Nied 及 Metz 南方 Sillon 河畔ニ進出シ又強大ナル歩兵部隊ハ既ニ Deline (Metz 東南方約七里)ニ到着セルモノノ如シ  
 六、Mosel 河ハ橋梁ノ外諸兵種ノ通過ヲ許サス  
 七、佛ライン軍ノ戰鬪序列ハ別紙ノ如シ

問題

- 一、Bazaine 元帥ノ情況判斷
- 二、八月十三日ノ爲軍命令

佛ライン軍戰鬪序列

司令官 元帥 Bazaine

參謀長 將官 Jarras

近衛軍團

軍團長 將官 Bourbaki

第一師團(歩兵十三大隊、砲兵三中隊、工兵一中隊)

第二師團(歩兵十一大隊、砲兵三中隊、工兵一中隊)

騎兵師團(騎兵二十四中隊、砲兵二中隊)

豫備砲兵 四中隊

第二軍團

將官 Frossard

第一師團(歩兵十三大隊、砲兵三中隊、工兵一中隊)

第二師團(同右)

第三師團(同右)

Lapasset 旅團(歩兵七大隊、騎兵四中隊、砲兵一中隊)

騎兵師團(騎兵十七中隊)

豫備砲兵 砲兵六中隊

第三軍團

軍團長 將官 Decaen

第一師團(歩兵十三大隊、砲兵三中隊、工兵一中隊)

第二師團(同右)

戰史ノ情況ヲ基礎トセル戰術及兵棋ノ研究



- 第三師團 (同右)
- 第四師團 (同右)
- 騎兵師團 (騎兵二十八中隊)
- 豫備砲兵 砲兵八中隊

第四軍團

軍團長 將官 Laminault

- 第一師團 (歩兵十三大隊、砲兵二中隊、工兵一中隊)
- 第二師團 (同右)
- 第三師團 (同右)
- 騎兵師團 (騎兵十六中隊)
- 豫備砲兵 砲兵十六中隊

第六軍團

軍團長 元帥 Cannobert

- 第一師團 (歩兵十三大隊、砲兵三中隊)
- 第二師團 (歩兵三大隊、其ノ他、Châlonsノ野營地ニ在リ)

第三師團 (歩兵十二大隊、砲兵三中隊)

第四師團 (歩兵十二大隊其ノ他、Châlonsノ野營地ニ在リ)

第一豫備騎兵師團

師團長 將官 Parrail

第一旅團 (アフリカ輕騎兵第一、第三聯隊)

第二旅團 (アフリカ輕騎兵第二、第四聯隊)

騎砲兵第五、第六中隊

豫備騎兵第二師團

師團長 Forton

第一旅團 (龍騎兵第一、第九聯隊)

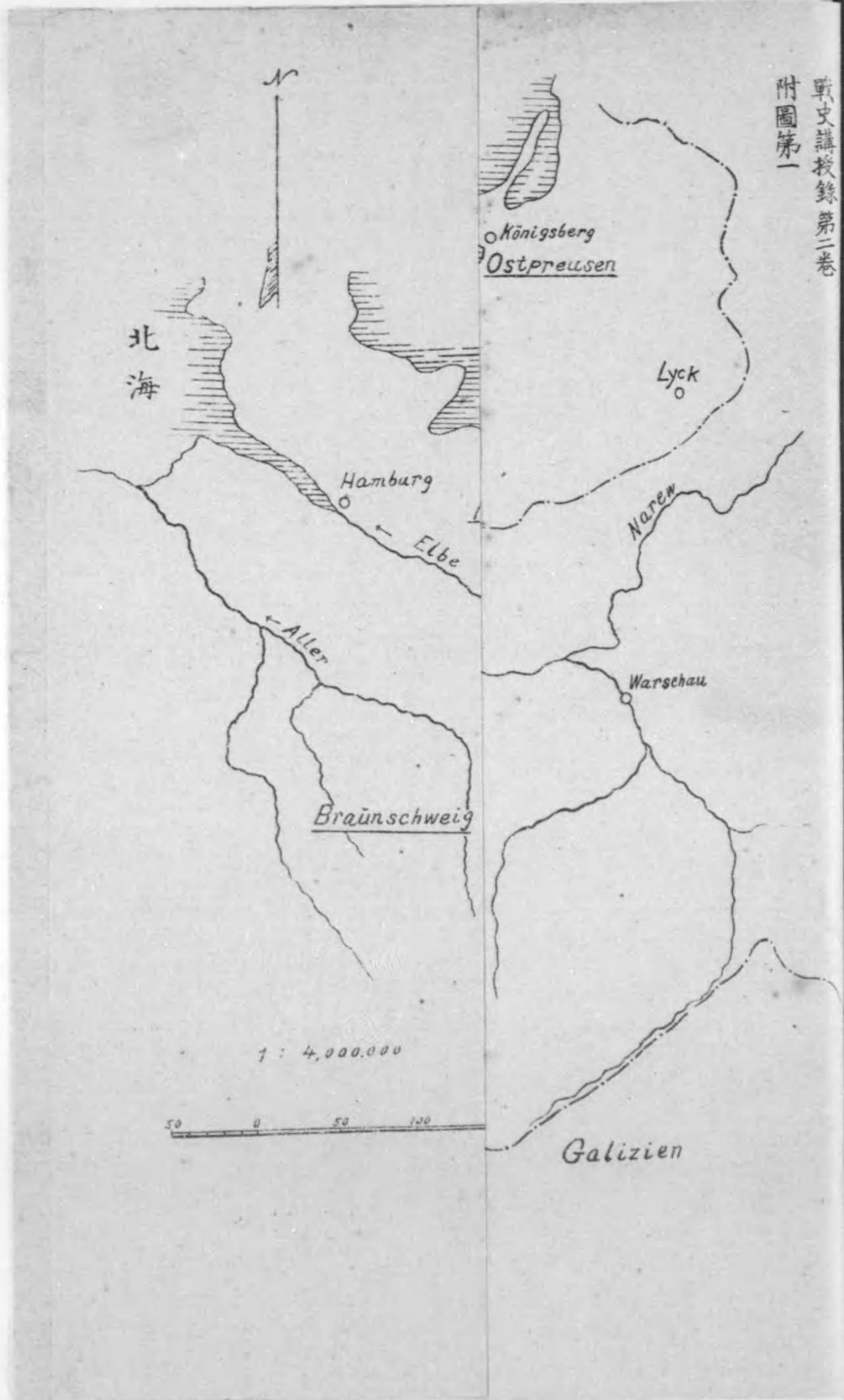
第二旅團 (胸甲騎兵第七、第十聯隊)

騎砲兵第七、第八中隊

研究上ノ注意

一、此問題ハ想定ニ依リバツェン元帥ノ決心ヲ研究シタル後更ニMosel川右岸ニ於テ獨逸第一軍ニ對シ東方ニ向ヒ攻勢ヲ取ルカ或ハ第二軍ノ側面ニ向ヒ攻勢ヲ取ル場合ヲ研究セハ興味





戰史講授錄 第二卷 終

深シ

二、本規定ハ千九百十三年 V. Brück 大將起案ノモノニ依ル

二、原形的情況ニ依ル想定ニ付テ

本書第一、第二兩卷ニ於ケル各種ノ戰況ハ多ク此見地ニヨリ指揮官ノ情況判斷、決心、處置ヲ研究セシメタリ

三、第二ノ要義ニ基ケル想定ニ付テ(戰史的情況ニ若干ノ變化ヲ加ヘタルモノ)

本書南山附近ノ戰鬪(下)第三十一節研究問題トシテノ假定情況ハ此主旨ニヨリ作爲セリ

注意 本研究ハ機ヲ見テ將來尙補遺ヲ期ス



國獨ルケ於ニ紀世八十

戰史講授錄第二卷  
附圖第一



戰史講授錄第二卷終

本書南山附近ノ戰圖(下)第三十一節研究問題トシテノ假定情況ハ此主旨ニヨリ作為セリ  
注意 本研究ハ機ヲ見テ將來尙補遺ヲ期ス



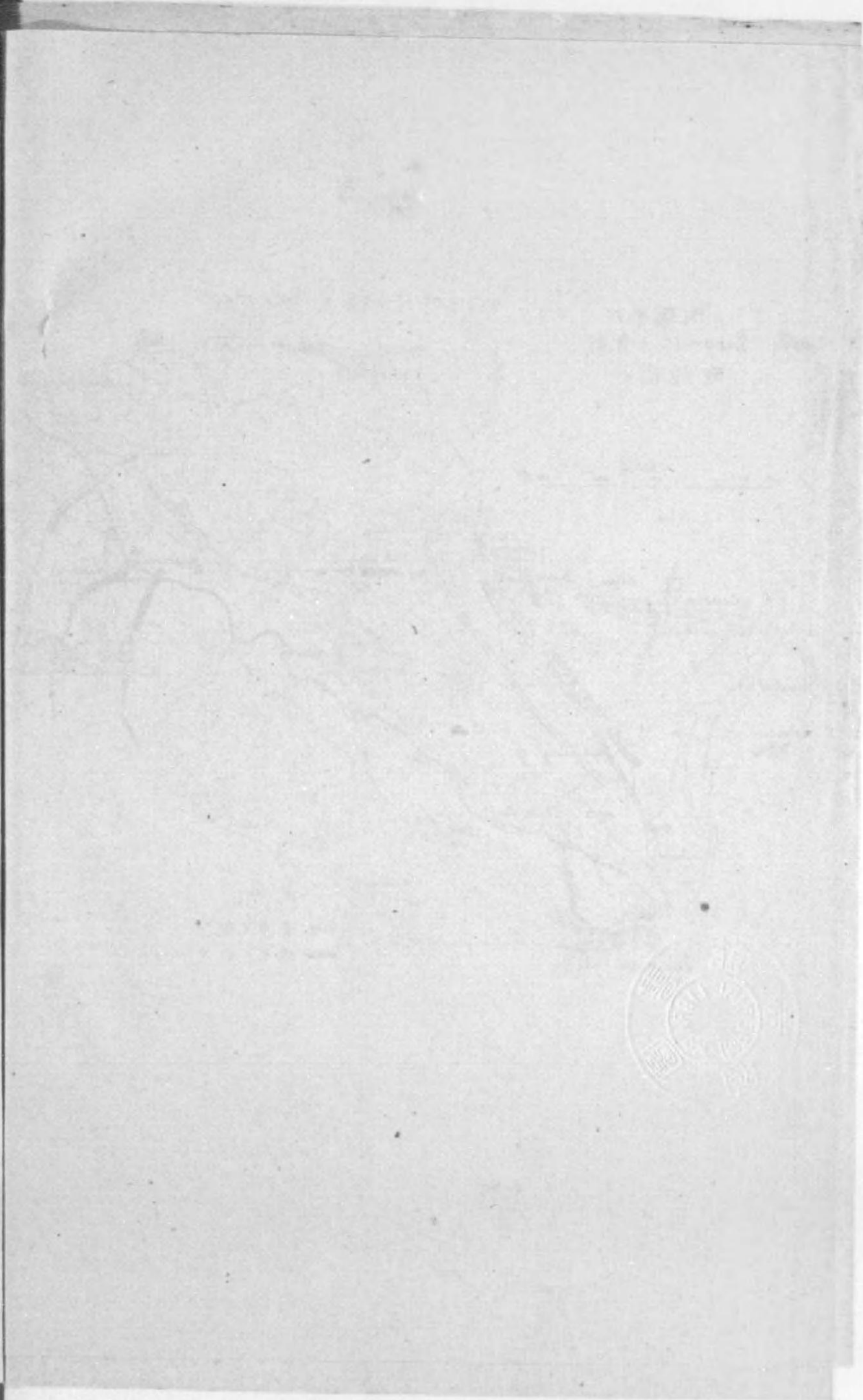
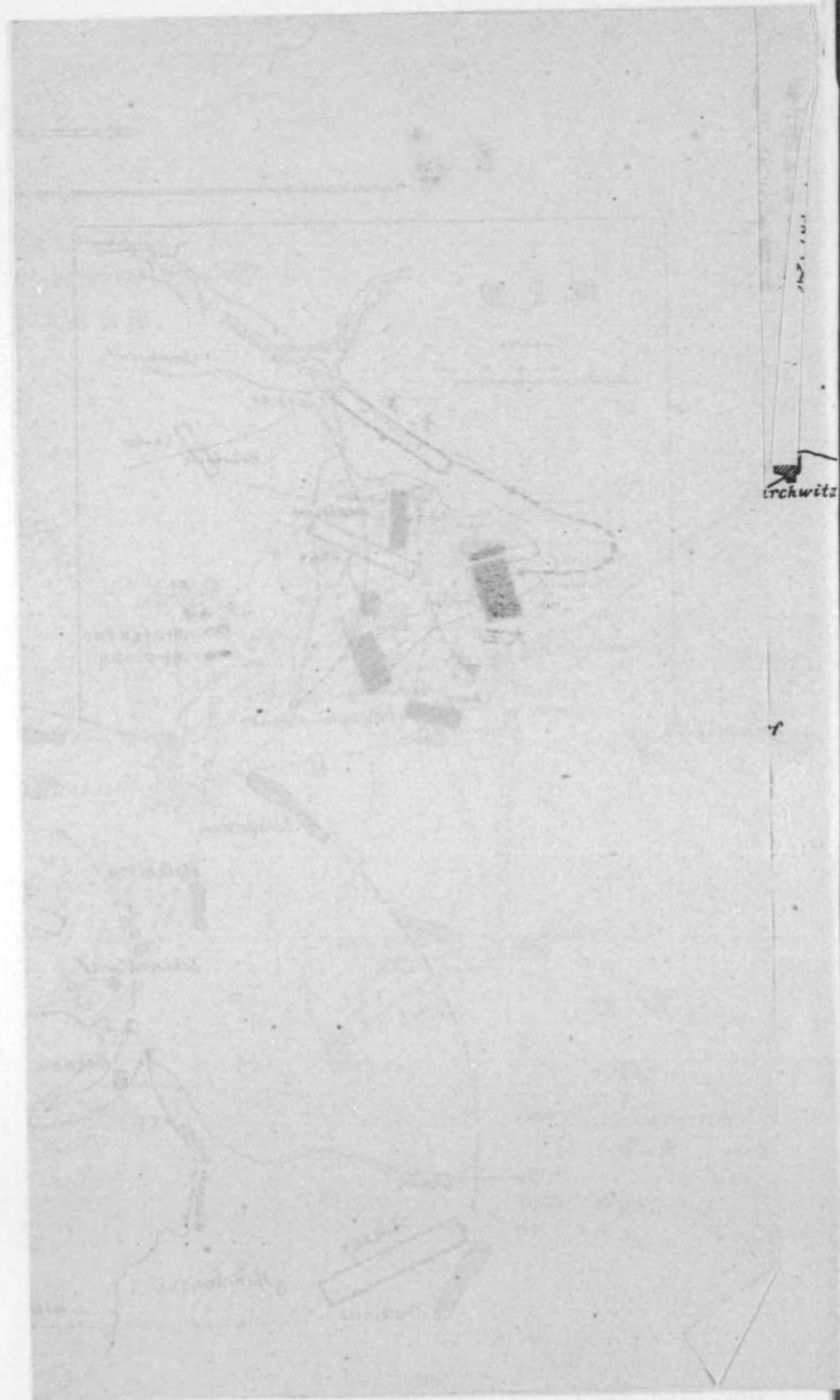
附圖第四  
 Liegnitz 會戰  
 戰圖(一)

午前三時頃 / 情況 (1760)

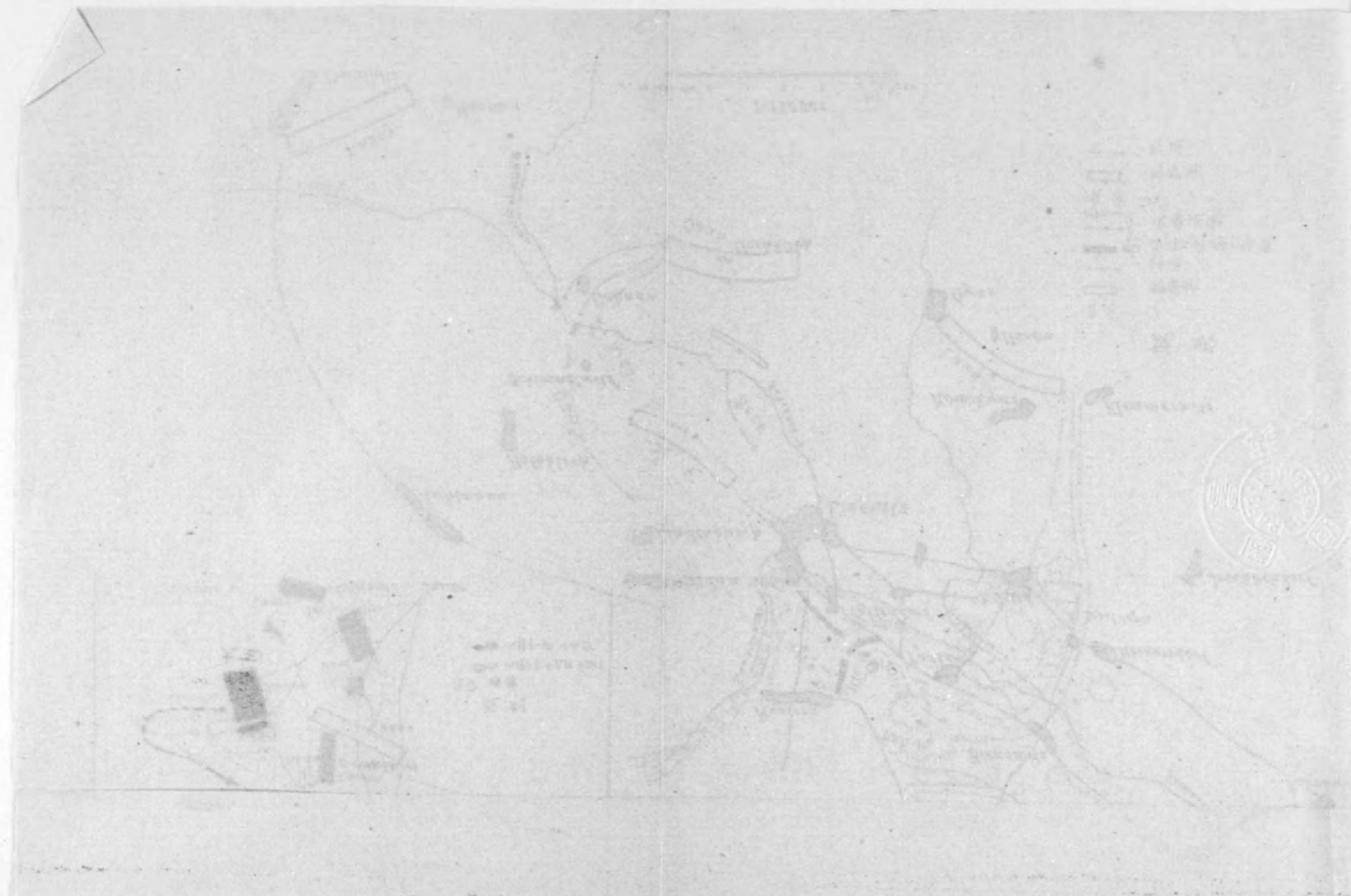


附圖第四









附圖第二  
 Dresden-Liegnitz-Breslau  
 地方一般圖



戰史講授錄第二卷  
 附圖第二第三







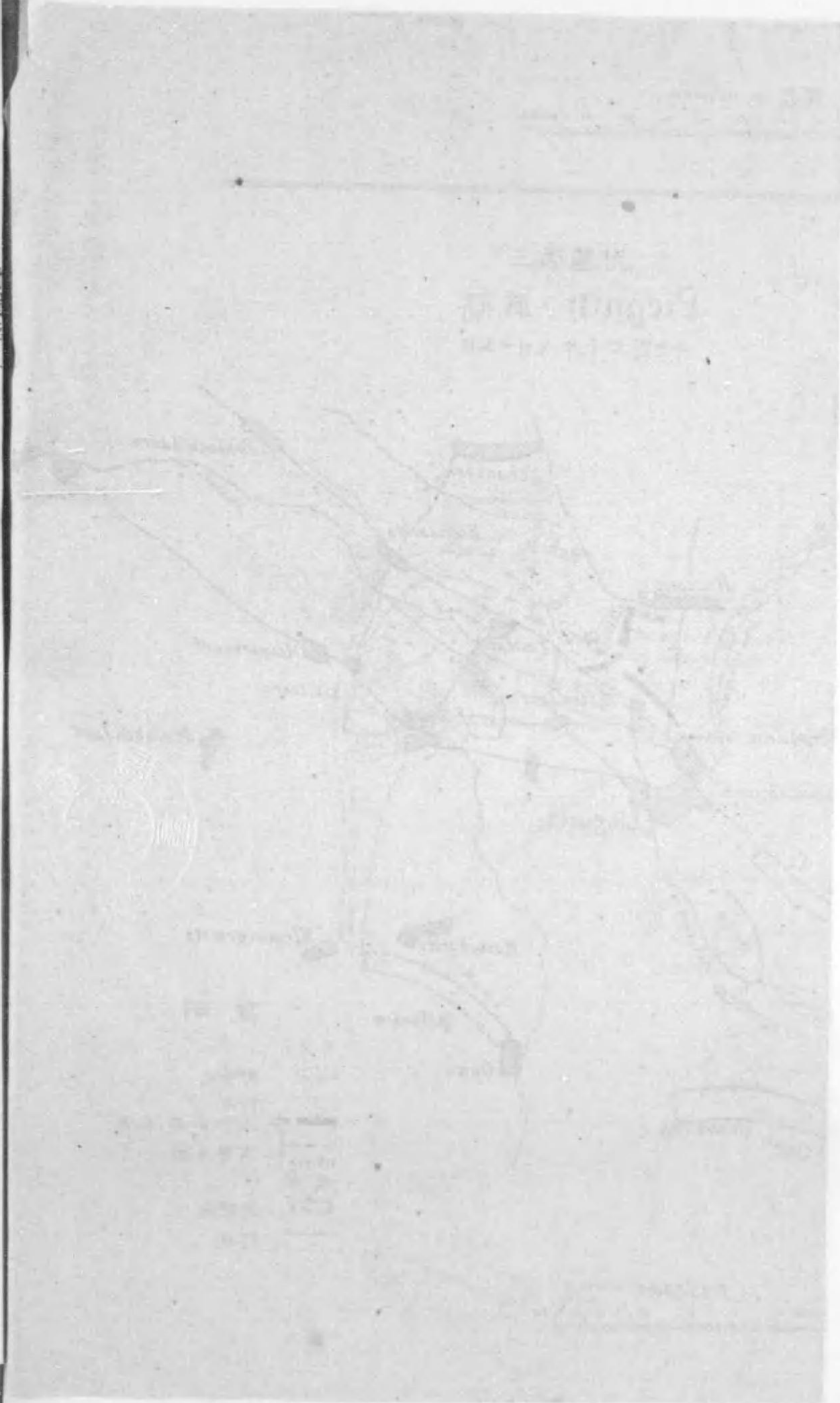
附圖第五  
Liegnitz / 會戰  
戰圖(二)

午前四時頃 / 狀況 (15/8.1760)



- 說明
- 普軍
  - 俄軍
  - ▤ 右翼 = 在 1) 擧軍騎兵普 / Krockow 龍騎兵隊 向 = 展開
  - ▥ 右翼 = 在 2) 擧軍騎兵普 / Bilow 旅團 = 衝突

附圖第五









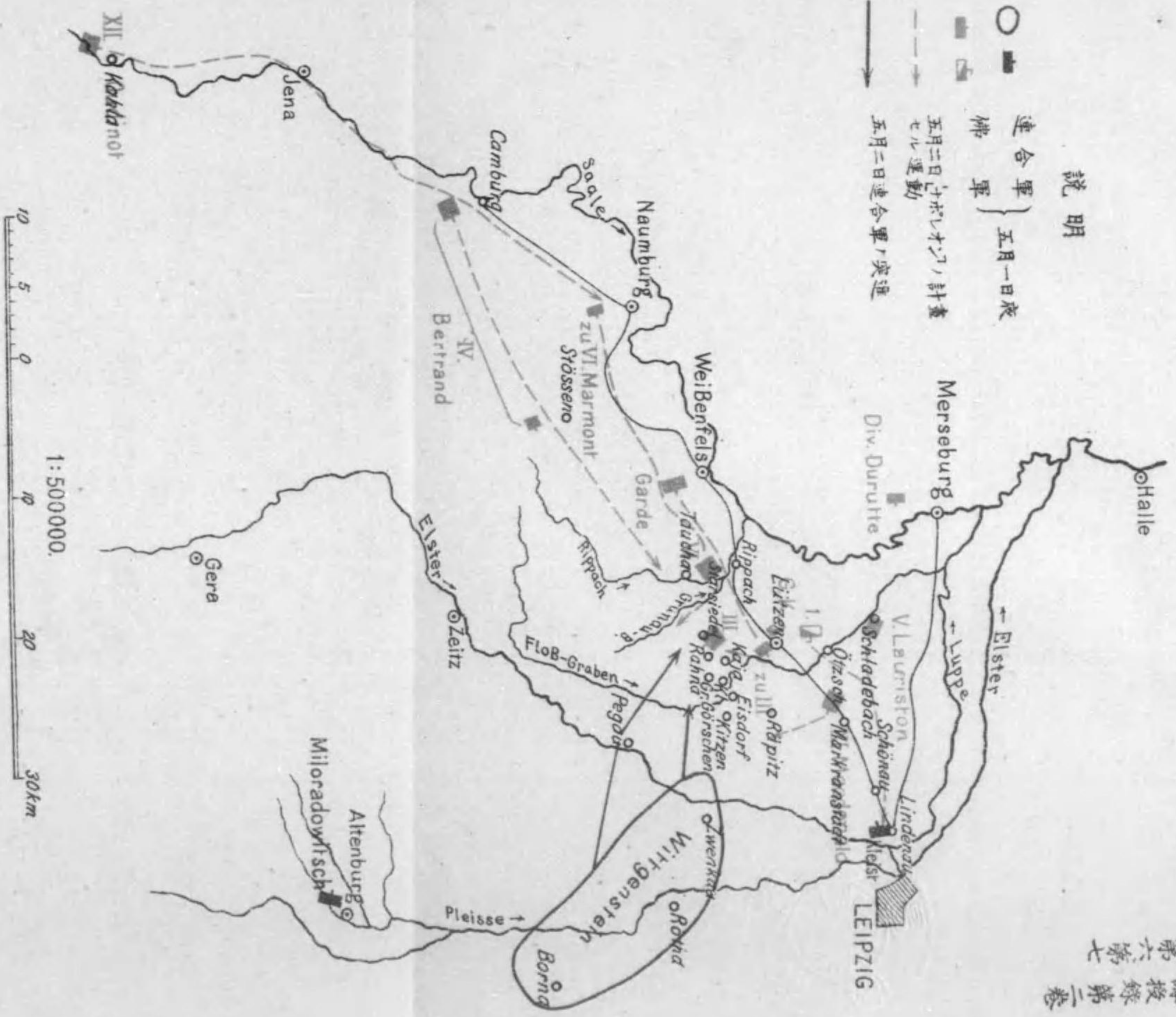
### Groß-Görfelden 會戰

十八百十三年五月二日

戰史講義錄第二卷  
附圖第六第七

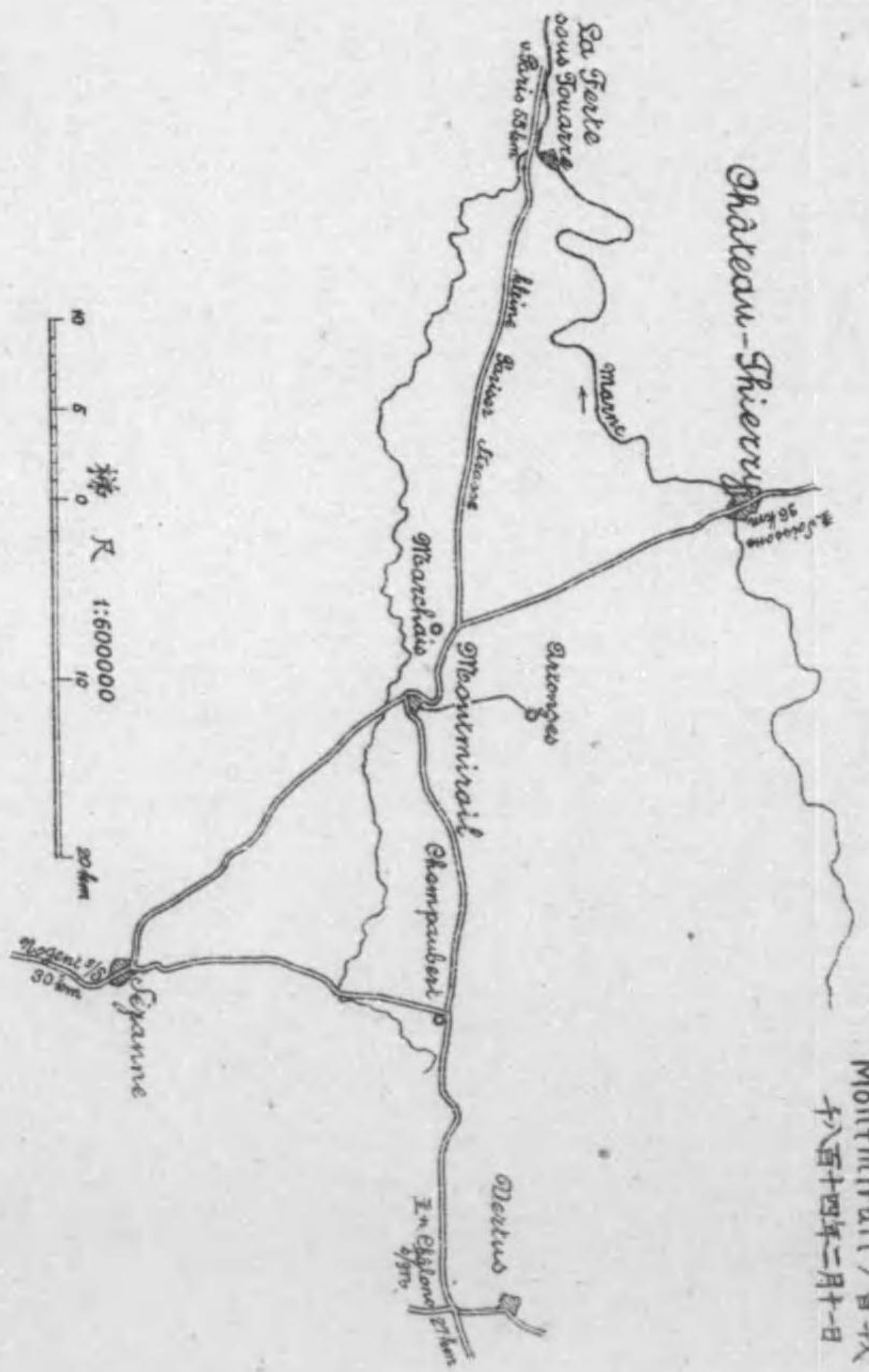
#### 說明

- 連合軍
- 佛軍
- 五月一日夜  
五月二日「ホロイ」計畫  
の運動
- 五月二日連合軍「突進」



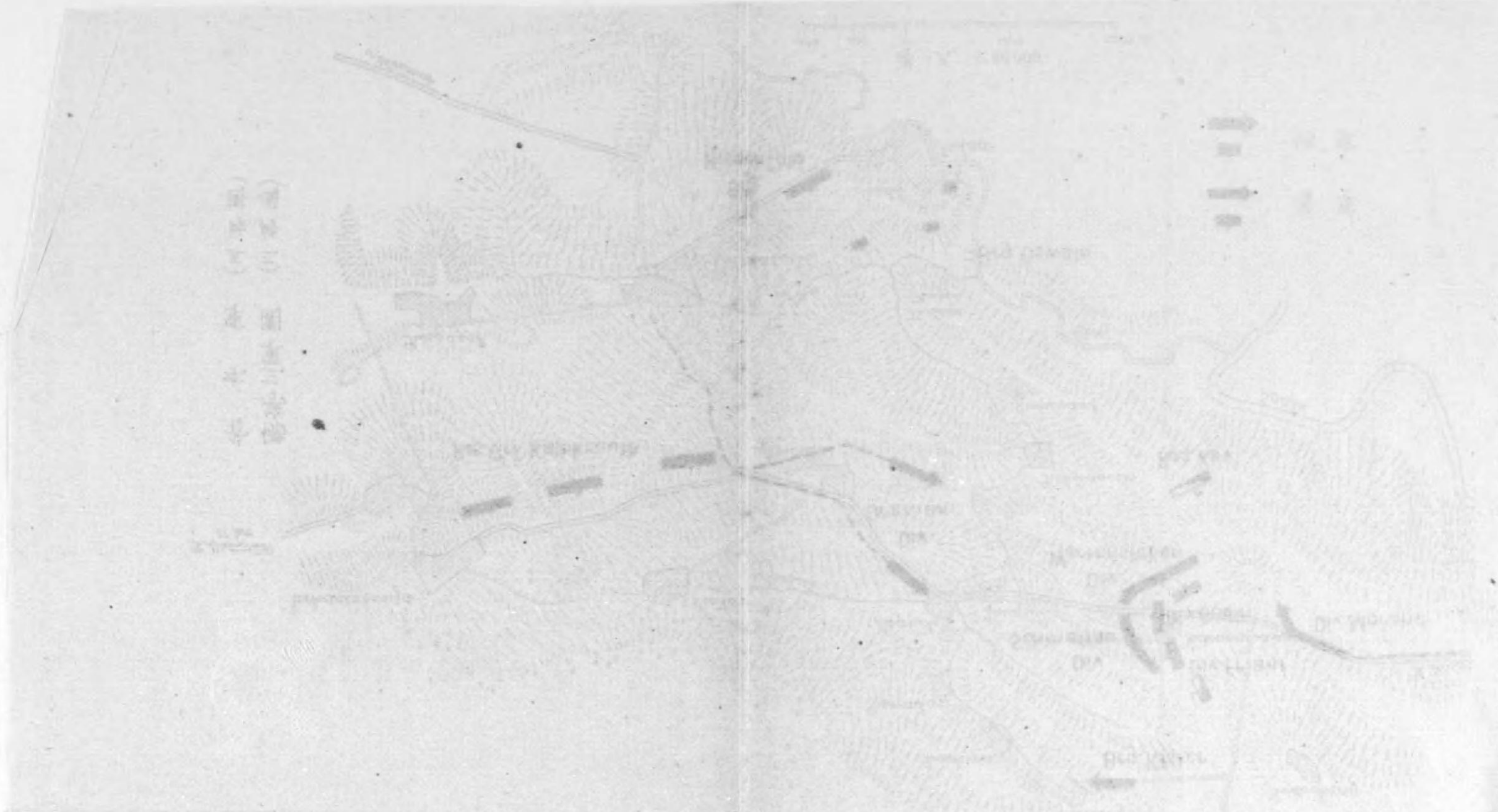
1:500000  
0 5 10 20 30 km

附圖第七  
Montmirail 會戰  
十八百十四年二月十一日



1:500000  
0 5 10 20 30 km





附圖第八 (其二)  
Auerstedt 戰前, 形勢 (二)



附圖第八 (其一)  
Auerstedt 戰前, 形勢 (一)



戰史講授錄 第二卷  
附圖第八 其一 其二 其三



Auerstedt 戰前，形勢 (二)



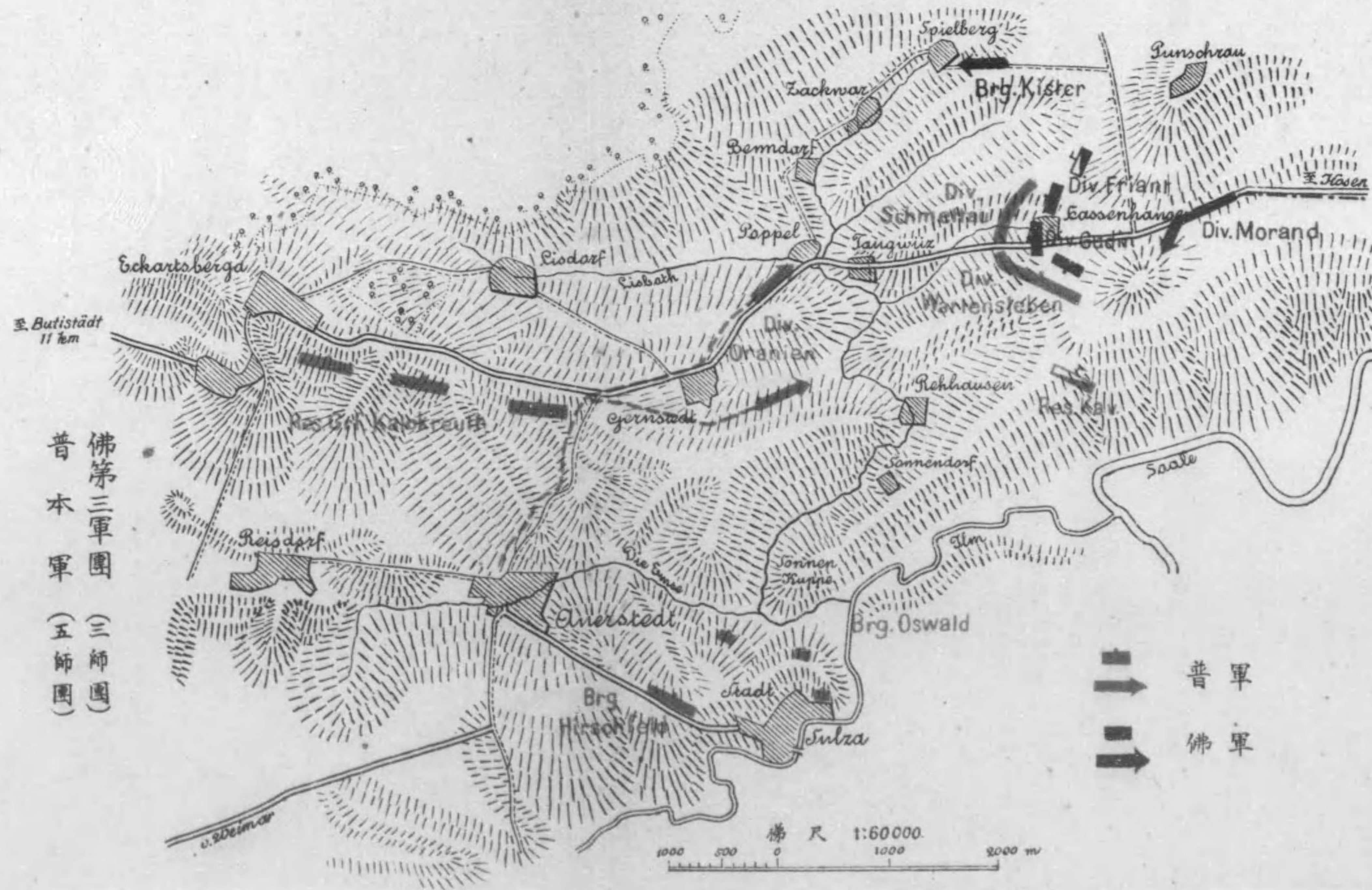
Auerstedt 戰前，形勢 (一)



史講授錄第二卷  
圖第八其一二其三

附圖第八 (其三)

Auerstedt 附近，會戰圖  
於千八百六年十月十四日

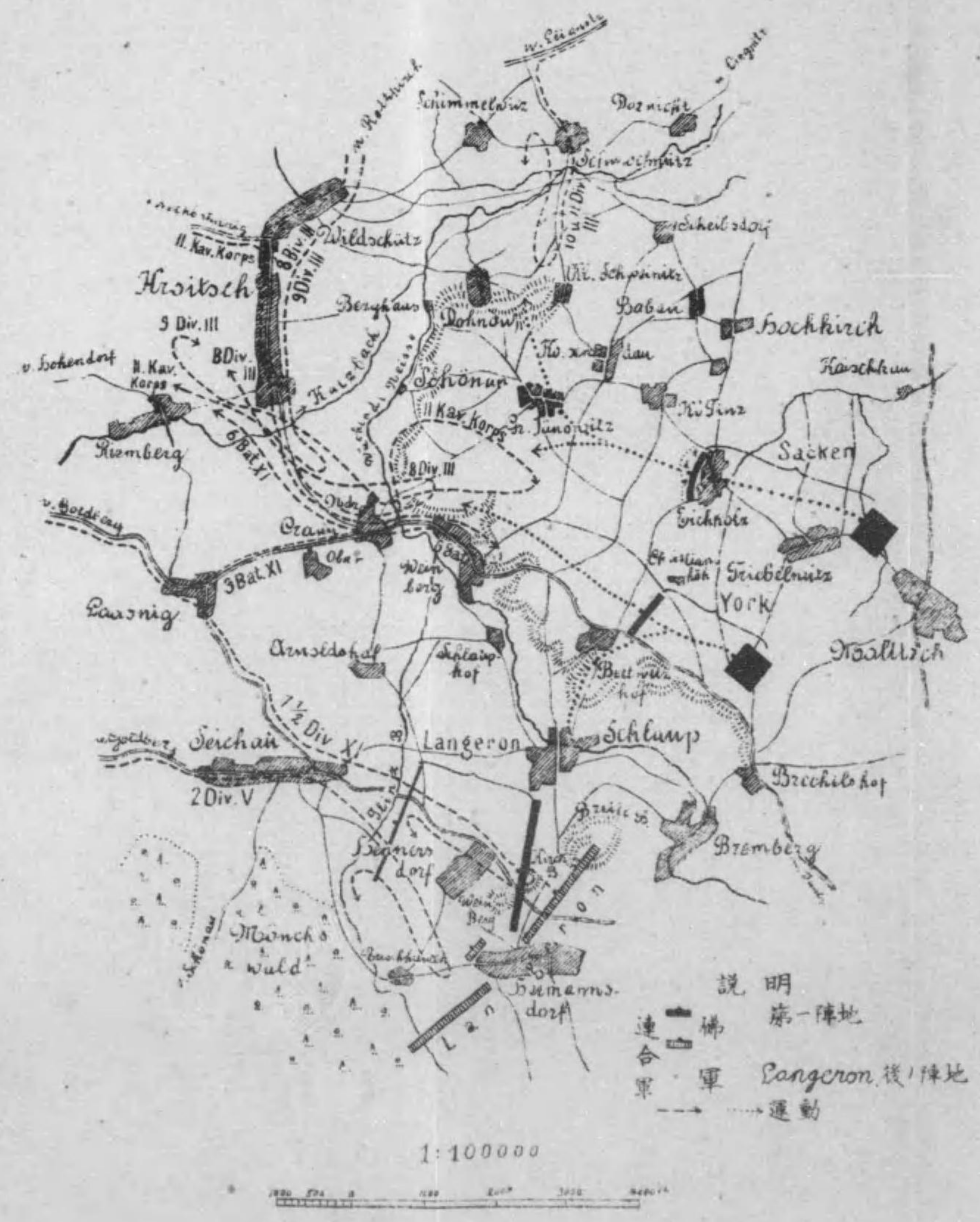


普  
佛  
本  
第  
三  
軍  
團  
軍  
(  
五  
師  
團  
)  
(  
三  
師  
團  
)

普軍  
佛軍



附圖第九(其二)  
 Ratzbach附近會戰  
 一千八百十三年八月二十六日



附圖第九(其一)  
 Ratzbach會戰前情況

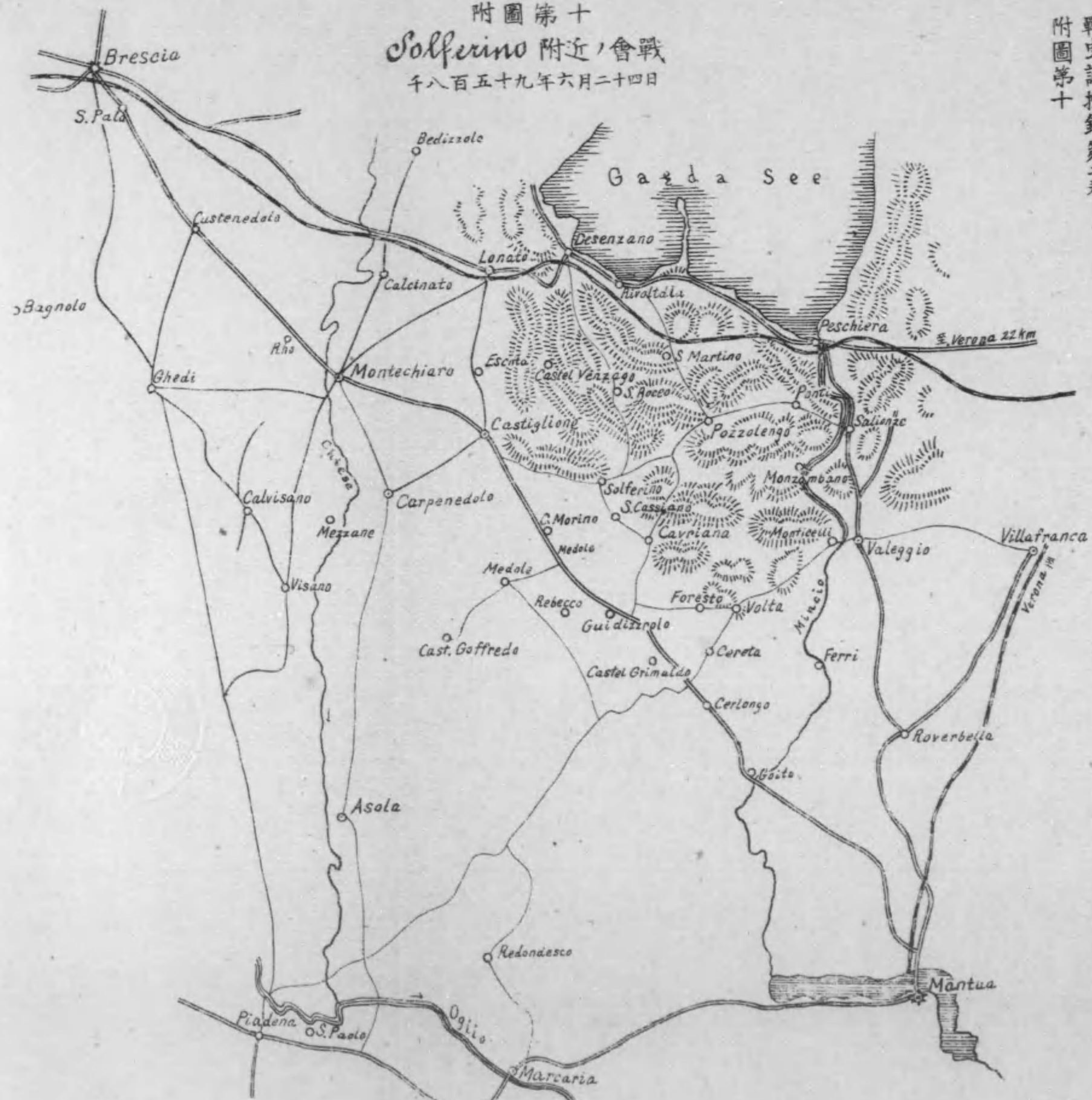


戰史講義錄第二卷  
 附圖第九其一二其二



附圖第十  
 Solferino 附近，會戰  
 千八百五十九年六月二十四日

戰史講授錄第二卷  
 附圖第十

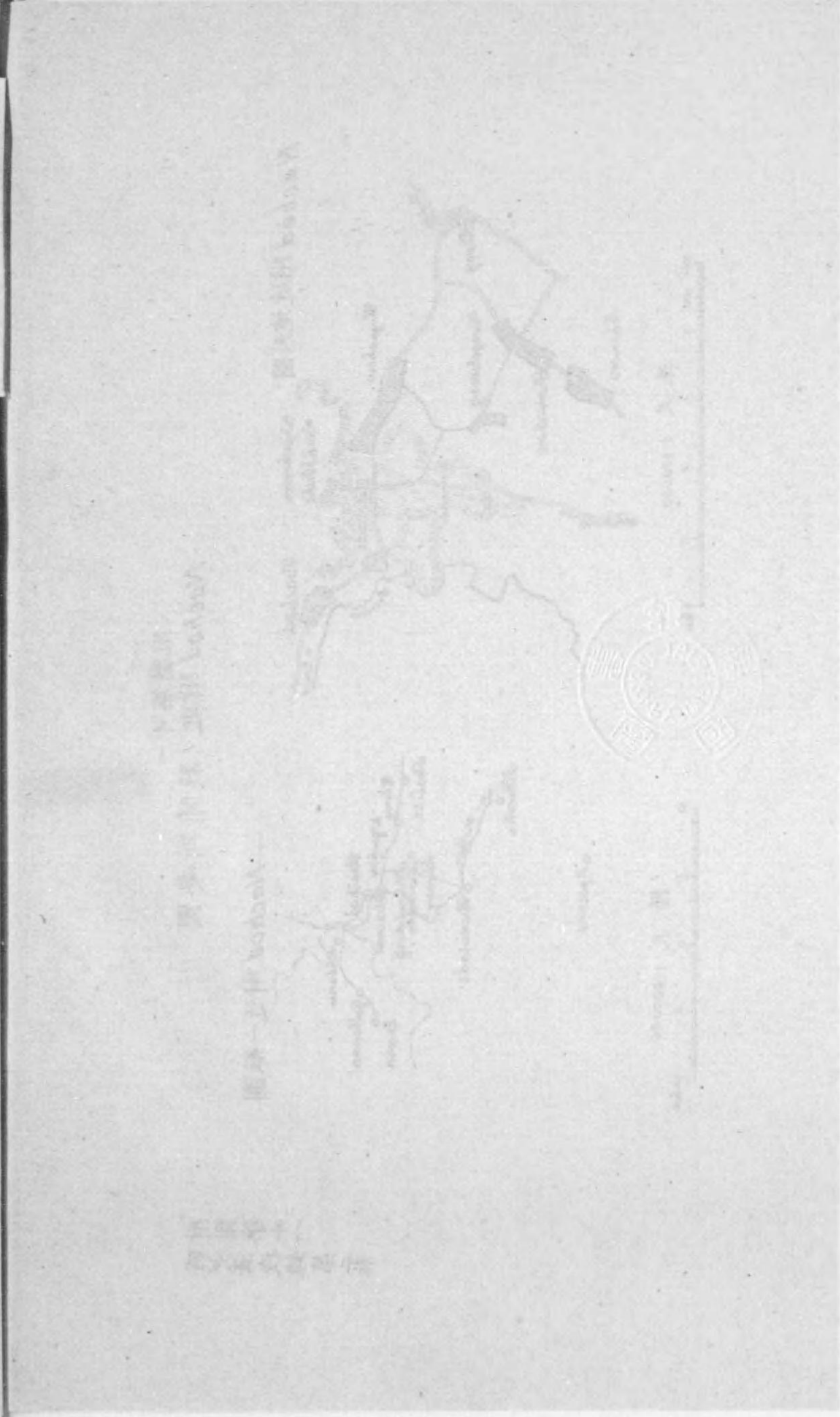


梯尺 1:300000  
 5 10 15 Kilometers





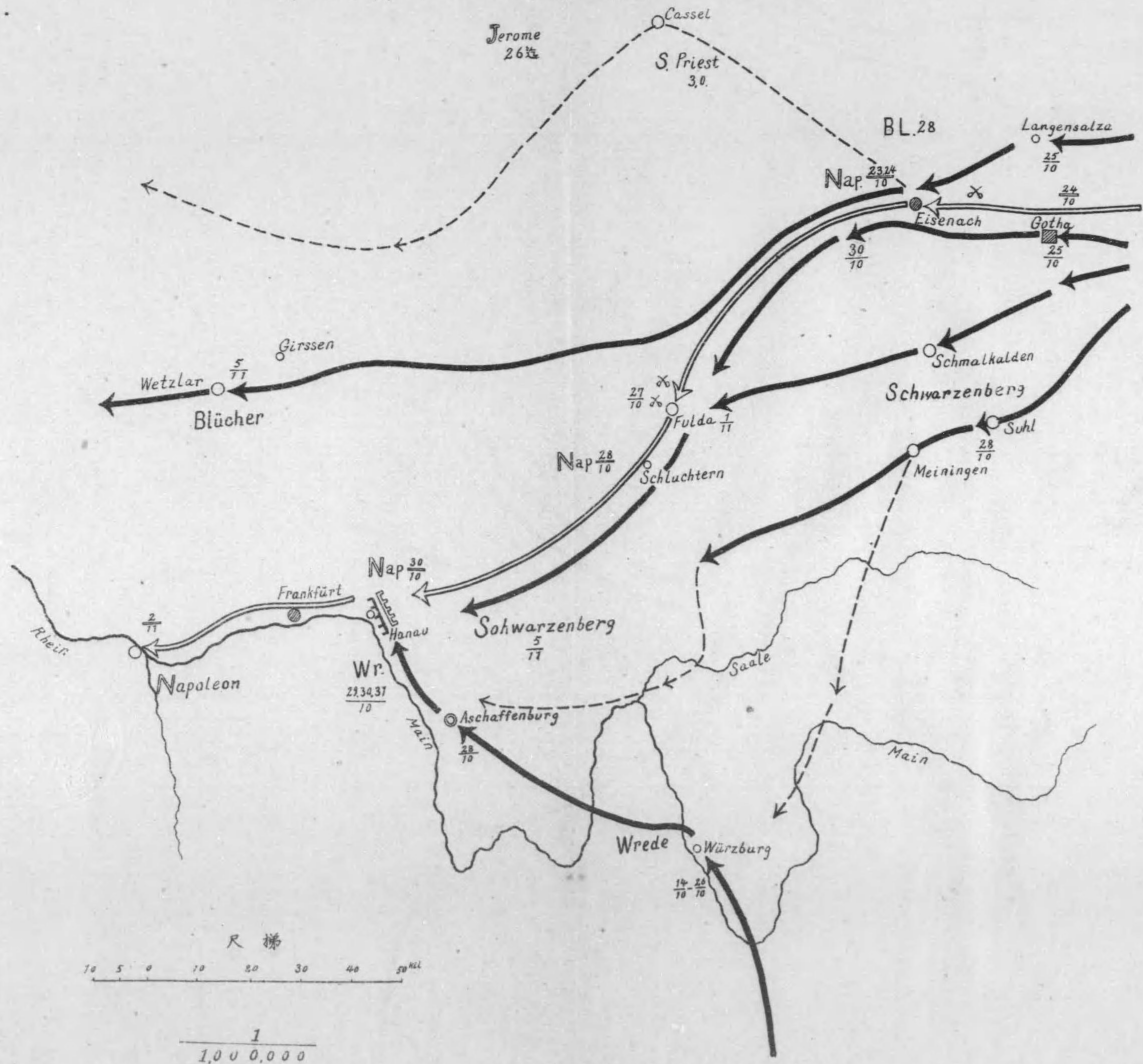






二十第圖附  
擊追略戰、Wrede並却退、翁奈年三十百八千

戰史講授錄第二卷  
附圖第十二

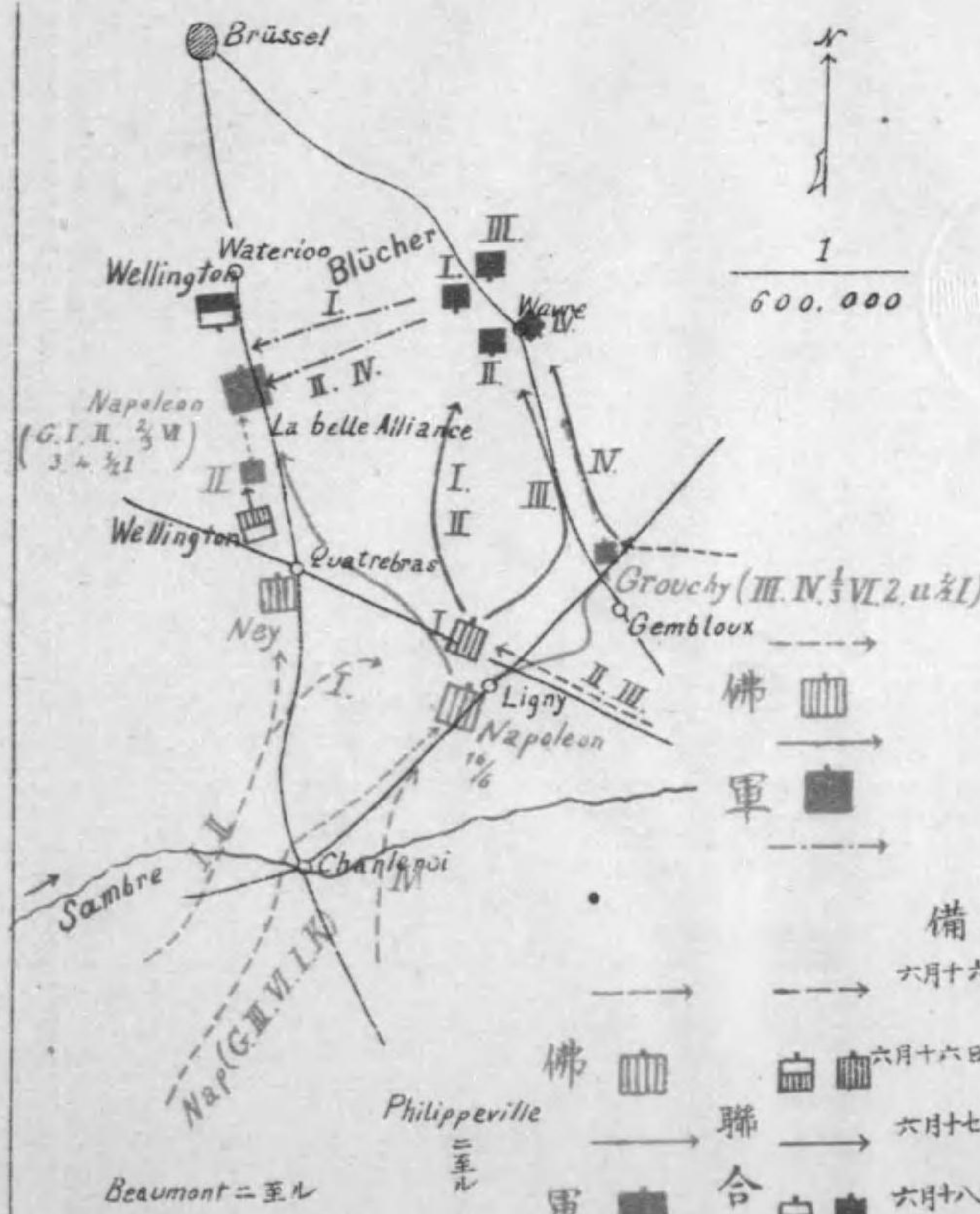
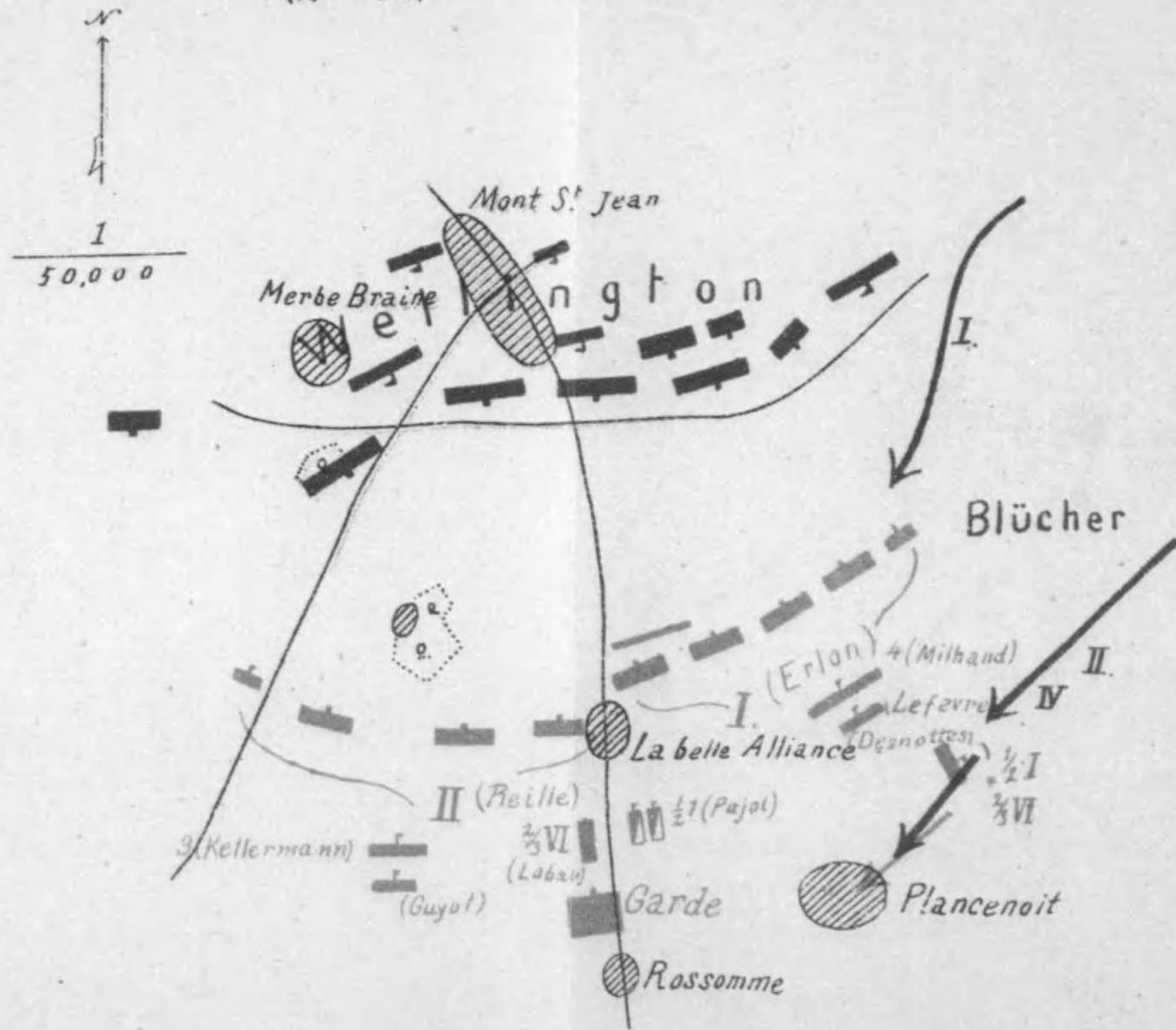




三十第圖附

戰會ノ近附スノアリアルベ、ラ日八十月六

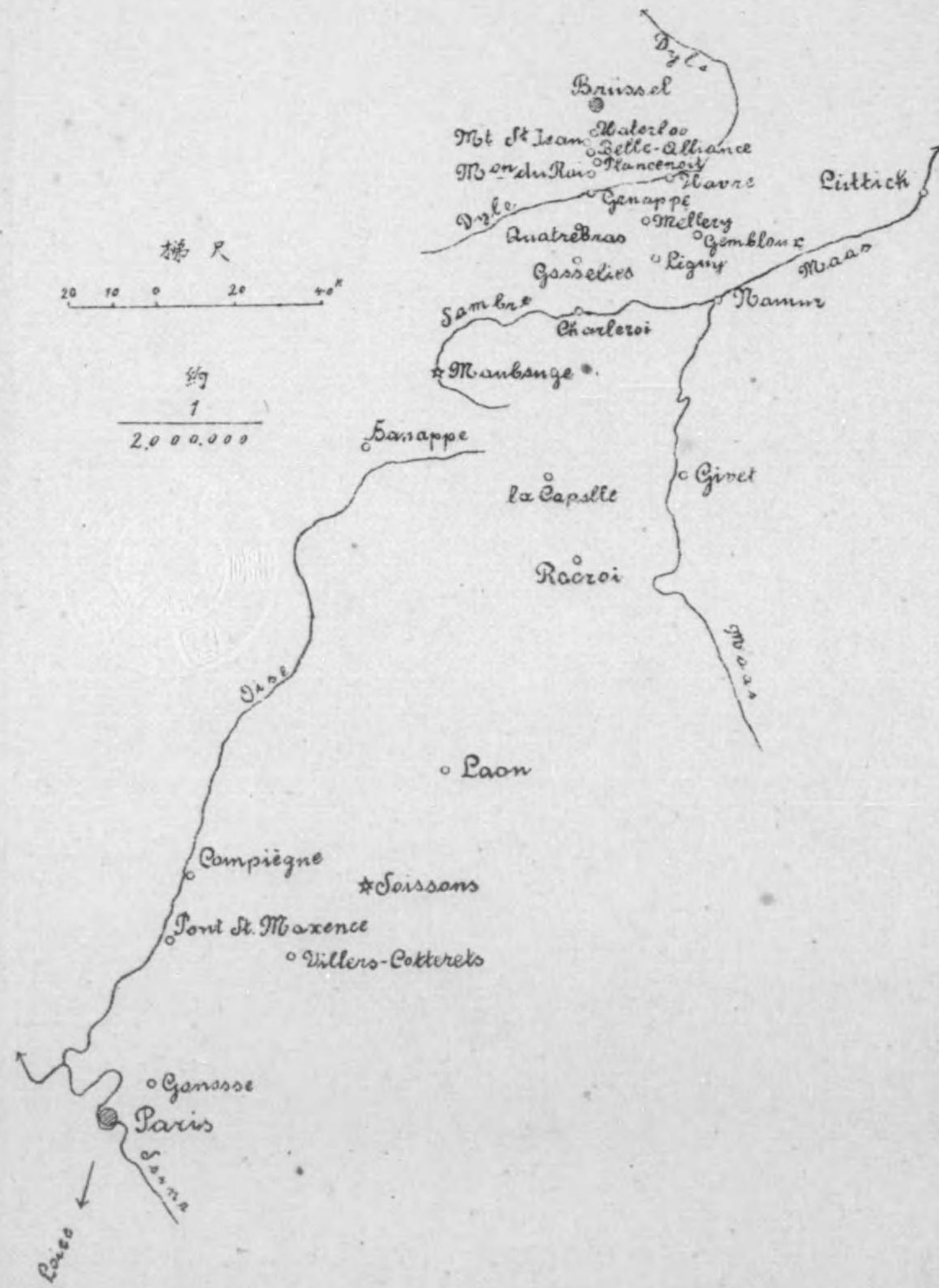
勢形ル至ニ戰會スノアリアルベ、ラ年五十百八千  
(況状日八十月六至日六十月六自)



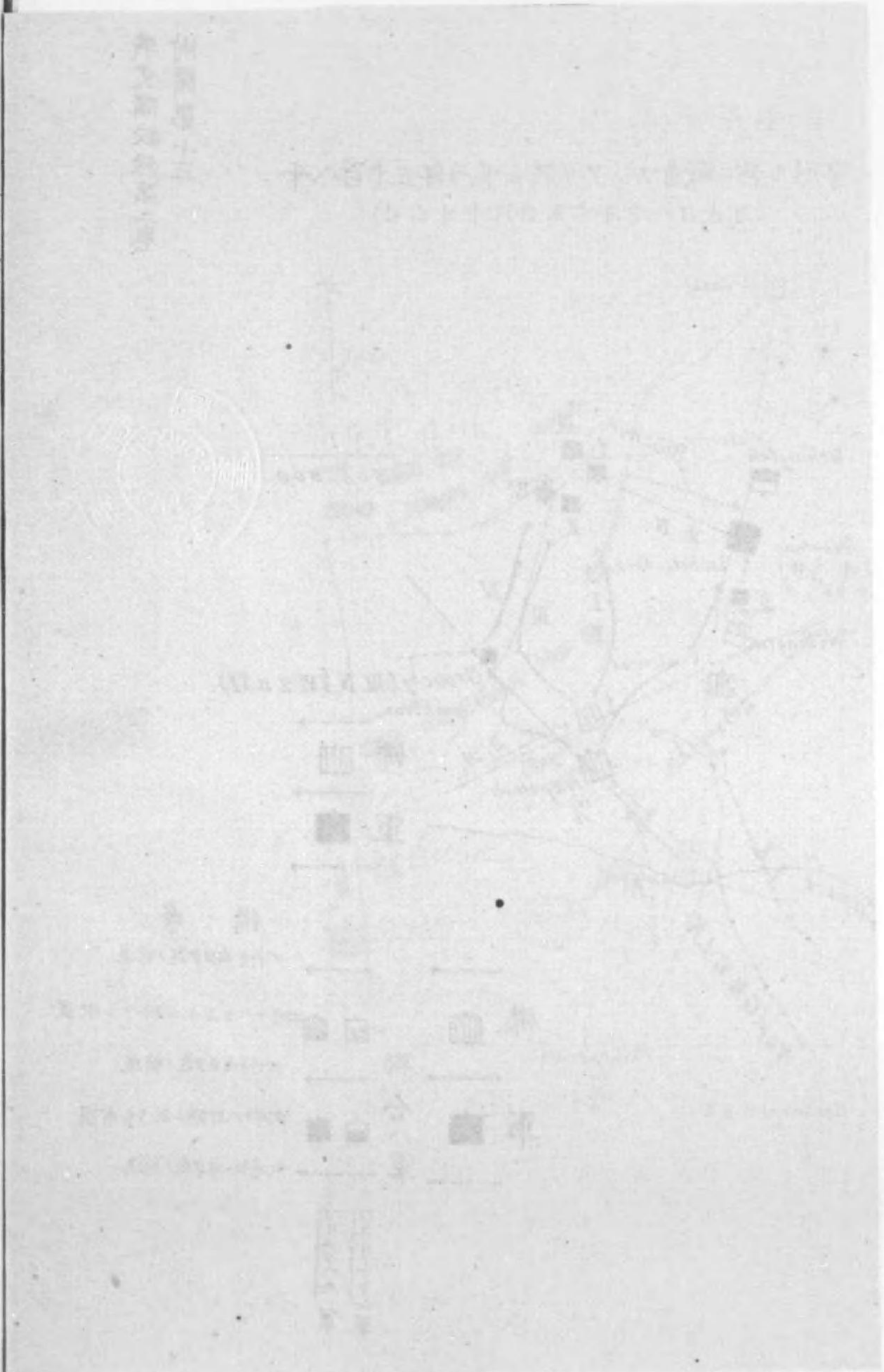
- 備考
- 六月十六日夕迄ノ前進
  - 六月十六日正午ニ於ケル配置
  - 六月十七日夕迄ノ前進
  - 六月十八日朝ニ於ケル配置
  - 六月十八日夕迄ノ前進
- 佛軍 (White square symbol)
- 聯軍 (Black square symbol)
- ウエリントン軍 (Dotted line)
- ブリュネル軍 (Dotted line)



附圖第四十  
 千八百五十五年戰役戰地一覽圖

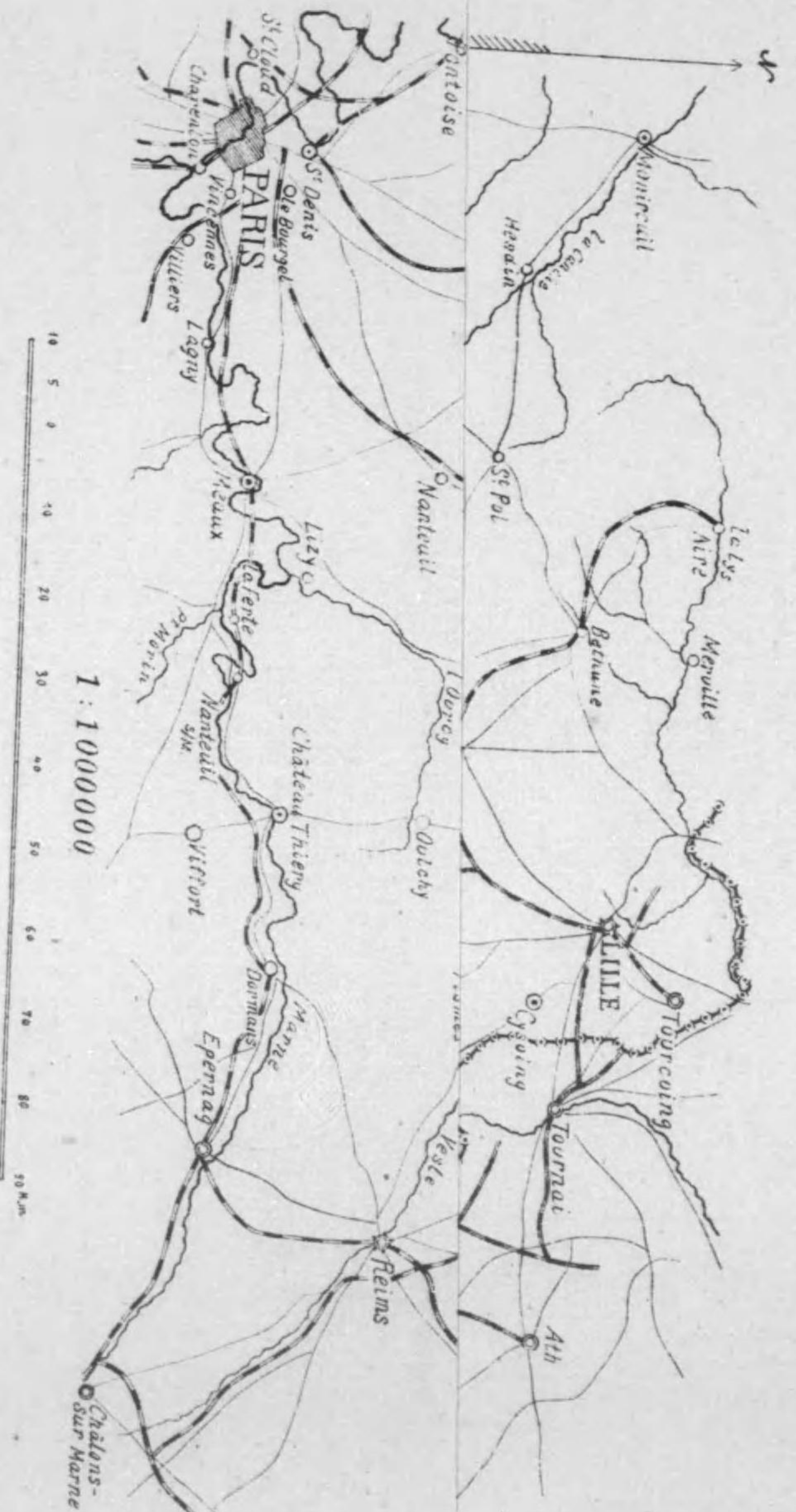


附圖第十四





圖覽一地戰作部北國佛比於二役戰佛普

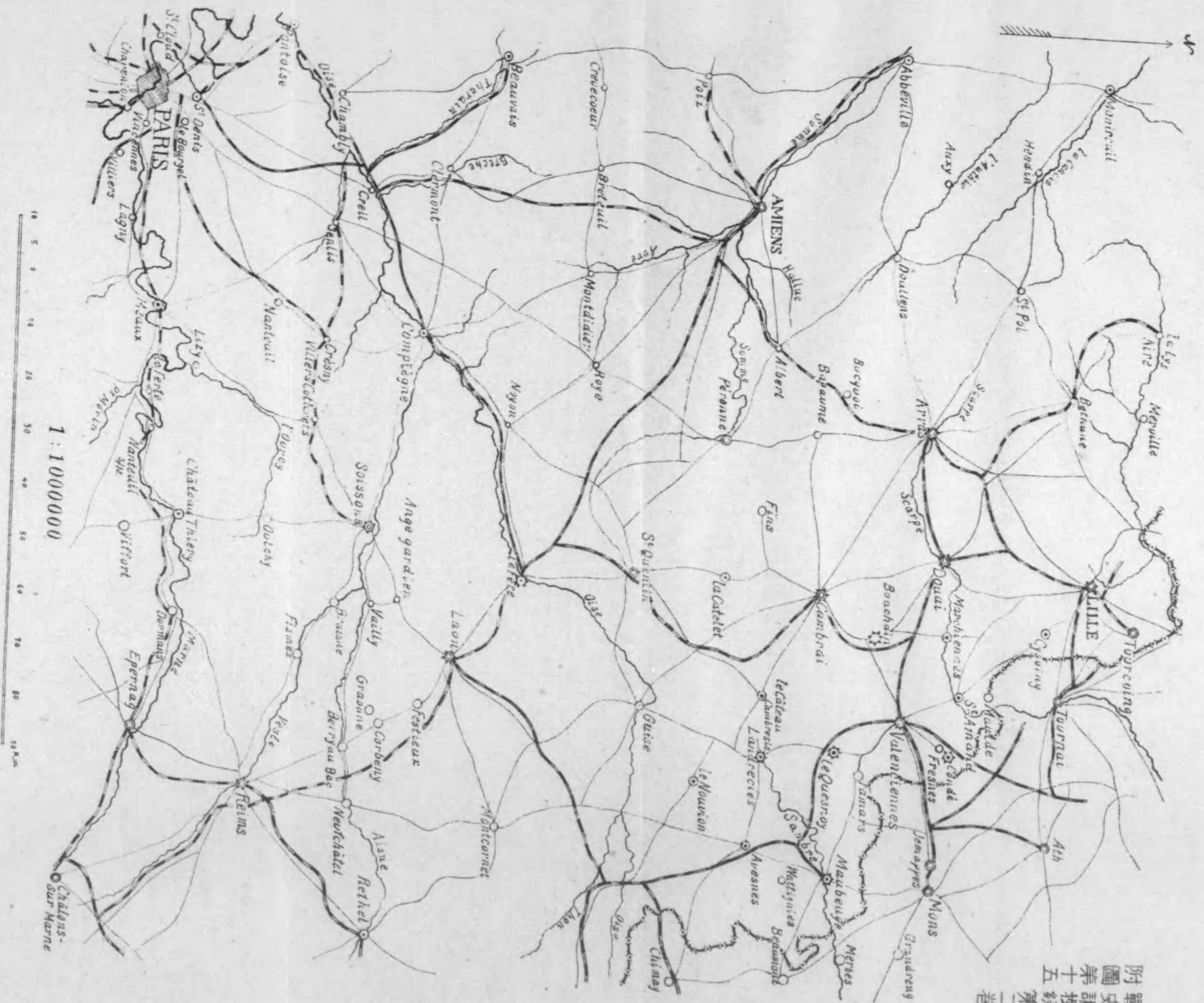


附圖第十五  
戰史講授錄 第一





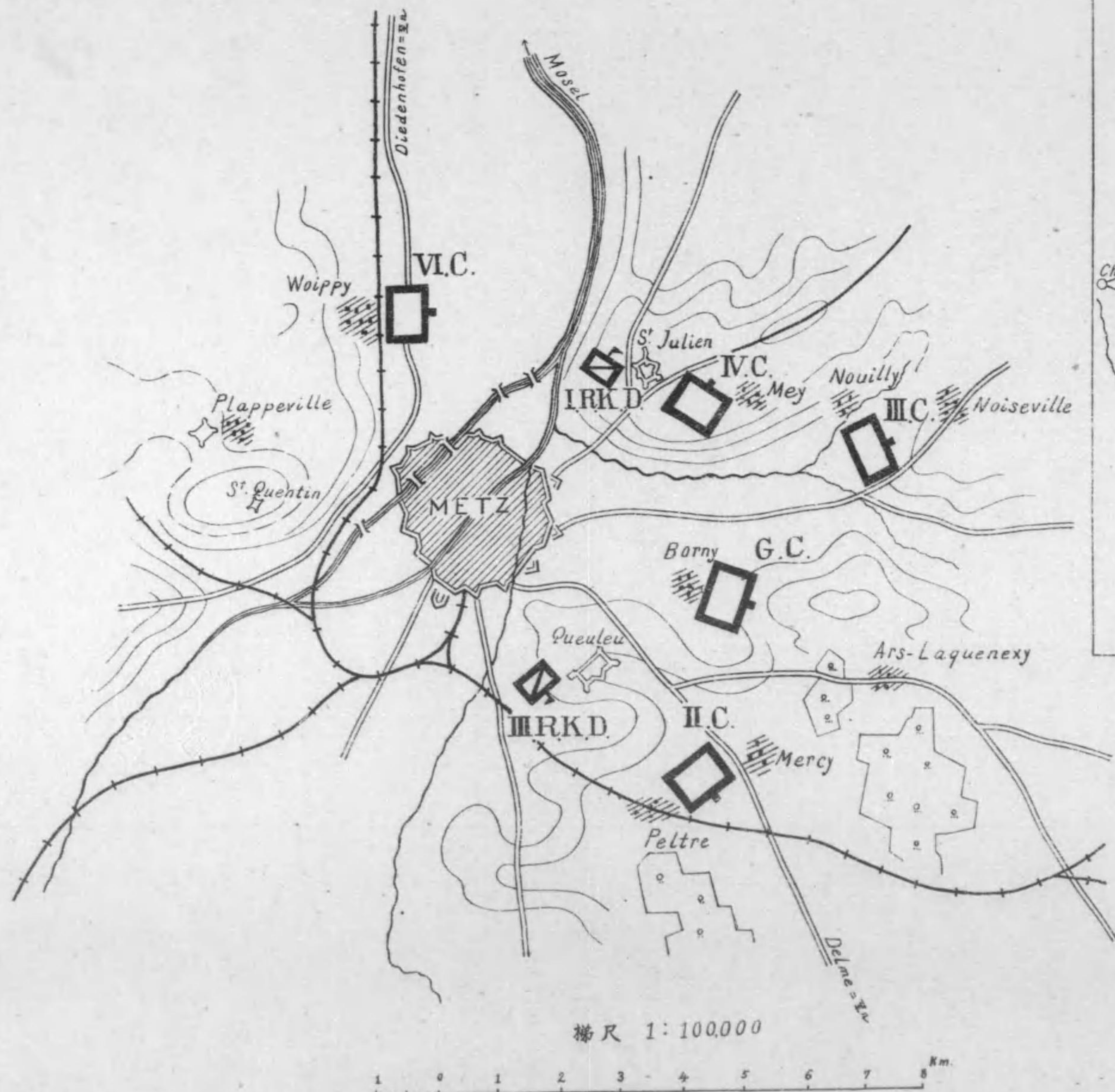
圖覽一地戰作部北國佛比於一役戰佛普



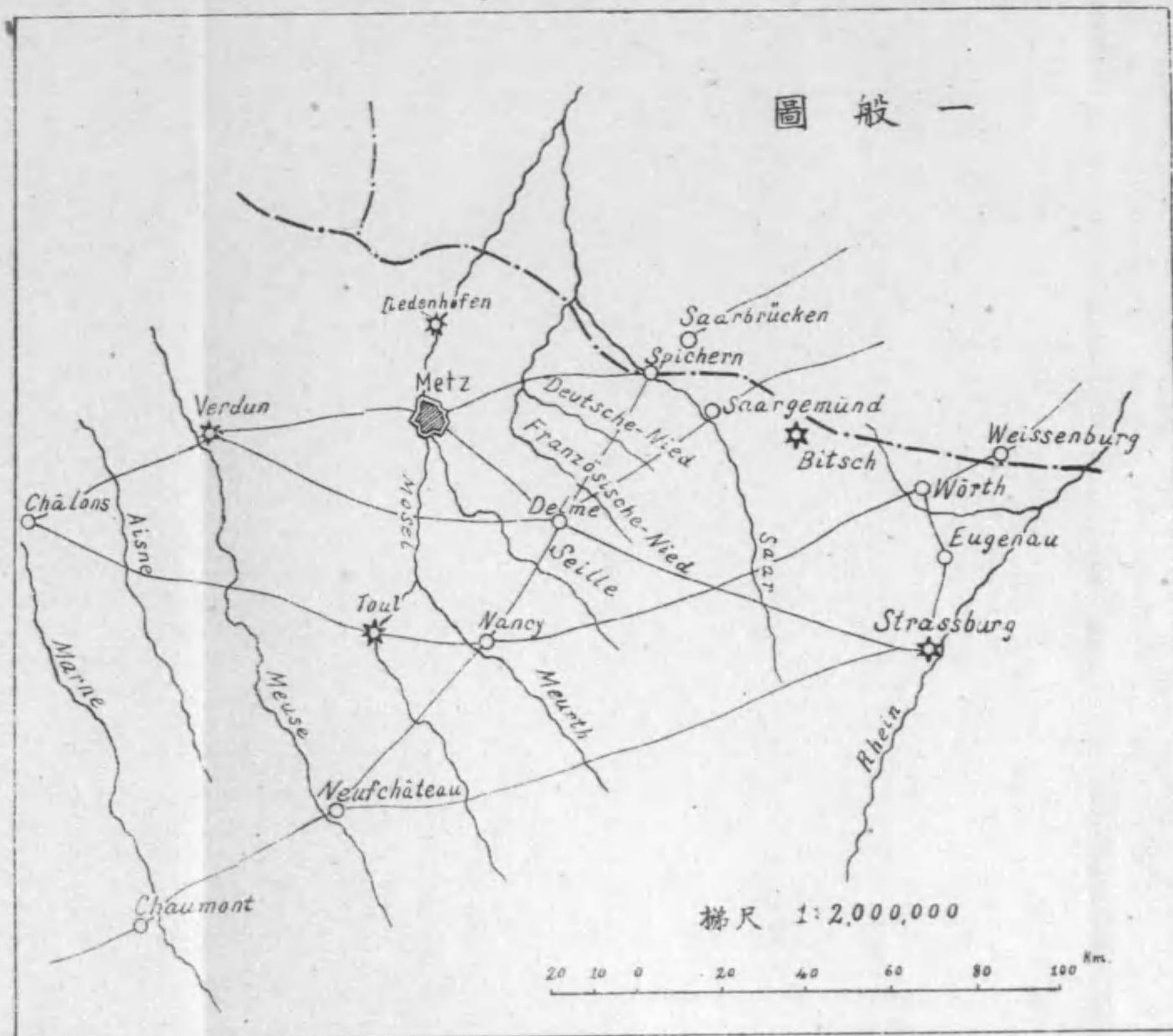
戰史講授錄 第二卷 附圖第十五



圖附定想一第



圖般一



戰史講義錄第二卷  
附圖第十六

第一卷附圖第十六



大正七年六月廿六日印刷  
大正七年七月一日發行

陸軍大學校將校集會所

東京市麴町區四番町六番地

田家秀樹

東京市神田區仲猿樂町十番地

忠誠堂印刷所

發行者兼  
印刷者

印刷所



319  
401



終

